

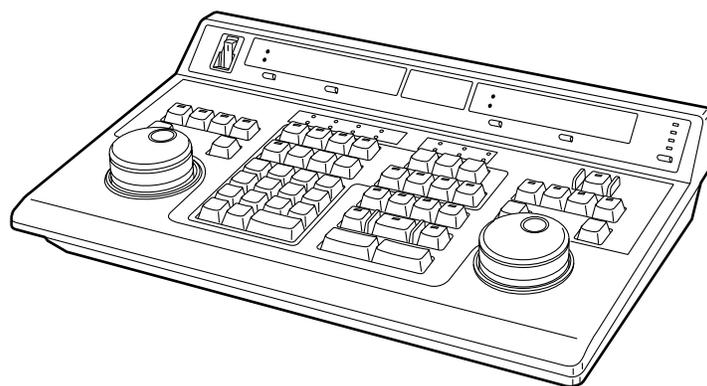
エディティングコントローラ

品番 AG-A850

取扱説明書

ご使用になる前にこの取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
そのあと大切に保管し、わからないとき再読してください。

第3版



保証書別添付

保証書は必ず「お買い上げの日・販売店名」等の記入を確かめて、販売店よりお受け取りください。

製造番号は品質管理上重要なものです。お買い上げの際は、製品本体と保証書の製造番号をお確かめください。

上手に使って、上手に節電

ご使用後は、忘れずに電源スイッチを切ってください。

はじめに

このたびは、AG-A850をお買い求め頂き誠にありがとうございました。

本機は産業用、学校用、スタジオ用、及び、CATV放送用を対象に開発された編集コントローラです。

編集機能の特長

簡易操作モード・シングルダイヤルモード

複雑な操作や、設定の必要がない簡易操作モードにより、簡単操作でカット編集ができます。また、高級コントローラのように片側のダイヤルのみの操作も可能です。

512イベントのマルチ編集

最大512のマルチイベントメモリーにより、カット数が多い番組制作でも、一気に連続自動編集が可能です。またデータは約3日間バックアップしますので安心です。

マルチEDL登録

マルチイベントメモリーを256イベント×2に分けることができ、2種類の編集を同時期に進行させることができます。

A/Bロール編集

2つのシーンを合成して編集する（ディゾルブやワイプ）など映像的効果の高い編集を制御できます。

シンクロール編集

プレーヤー2台の映像をスイッチャーで切り換えながら編集するシンクロール編集が可能です。

カラーフレーミング編集

VTRのカラーフレームロック機能を使った、カラーフレーミング編集が可能です。また、タイムコード基準を用いて、正確な同ポジ編集を行うこともできます。

オーディオスプリット編集

映像の編集点と音声の編集点をずらして編集する、オーディオスプリット編集に対応しています。設定はIN、EFFECT、OUT点のうち2ヶ所へ行え、マークキーを用いた簡易登録も可能です。

スロー編集

プレーヤーVTRがATに対応していれば、2倍速再生や逆再生といった、スロー編集ができます。

オートタグ機能

連続編集の登録に便利な、オートタグ機能をサポートしていますので、操作のスピードアップがはかれます。

リストマネージメント機能

EVENTの追加、削除、移動、複写、リナンバーなどマルチイベント編集では不可欠な機能をサポートしています。

インターフェイスの特長

5台のVTRを同時制御

5つのVTR用リモート端子（RS-422）を標準装備しています。また、最大3台までレコーダーとして同時に制御できますので、一度に3巻のマスターテープを作成することもできます。

スイッチャー・ミキサーを制御

ビデオスイッチャーとオーディオミキサー用のリモート端子（RS-422）を標準装備しています。スナップショット、デジタルプロセスディレイの補正などの機能も備えています。

2個のGP1ポート

GP1端子（ピンジャック）を2ポート標準装備しています。そのうち1ポートは、1回の編集集中に2度の動作を設定できます。

ディスプレイ出力

SETUPの内容や、ステータスなどをモニターTVに出力できます。また、表示切り換え機能により、VTRの映像とAG-A850のディスプレイ出力を切り換えられますので、新たにモニターを用意する必要がありません。

コンピュータとの接続

RS-232C端子（9pin）を標準装備していますので、EDLデータをコンピュータとの間で転送できます。またRS-232C入力を持つプリンターにも対応しています。EDLフォーマットは、AG-A850の機能が活かせるオリジナルフォーマットと、他の編集コントローラとデータの互換性が高いCMX340フォーマットに対応しています。

EDLをダンプ、ロードするパソコン用ソフトウェア（フリーウェア）も用意しておりますのでお問い合わせください。

目次

安全上のご注意	4
各部の名称	8
システム接続・設定	18
1. システム接続	18
2. システム設定	21
編集操作	22
1. 編集操作の基本的な流れ	22
2. 編集モードの種類と図解	23
3. カット編集の操作方法	24
4. A/B ロール編集の操作方法	27
さまざまな編集	29
1. マルチレコーダー編集	29
2. マルチイベント編集／オープンエンド編集	30
3. パークアンドエディット／シンクロール編集	31
4. スロー編集	32
5. ワンタッチスロー再生／補助ソース (AUX) の編集	33
6. オーディオスプリット編集	34
7. GPI の設定	36
8. ファーストエディット／TC インサート編集	38
補助機能	39
1. 編集点を確認する (IN, OUT, DUR, LAP, GO TO)	39
2. 編集データの修正・取り消し	40
3. 編集データの登録と呼び出し	41
4. LAST X/LAST ED/TOTAL	42
5. T SET/CORCT/TRACK	43
6. AG-A850 の設定 (SET UP, CONFIG)	44
7. モニター表示の切り換え (INFO, DISP, STATUS DISP)	46
データ管理	47
1. 編集データを消す	47
2. 編集データを加工する (LIST)	48
3. 編集データを外部機器に転送する (DUMP)／取り込む (LOAD)	52
付録 A システム設定一覧	55
付録 B キー機能一覧	72
付録 C エラー表示一覧	80
付録 D VTR ・スイッチャーの設定	82
付録 E 編集用語集	86
付録 F お問い合わせになる前に	89
索引	93
付録 G コネクターの信号について	95
定格	

裏表紙

安全上のご注意

必ずお守りください

お使いになる人や他の人への危害、財産への損害を未然に防止するため、必ずお守りいただくことを、次のように説明しています。

■表示内容を見逃して誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を次の表示で区分し、説明しています。

	警告	この表示の欄は「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。
	注意	この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害のみが発生する可能性が想定される」内容です。

■お守りいただく内容の種類を、次の絵表示で区分し、説明しています。
(下記は、絵表示の一例です。)

	このような絵表示は、気をつけていただきたい「注意喚起」内容です。
	このような絵表示は、してはいけない「禁止」内容です。
	このような絵表示は、必ず実行していただく「強制」内容です。

警告

■不安定な場所に置かない！



禁止

落ちたり、倒れたりしてけがの原因となります。

■水場に設置しない！



水場使用禁止

火災・感電の原因となります。

■電源コードに重いものを載せない！



禁止

本機の下敷きにならないよう注意してください。コードが傷ついて、火災・感電を起こすおそれがあります。

■コードに重いものを載せない！



禁止

本機の下敷きにならないよう注意してください。コードが傷ついて、火災・感電を起こすおそれがあります。

警告

■本機の上に水の入った容器、小さな金属物を置かない！



禁止

こぼれて、本機内部にはいると、故障や事故を起こすおそれがあります。

■機器の開口部から異物を差し込んだり、落とし込んだりしない！



禁止

火災・感電のおそれがあります。

■本機を改造しない！



分解禁止

火災・感電の原因となります。

■電源コードまたは、コードを

- 加工しない！
- 傷つけない！
- 無理に曲げない！
- ねじらない！
- 引っ張らない！
- 加熱しない！



禁止

火災・感電の原因となります。

■機器がぬれたり、水が入らないようにする！



強制

火災・感電のおそれがあります。雨天・降雪・海岸・水辺での使用は特にご注意ください。

■水場で使用しない！



水場使用禁止

火災・感電の原因となります。

■表示された電源電圧以外は使用しない！



禁止

火災・感電のおそれがあります。

■本機の裏ボタン・キャビネット・カバーなどをはずさない！



分解禁止

感電の原因となります。
●点検・整備・修理は販売店にご依頼ください。

安全上のご注意

必ずお守りください



警告

■本機を落としたり、破損した場合は電源スイッチを切り、電源（プラグ）を抜く！



電源プラグ
を抜く

そのまま使用すると、火災・感電を起こすおそれがあります。

■本機の内部に水などが入った場合は電源スイッチを切り、電源（プラグ）を抜く！



電源プラグ
を抜く

そのまま使用すると、火災・感電を起こすおそれがあります。

■本機の内部に異物が入った場合は電源スイッチを切り、電源（プラグ）を抜く！



電源プラグ
を抜く

そのまま使用すると、火災・感電を起こすおそれがあります。

■煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態の場合は電源スイッチを切り、電源（プラグ）を抜く！



電源プラグ
を抜く

火災・感電の原因となります。
●お買い上げの販売店に修理をご依頼ください。

■電源コードが傷んだ場合は、交換を依頼する！



そのまま使用すると、火災・感電を起こすおそれがあります。

- お買い上げの販売店にご相談ください。



注意

■電源コードを熱器具に近づけない！



禁止

コードの被覆が溶けて、火災・感電の原因となることがあります。

■油煙や湯気の当たる場所に置かない！



禁止

火災・感電の原因となることがあります。

■湿気やほこりの多い場所に置かない！



禁止

火災・感電の原因となることがあります。

注意

■ぬれた手でプラグを抜き差ししない！



禁止

感電の原因となることがあります。

■プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らない！



禁止

コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。必ずプラグを持って抜いてください。

■本機の通風口をふさがない！



禁止

通風口をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。次のような使い方はしないでください。

- 本機を風通しの悪いところに押し込む。
- テーブルクロスを掛けたり、じゅうたんや布団の上に置く。

■本機の上に重いものを置かない！



禁止

バランスがくずれて、落下して、けがの原因になります。

■長時間使用しない時は、安全のため電源プラグをコンセントから抜く！



電源プラグを抜く

火災の原因となることがあります。

■移動させる場合は、電源スイッチを切り、プラグを抜き、外部の接続コードをはずす！



電源プラグを抜く

コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

■本機に乗らない！



禁止

倒れたり、壊れたりしてけがの原因になります。

■お手入れの際は安全のため、スイッチを切り電源(プラグ)を抜く！



禁止

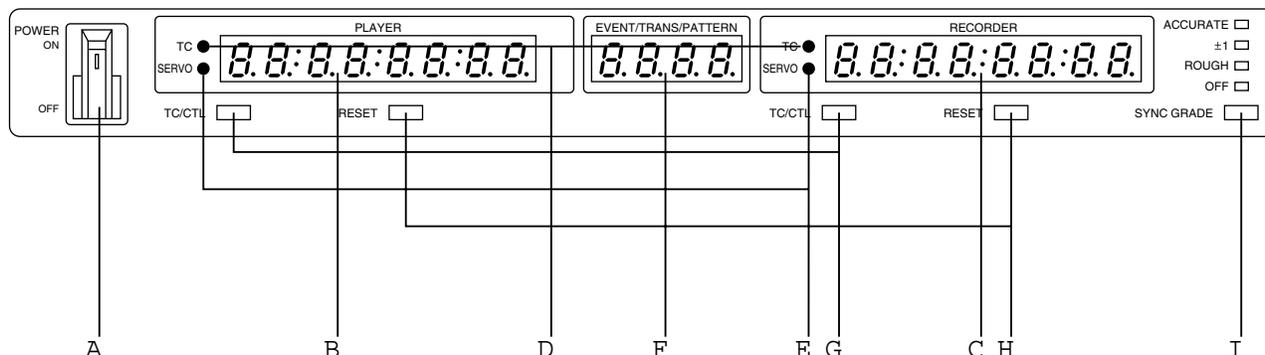
火災・感電の原因となることがあります。

■1年に1度くらいは、販売店に内部の掃除の相談を！



本機の内部にほこりがたまったまま、使用し続けると、火災・故障の原因となることがあります。

カウンター部



1) カウンター部

① POWER スイッチ

ON 側を押すと電源が入り、OFF 側を押すと電源が切れます。

② プレーヤータイム表示

プレーヤーVTRの現在のテープ位置または編集点を表示します。

③ レコーダータイム表示

レコーダーVTRの現在のテープ位置または編集点を表示します。

④ TC表示

点灯しているときは、②③のタイム表示部はタイムコードを表示しています。消灯しているときは、CTLを表示しています。⑦のTC/CTLボタンを押すごとに切り換わります。

⑤ SERVOランプ

テープがサーボロックして走行しているとき、点灯します。

⑥ EVENT/TRANS/PATTERN表示

イベント番号を表示します。トランジション時間や、パターン番号を表示させることもできます。

⑦ TC/CTLボタン

VTRのテープ位置の時間表示を、タイムコード(TC)または、CTLに切り換えます。VTRにタイムコードの機能がないときは、必ずCTLになりますので、押しでも切り換わりません。

⑧ RESETボタン

CTLのとき、時間表示をリセットします。

⑨ SYNC GRADEボタン/状態表示ランプ

編集時の調相の精度を切り換え、その状態を状態表示ランプで点灯します。OFF以外に設定したときは、REF. VIDEO IN端子に外部基準信号を入力してください。

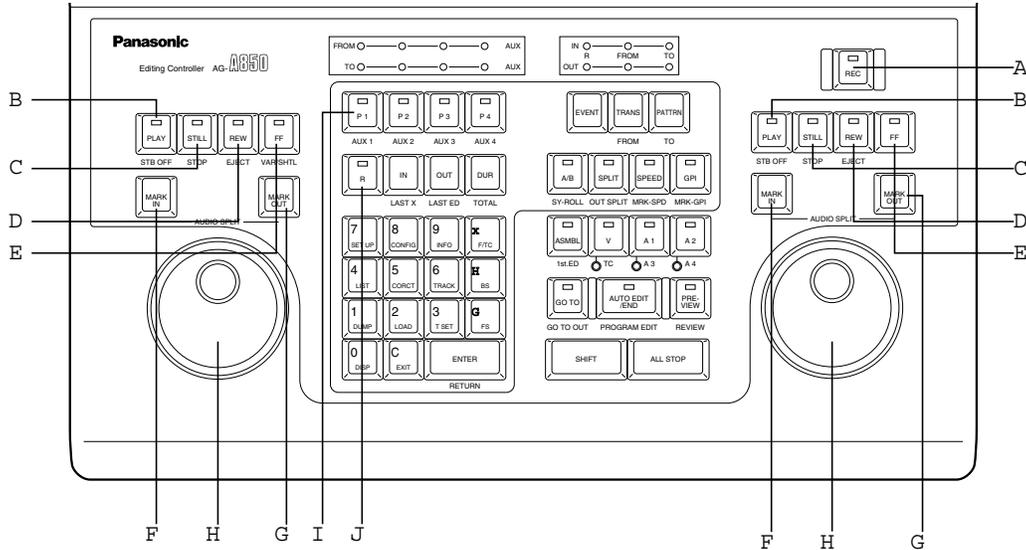
ACCURATE : ±0 フレームの調相を行います。

±1 : ±1 フレームの調相を行います。

ROUGH : 調相動作中に1度でも誤差がなくなれば、それ以降調相をしません。編集精度は保証されません。

OFF : 調相動作を行いません。編集精度は保証されません。

プレーヤー／レコーダー操作部



2) プレーヤー／レコーダー操作部

① RECボタン (レコーダー操作部のみ)

このボタンを押しながら、レコーダー側のPLAYボタンを押すと録画を始めます。VTRソース選択部でプレーヤーを選んでいるとき、レコーダーVTRが静止中に単独で押すと、レコーダー側のモニターへレコーダーVTRに入力されている映像・音声を出力します。

② PLAY/STB OFFボタン

テープの再生を行います。SHIFTボタンを押しながら操作すると、スタンバイオフの状態にします。

③ STILL/STOPボタン

テープを一時停止させます。SHIFTボタンを押しながら操作すると、テープを停止させます。

④ REW/EJECTボタン

テープを巻き戻します。SHIFTボタンを押しながら操作すると、テープをVTRから取り出します。

⑤ FF/VAR/SHTLボタン

テープを早送りします。SHIFTボタンを押しながらプレーヤー操作部のFFボタンを押すと、ダイヤルがSHTLモードのときの動作を、VARモードとSHTLモードとに切り換えます。(VAR/SHTLはプレーヤー操作のみ)

⑥ MARK INボタン

VTRのタイムコードまたはCTLを読みとって、編集のIN点を設定します。SHIFTボタンを押しながら操作すると、オーディオスプリットのIN点を設定します。

⑦ MARK OUTボタン

VTRのタイムコードまたはCTLを読みとって、編集のOUT点を設定します。SHIFTボタンを押しながら操作すると、オーディオスプリットのOUT点を設定します。

⑧ サーチダイヤル

テープ走行速度を調整しながら、編集点の映像を探すときなどで使います。ダイヤルにはJOGモードとSHTL/VARモードがあり、ダイヤルを押すごとに切り換わります。押し込んだ状態がJOGモード、飛び出した状態がSHTL/VARモードです。

・ JOG [ジョグモード]

ダイヤルを回す速度に応じて、テープの再生速度が変化します。右回転で正方向、左回転で逆方向に再生します。

・ SHTL/VAR [シャトル/バリアブルモード]

ダイヤルの回転角度に応じて、テープの再生速度が変化します。右回転で正方向、左回転で逆方向に再生します。

3) VTR ソース選択部

(簡易操作モードでは使用しません)

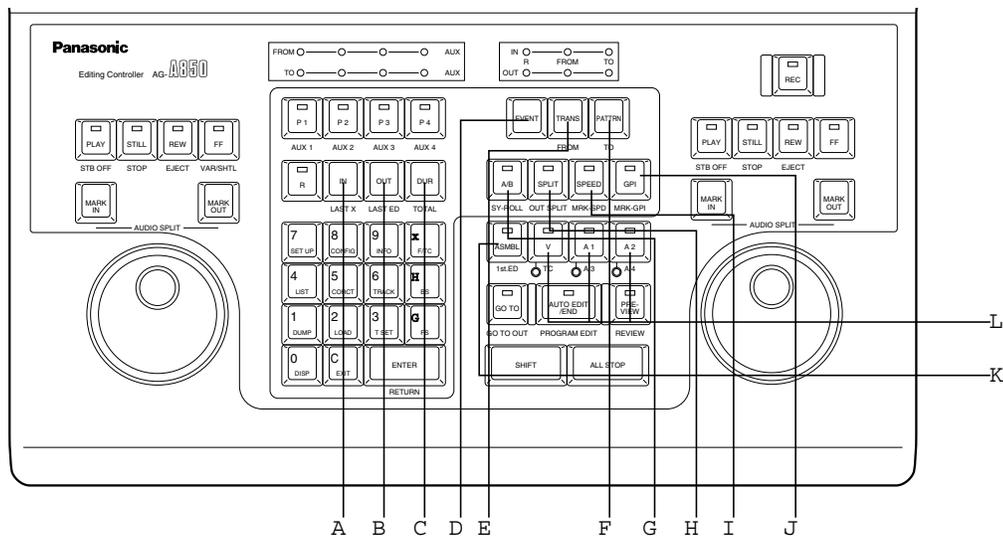
⑨ P1/AUX1、P2/AUX2、P3/AUX3、P4/AUX4 ボタン

編集設定を行ったり、プレーヤー操作部でコントロールするVTRを選択します。SHIFTボタンを押しながら操作すると、編集設定を行う補助ソースが選択されます。

⑩ Rボタン

レコーダーの編集設定を行うとき、選択します。

編集操作部



4) 編集設定部

(通常、簡易操作モードでは使用しません。
IN、OUT、DURの表示のみできます。)

① IN/LAST Xボタン

編集IN点の設定・表示を行います。SHIFT ボタンを押しながら操作すると、一度修正した編集点を元に戻します。

② OUT/LAST EDボタン

編集OUT点の設定・表示を行います。SHIFT ボタンを押しながら操作すると、以前にプレビュー編集したデータに戻します。

③ DUR/TOTALボタン

デュレーションの設定・表示を行います。SHIFT ボタンを押しながら操作すると、レコーダタイム表示に編集の合計時間を表示します。
ENTER ボタンを押しながら操作すると、ラップ時間を表示します。

④ EVENTボタン

イベント番号を変更するとき押しします。

⑤ TRANS/FROMボタン

トランジション時間を表示したり、設定するとき押しします。カット編集のソースや、A/Bロール編集で始めに使用するソース (FROM ソース) を選択するとき、SHIFT ボタンを押しながら操作します。

⑥ PATTRN/TOボタン

パターン番号を表示したり、設定するとき押しします。A/Bロール編集で後に使用するソース (TO ソース) を選択するとき、SHIFT ボタンを押しながら操作します。

⑦ A/B/SYNCボタン

A/Bロール編集を行うとき、押して点灯させます。

⑧ SPLIT/OUT SPLITボタン

スプリット編集をするとき、押して点滅させ、オーディオのIN点を入力します。

⑨ SPEED/MARK-SPDボタン

スロー編集をするとき、押して点滅させ、初期速度を入力します。

⑩ GPI/MARK-GPIボタン

GPIを出力するタイミングを設定するとき、押して点滅させます。DSKの設定もこのボタンで行います。

5) 編集モード設定部

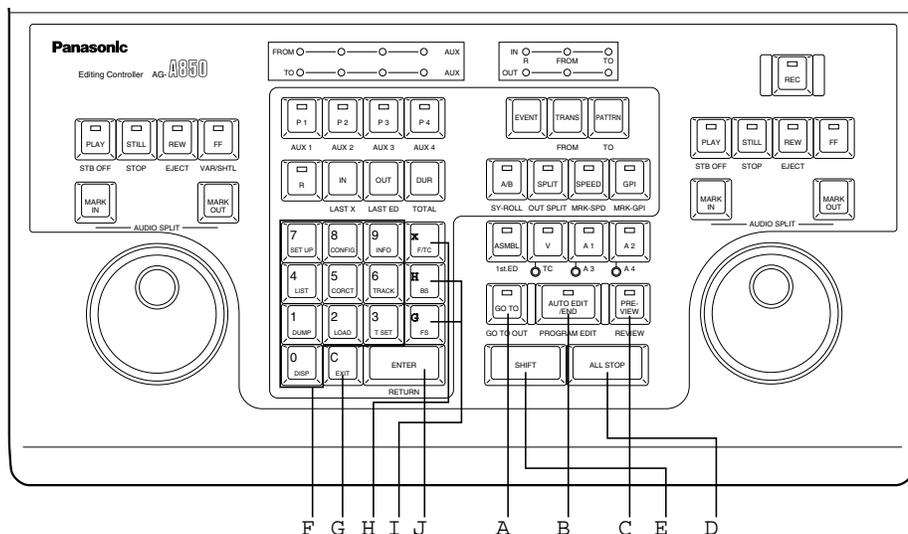
⑪ ASMBL/1st. EDボタン

アッセンブル編集を行うとき、ボタンを押して点灯させます。もう一度押しと、消灯しアッセンブルが解除されます。インサート編集を設定しているときは、インサートを解除してから、ボタンを押してください。

⑫ V/TC、A1/A3、A2/A4ボタン

インサート編集を行うとき、ボタンを押して点灯させます。TC以外は、重複して点灯させることができます。また、すべて消灯するとインサートが解除されます。アッセンブル編集を設定しているときは、アッセンブルを解除してからボタンを押してください。

- V : ビデオのインサート
- A1~4 : オーディオチャンネル1~4のインサート
- TC : タイムコードのインサート



6) 自動編集操作部

① GO TO / GO TO OUT ボタン

編集 IN 点が設定されているとき、その位置にテープを頭出します。編集 OUT 点や任意点を頭出する事もできます。

② AUTO EDIT / END / PROGRAM EDIT ボタン

自動編集をするときに押します。SHIFT ボタンを押しながら操作するとマルチイベント編集を行います。

③ PREVIEW / REVIEW ボタン

編集のリハーサルを行うときに押します。SHIFT ボタンを押しながら操作すると、REVIEW (編集結果の確認) を行います。

④ ALL STOP ボタン

すべての VTR を停止させます。編集 (PREVIEW, EDIT, REVIEW) 中は、その動作を中止します。

⑤ SHIFT ボタン

各ボタンの下 (数値入力部は中央下) に表示している機能を使うときは、このボタンを押しながら操作します。

7) 数値入力部 (単独で押したとき)

(簡易操作モードでは使用しません。)

ENTER 以外のボタン (0 ~ 9, C, +, -, ~) は、そのまま押せば左上に書かれた機能になります。

また、SHIFT ボタンを押しながらボタンを押すと中央下に書かれた機能 (DISP, EXIT, LIST など) になります。

⑥ 0, 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9 (数値入力キー)

編集データなどを、数値で入力して設定するときに使います。

⑦ C

入力した数値や、編集データを取り消すとき (CLEAR) に使います。

⑧ ~

編集データ (EDL) の削除や移動などで、開始・終了のイベント番号を入力するときに使います。

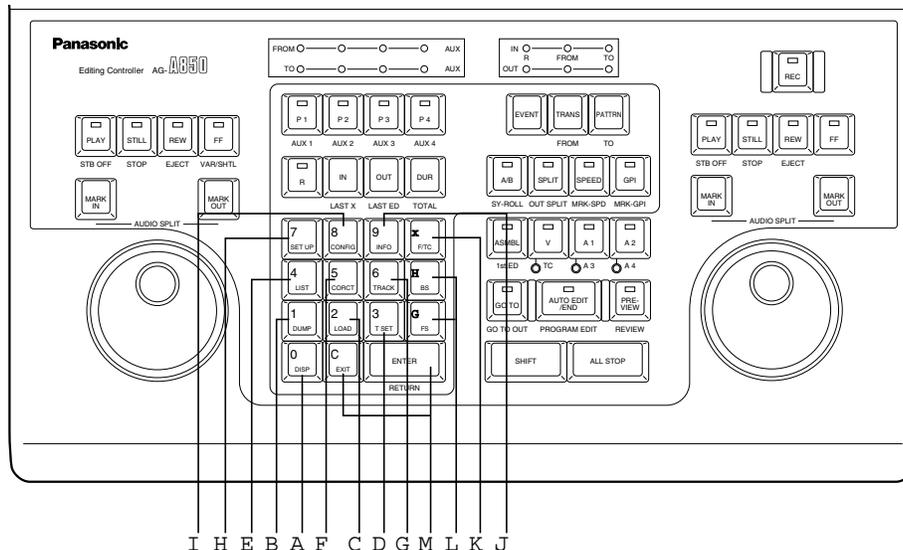
⑨ +, -

編集データの変更や、SET UP など項目を選択するときに使います。

⑩ ENTER

編集データなどを、数値で入力するときに使います。

SHIFT + ボタン部



8) 数値入力部 (SHIFT ボタンを押しながら、操作したとき)

(通常、簡易操作モードでは使用しません。
DISP, SET UP, INFO のみ操作できます。)

① DISP (SHIFT+0)

モニターの画面表示を切り換えます。

② DUMP (SHIFT+1)

パーソナルコンピューターなどの外部機器へ、編集データ(EDL)を転送するときを押します。

③ LOAD (SHIFT+2)

パーソナルコンピューターなどの外部機器から、編集データを内部のEDLメモリーに取り込むときに押します。

④ T SET (SHIFT+3)

T C インサート編集などで記録する時間 (TCG) の初期値を設定します。

⑤ LIST (SHIFT+4)

編集データの削除、移動、コピーなどを行うときに使用します。

⑥ CORCT (SHIFT+5)

EDLメモリーに登録済の編集データを変更するときに押します。

⑦ TRACK (SHIFT+6)

タイムトラック処理を行うときに押します。

⑧ SET UP (SHIFT+7)

システム全体の設定を行うときに使用します。

⑨ CONFIG (SHIFT+8)

各VTRごとの設定を行うときに使用します。

⑩ INFO (SHIFT+9)

エラーメッセージなどを表示します。

⑪ F/TC (SHIFT+ ~)

数値を入力するとき、タイムコードで入力するか、フレーム単位で入力するかを切り換えます。

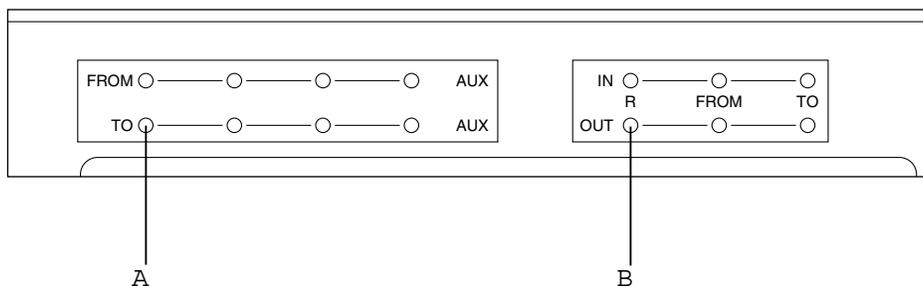
⑫ FS, BS (SHIFT+“+”, SHIFT+“-”)

1つ前か、後ろのイベントに変更するとき押します。
SETUPモードのときは、ページを変更します。

⑬ EXIT, RETURN (SHIFT+C, SHIFT+ENTER)

編集点などのデータ入力を途中でやめるときに押します。
SET UP, CONFIGモードのときは、RETURNを押すと設定した内容を確定して、EXITを押すと設定した内容を破棄して終了します。

編集データ設定表示部／コネクターパネル部



9) 編集データ設定表示部

① 編集ソース設定表示

選択したソース(P1～P4)を対応するVTR／ソース選択キーのすぐ上のランプに点灯します。補助ソース(AUX1～4)を選択したときは、AUXランプも点灯します。

上段(FROM)はカット編集及びA/Bロール編集でのFROMソースを表示します。また、下段(TO)は、A/Bロール編集でのTOソースを表示します。

ランプの表示と設定状態

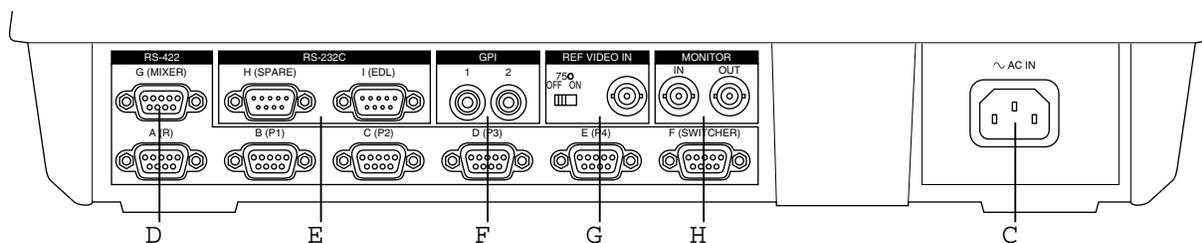
横一列の赤色点滅	ソースが未設定
赤色点滅	ソースは設定済み、編集点が未設定
赤色点灯	ソースの編集点のうち1つが設定済み
黄色点灯	ソースのすべての編集点が設定済み
緑色点灯	編集データのすべての編集点が設定済み

ランプが緑色点灯すれば編集ができます。赤や黄色でランプが点滅していたり点灯していても、次のようなときは編集を行います。

- ・他の編集点より、設定されていないデータを補えるとき、自動的に編集データを加工し、編集を行います。
- ・編集OUT点を設定せずに編集を行うとき、編集中に[MARK OUT]ボタンや、[AUTO EDIT/END]ボタンを押して、編集OUT点を設定します。(オープンエンド編集)
- ・ソースVTRだけを設定し、現在のテープの位置から編集を行うとき。(パークアンドエディット)

② 編集点設定表示

レコーダーVTR、FROMソース、TOソース、それぞれの設定された編集点のランプを点灯します。編集IN点、OUT点のいずれかとデュレーションが設定されているときは、IN、OUT両方のランプが点灯します。



10) コネクターパネル部

③ AC電源端子

付属の電源コードを接続して、AC100Vの電源に接続します。

④ RS-422端子

VTRやビデオスイッチャー・オーディオミキサーを接続します。

⑤ RS-232C端子

パーソナルコンピューターなどの外部機器を接続します。H (SPARE)端子は、ご使用になれません。

⑥ GPI端子

外部機器を接続します。トリガー信号を出力します。

⑦ REF VIDEO IN端子／75Ω終端スイッチ

編集精度が必要なシステムでは、外部基準信号(ブラックバーストやカラーバー)を入力します。

75Ω終端スイッチは、本機で信号を終端するときにはONに、T型BNCコネクターなどを使って信号を分配するときにはOFFにしてください。

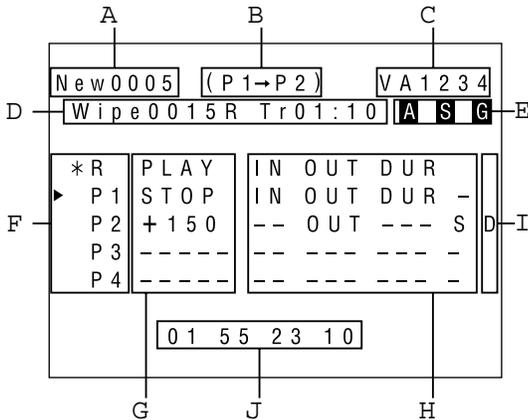
⑧ MONITOR IN/OUT端子

MONITOR OUTにモニターテレビを接続すると、ステータスなどを表示できます。また、MONITOR INに入力された映像を、MONITOR OUTに出力することもできます。(DISP機能)

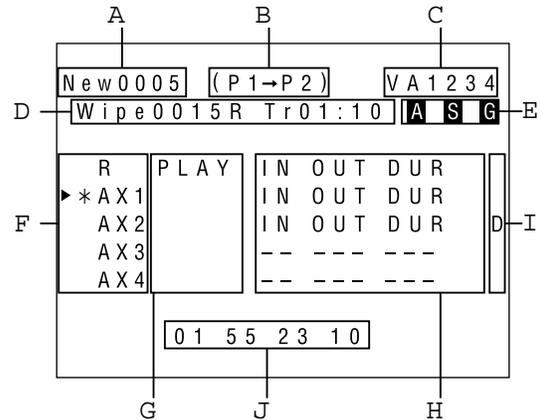
モニター表示部

11) モニター表示

AG-A850にモニターを接続すると、VTRの状態や、編集点の設定状態などを表示させることができます。また、[DISP(SHIFT+0)]ボタンを押して、MONITOR INに入力された映像を表示させることもできます。



通常の状態表示



AUXを選択しているときの画面

(1) ステータス表示

通常、VTRの操作や編集を行っているときは、次のようなステータス表示を行います。

① イベント番号

New : EDLメモリーに未登録のイベント
R : 編集済みのイベント

② ソース (FROMソース→TOソース)

③ 編集モード

VA 1 2 3 4 : インサート編集
V : 映像
A 1~4 : 音声ch 1~4
ASMBL : アッセンブル編集
TC : TCインサート編集
1st. ED : ファーストエディット編集

④ エフェクト

タイプ

Cut : カット
Diss : ディゾルブ
Wipe : ワイプ

パターン番号

R : リバースパターン

トランジション

Tr : [秒:フレーム]で表示

⑤ 付加機能

A : オーディオスプリット編集時、表示します。
S : スロー編集時、表示します。
G : GPIが設定されているとき、表示します。

⑥ VTR/ソース選択

▶ : プレーヤー操作部で、コントロールできるVTRを表示します。
* : 編集点の登録やGOTOさせるVTR/ソースを表示します。
R : レコーダーVTR
P 1~P 4 : プレーヤーVTR
R 1~R 4 : スレーブVTR

モニター表示部

⑦VTR ステータス

VTRの状態を表示します。

VTR ステータス表示	VTRの状態
CUE	テープの頭出し中 (CUE-UP)
EDIT	編集集中
EE	EEモード
EJECT	カセットの排出中
EPLAY	エディットプレー中
FF	早送り中
JOG	ジョグモード
LOCAL	VTRのCONTROLスイッチがLOCALになっている
PLAY	再生中
REC	記録中
REW	巻き戻し中
SHTL	シャトルモード
STBOF	スタンバイオフモード
STILL	静止画出力中
STOP	停止中
SYNC	調相中
T. OUT	テープが装着されていない
-100~+300	VARモード (数字は走行スピード。 +100が1倍速)

⑧編集データ登録

VTRノソースごとに、設定されている編集データを表示します。

IN : 編集IN点が設定されているとき表示します。

OUT : 編集OUT点が設定されているとき表示します。

DUR : デュレーションが設定されているとき表示します。

S : 初期スピードが設定されているとき表示します。

⑨DF/NDF、CFモード

テープのDF/NDF状態や編集時のフレームシフト量を表示します。

< NTSC方式 >

●CF編集をしないとき

フレームモードにより表示が変わります。

表示	テープとシステムの フレームモードの状態
表示なし	一致しています。
D	テープはドロップフレームです。
N	テープはノンドロップフレームです。

●CF編集をするとき (ALL VTR/R ONLY 基準)

フレームモードにより表示が変わります。

表示	テープとシステムの フレームモードの状態
a	一致しています。
d	テープはドロップフレームです。
n	テープはノンドロップフレームです。

●CF編集をするとき (TIME CODE 基準)

フレームモードとカラーフレームモードのシフト量により表示が変わります。

表示	テープとシステムの フレームモードの状態	カラーフレーム のシフト量
表示なし	一致しています。	0フレーム
D	テープはドロップフレームです。	0フレーム
N	テープはノンドロップフレームです。	0フレーム
+	一致しています。	+1フレーム
D	テープはドロップフレームです。	+1フレーム
N	テープはノンドロップフレームです。	+1フレーム

< PAL方式 >

●CF編集をしないとき

何も表示しません。

●CF編集をするとき (ALL VTR/R ONLY 基準)

“a”を表示します。

●CF編集をするとき (TIME CODE 基準)

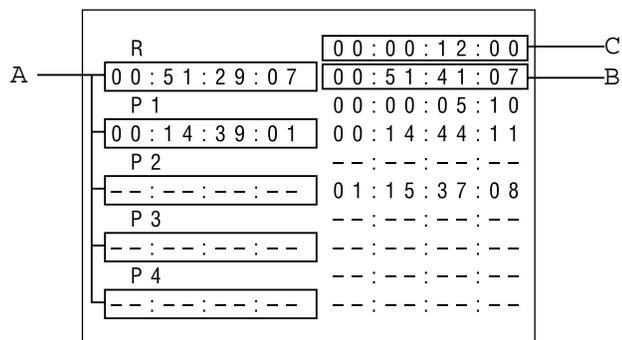
フレームモードとカラーモードのシフト量により表示が変わります。

表示	カラーフレームのシフト量
表示なし	0フレーム
+	+1フレーム
#	+2フレーム
-	-1フレーム

⑩入力データ

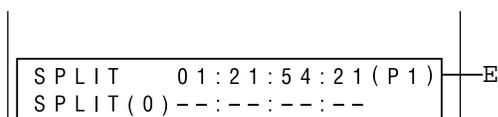
数値入力キーで入力されたデータを表示します。また、編集時はラップ時間を表示します。

モニター表示部

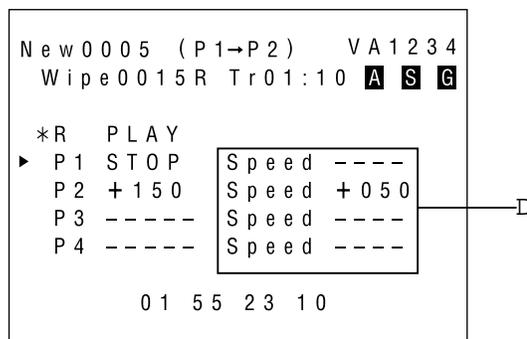


IN、OUT、DURを入力しているときの画面

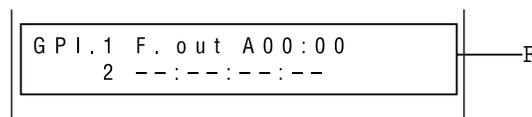
*)②③は各VTRの上段がDUR下段がOUT



SPLITを入力しているときの画面



SPEEDを入力しているときの画面



GPIを入力しているときの画面

(2) 編集設定時の表示

編集点を設定するときや、初期スピードの設定時などでは、次のような表示を行います。

①編集 IN 点

編集のIN点を表示します。タイムコードの秒とフレームの間の記号で、編集点の状態がわかります。

- “:” : 設定された編集点
- “.” : 他の編集点から自動的に算出された編集点
- “'” : タイムトラックで管理された編集点

②編集 OUT 点

編集のOUT点を表示します。編集IN点と同じように、タイムコードの秒とフレームの間の記号で状態がわかります。

③デュレーション

編集のデュレーションを表示します。編集IN点と同じように、タイムコードの秒とフレームの間の記号で状態がわかります。

④初期スピード

スロー編集時の初期スピードを表示します。

⑤SPLIT の設定値

SPLIT : IN点側のスプリット

SPLIT (0) : OUT点側のスプリット

(R、P1～4)

: タイムコード設定したときの基準となるVTRを表示します。

A : ビデオの編集点よりオーディオの編集点が前にあるとき、スプリット値とともに表示します。

D : ビデオの編集点よりオーディオの編集点が後ろにあるとき、スプリット値とともに表示します。

⑥GPI の設定値

基準点

R,P1～P4 : タイムコード設定したときの基準となるVTRを表示します。

F i n : FROMソースの編集IN点を基準に設定されていることを示します。

Fout : FROMソースの編集OUT点を基準に設定されていることを示します。

Tin : TOソースの編集IN点を基準に設定されていることを示します。

Tout : TOソースの編集OUT点を基準に設定されていることを示します。

Rin : レコーダーVTRの編集IN点を基準に設定されていることを示します。

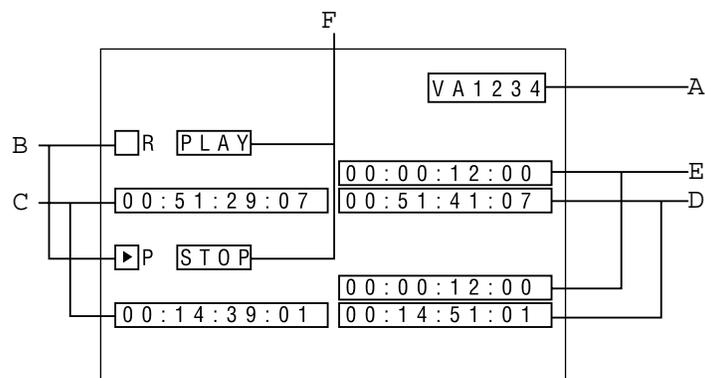
Rout : レコーダーVTRの編集OUT点を基準に設定されていることを示します。

相対設定

A : 基準点より早く設定されているとき、相対時間とともに表示します。

D : 基準点より遅く設定されているとき、相対時間とともに表示します。

モニター表示部



簡易操作モードでのステータス表示

(3) 簡易操作モードでのステータス表示

簡易操作モードでは、次のようなステータス表示を行います。

①編集モード

VA 1 2 3 4 : インサート編集
 V : 映像
 A 1 ~ 4 : 音声 ch 1 ~ 4
 ASMBL : アッセンブル編集
 TC : TCインサート編集
 1st. ED : ファーストエディット編集

②VTR 選択

▶ : GOTO させる VTR を表示します。
 最後に操作 (PLAY, STILL, FF, REW) した VTR が選択されます。

③編集 IN 点

編集の IN 点を表示します。タイムコードの秒とフレームの間の記号で、編集点の状態がわかります。

“:” : 設定された編集点
 “.” : 他の編集点より自動的に算出された編集点
 “'” : タイムトラックで管理された編集点

④編集 OUT 点

編集の OUT 点を表示します。編集 IN 点と同じように、タイムコードの秒とフレームの間の記号で状態がわかります。

⑤デュレーション

デュレーションを表示します。編集 IN 点と同じように、タイムコードの秒とフレームの間の記号で状態がわかります。

⑥VTR ステータス

VTR の状態を表示します。

VTR ステータス表示	VTR の状態
CUE	テープの頭出し中 (CUE-UP)
EDIT	編集中
EE	EE モード
EJECT	カセットの排出中
EPLAY	エディットプレー中
FF	早送り中
JOG	ジョグモード
LOCAL	VTR の CONTROL スイッチが LOCAL になっている
PLAY	再生中
REC	記録中
REW	巻き戻し中
SHTL	シャトルモード
STBOF	スタンバイオフモード
STILL	静止画出力中
STOP	停止中
SYNC	調相中
T. OUT	テープが装着されていない
-100 ~ +300	VAR モード (数字は走行スピード。 +100 が 1 倍速)

システム接続

AG-A850には、9ピンリモートコントロールができるVTRのほか、ビデオスイッチャーなどを接続して編集を行うことができます。

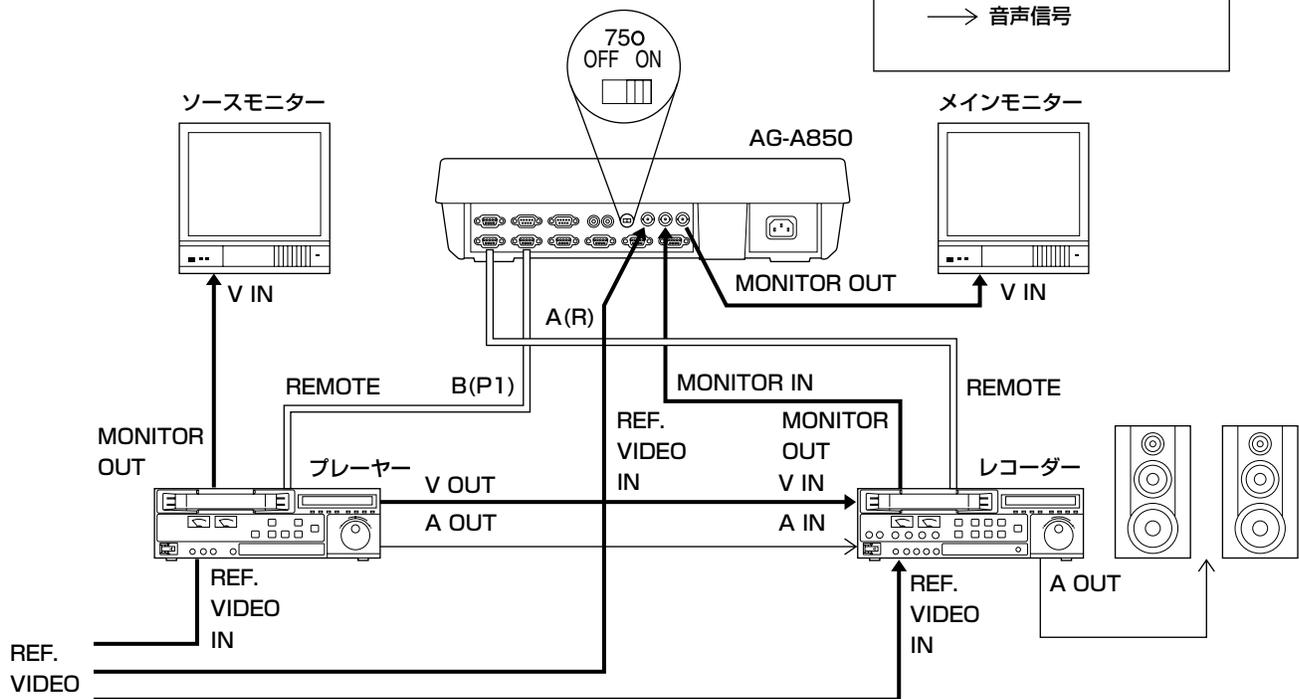
ここでは、代表的なシステムを3つ例での接続を説明します。

1. プレーヤー、レコーダー各1台を使ったカット編集システム
2. プレーヤー4台と、レコーダー各1台を使ったA/Bロール編集システム
3. プレーヤー2台と、レコーダー各3台を使ったマルチレコーダーA/Bロール編集システム

*接続できる機種に関しては、巻末の定格をご覧ください。その他の対応機種については、お買い求めになられました販売店または当社サービス窓口にご相談ください。

プレーヤー、レコーダー各1台を使ったカット編集システム

簡易操作モードでお使いになるときは、SET UPを変更する必要があります。詳しくは、「システム設定一覧のFUNCTION」および、「お問い合わせになる前に」(89ページ)をご覧ください。



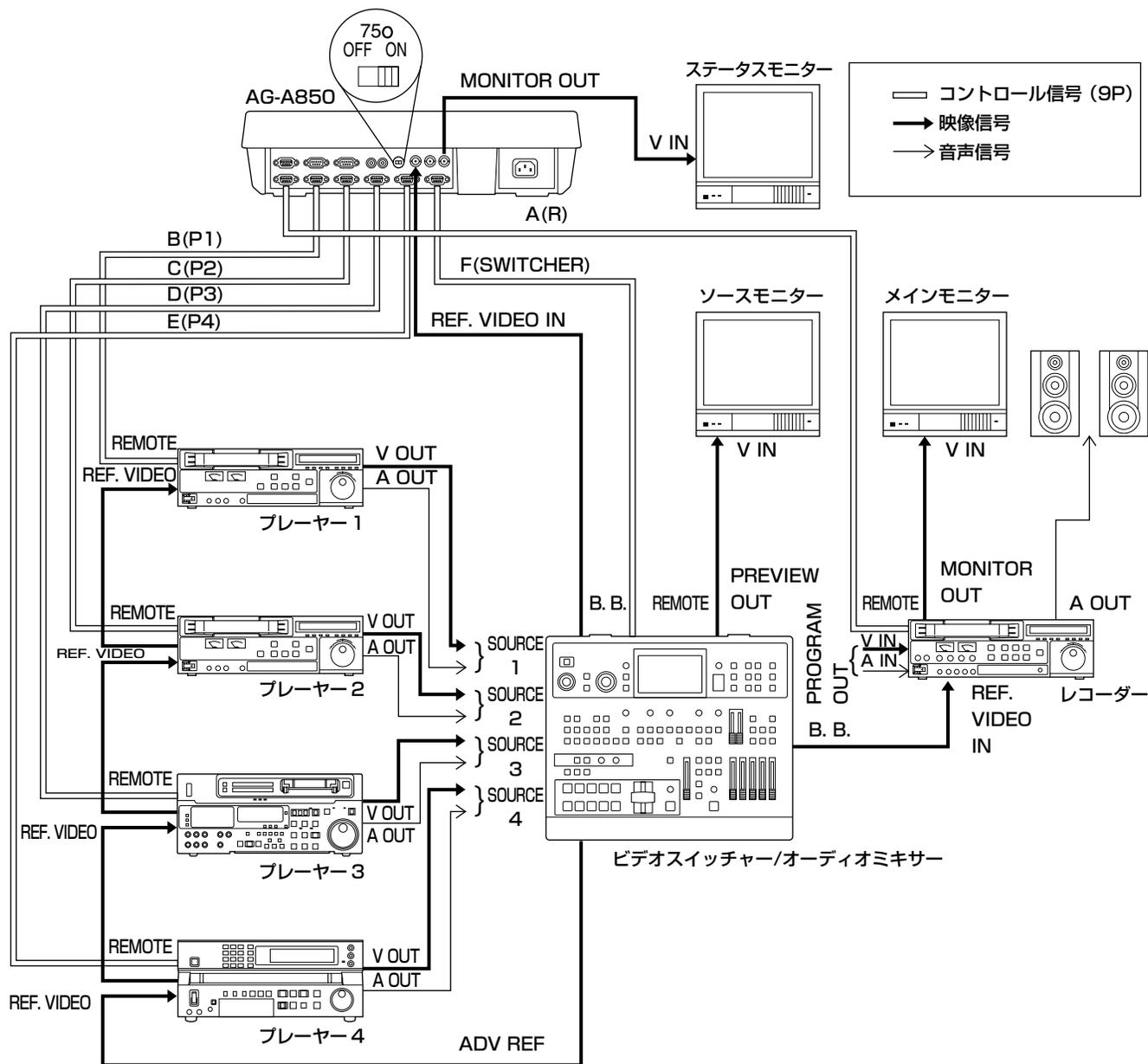
簡易操作モードでは、必ずレコーダーVTRのコントロール信号をA(R)にプレーヤーVTRのコントロール信号はB(P1)に接続してください。

編集コントローラAG-A850のREF. VIDEOは必ず接続してください。REF. VIDEOを接続できないときは、SYNC GRADEをOFFにして編集してください。

レコーダーVTRのREF. VIDEOに入力する信号は、使用するVTRによって変わることがあります。詳しくは、VTRの取扱説明書をご覧ください。

システム接続

プレーヤー4台と、レコーダー各1台を使ったA/Bロール編集システム



REF. VIDEOは終端になるVTRの75ΩスイッチをONし、その他のVTRの75ΩスイッチはOFFにしてください。

編集コントローラAG-A850のREF. VIDEOは必ず接続してください。REF. VIDEOを接続できないときは、SYNC GRADEをOFFにして編集してください。

レコーダーVTRのREF. VIDEOに入力する信号は、使用するVTRシステム構成によって変わることがあります。詳しくは、VTRや各スイッチャーの取扱説明書をご覧ください。

システム設定

システム接続が終わりましたら、編集を始める前に VTR やスイッチャーなどの設定を行ってください。ここでは、一般的な設定項目についてご説明します。

1) プレーヤー VTR の設定

- ・ テープのトラッキング調整
- ・ 再生時の音声レベル調整
- ・ CONTROL スイッチを REMOTE(9P)側に設定してください。
- ・ カラーフレーミング編集を行うときは、CF スイッチを ON (4F または 8F) 側に設定してください。

[ご参考]

機種固有の設定については、付録 D の VTR・スイッチャーの設定をご覧ください。

2) レコーダー VTR の設定

- ・ テープのトラッキング調整 [通常は、FIX の位置にしてください。]
- ・ 記録時の映像・音声レベル調整
- ・ 映像・音声の INPUT スイッチの設定 [入力信号の端子にあわせてください。]
- ・ タイムコードジェネレーターの設定 [INT,PRESET,FREE RUN]
- ・ レコーダー VTR が 2 台以上のシステムでは、スレーブレコーダー側のテープはマスターレコーダー側のテープと同じもの (タイムコードの値、DF / NDF) をご用意ください。
- ・ CONTROL スイッチを REMOTE(9P)側に設定してください。
- ・ カラーフレーミング編集を行うときは、CF スイッチを ON (4F または 8F) 側に設定してください。

[ご参考]

機種固有の設定については、付録 D の VTR・スイッチャーの設定をご覧ください。

3) スイッチャー・ミキサーの設定

- ・ ビデオスイッチャーの通信条件の設定 [BAUDRATE=38400 b/s, LENGTH=8 bit, PARITY=ODD, STOP=1 bit]
- ・ オーディオミキサーの通信条件の設定 [BAUDRATE=38400 b/s, LENGTH=8 bit, PARITY=EVEN, STOP=1 bit]
- ・ リモートスイッチがある機種は、リモート可能にしてください。

[ご参考]

機種固有の設定については、付録 D の VTR・スイッチャーの設定をご覧ください。

4) AG-A850 の設定

- ・ 編集精度の設定を行ってください。[SYNC GRADE]
(AG-A850 に REF. VIDEO が入力されていないときは OFF にしてください。)
- ・ 表示時間の選択を VTR ごとに行ってください。[TC/CTL]
- ・ SET UP モードで、ご使用になるシステムの設定を行ってください。
(詳しくは、付録 A のシステム設定一覧をご覧ください。)
- ・ CONFIG モードで、VTR ごとにご使用になるテープの設定を行ってください。
(通常は、LTC/VITC にします。ご使用になるテープのタイムコードが LTC と VITC とで異なっているときは、LTC にしてください。)

5) システムの調整

より完成度の高い編集を行うために、次の調整を行ってください。

- ・ VTR ごとの TBC の調整 (VIDEO LEVEL, SYNC LEVEL, BURST LEVEL, CHROMA LEVEL, HUE)

編集操作の基本的な流れ

編集操作は、基本的に次の操作で行えます。

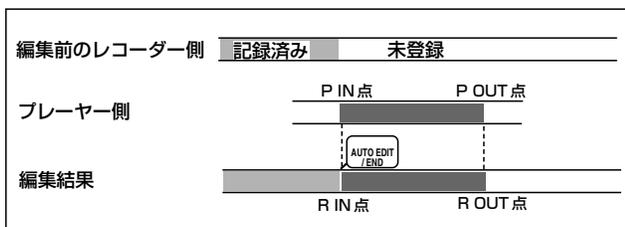


編集モードの種類と図解

AG-A850 で可能な編集モードには次の種類があります。個別のモードについての詳しい説明はそれぞれのページをご覧ください。

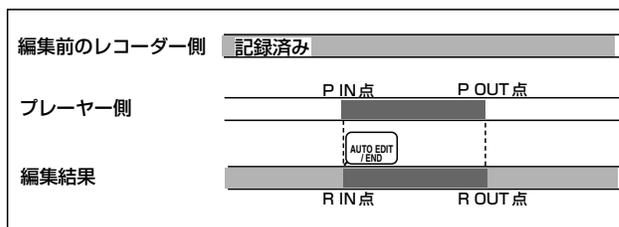
■アッセンブル編集モード

主に新品テープに、(新品でなくてもできます)最初から次々に続けて記録します。マスターテープ制作には一般的なモードです。



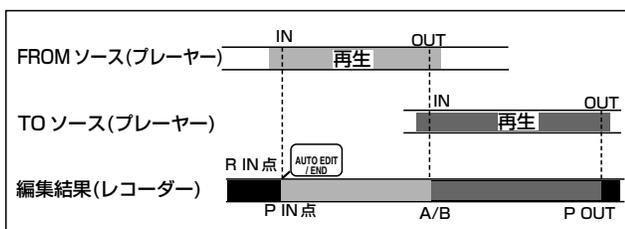
■インサート編集モード

記録済みのテープの一部に別のソースを記録します。V(映像)、A1(リニア音声 CH1)、A2(リニア音声 CH2)、TC(タイムコード)の4種類の信号を別々または合わせて記録することができます。レコーダー側テープの全編を通じて信号が記録されている必要があります。



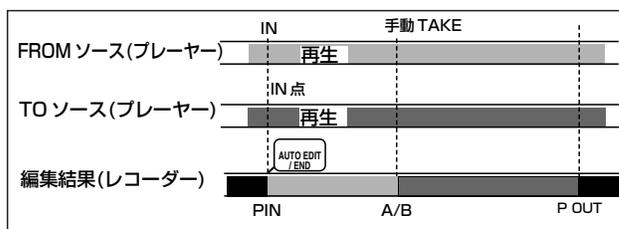
■A/Bロール編集

2台のプレーヤーを同時に制御して切り換えます。A/B点で特殊効果を加えることで2つの映像(動画)がワイプやディゾルブでなめらかにつながります。



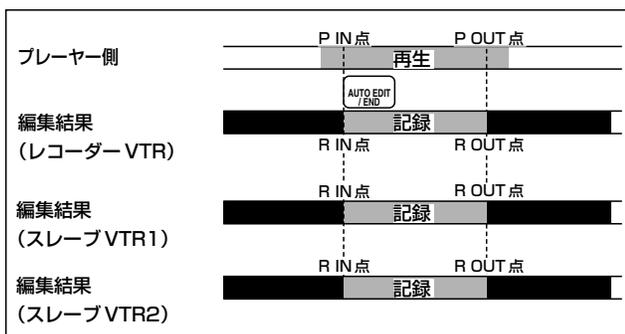
■シンクロロール編集(手動 TAKE)

A/Bロールモードの中の一つのテクニックです。FROMソースとTOソースを同時にスタートさせて、画面を見ながら任意の点でA/B切り換えを行います。



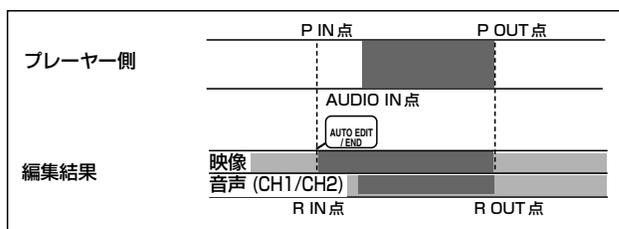
■マルチレコーダー編集

一回の編集で同時に複数のマスターテープを作成します。編集点をプレーヤーとレコーダーで設定すると、スレーブ設定されたVTRもレコーダーと同じ編集点で記録します。レコーダーVTRとスレーブVTRのタイムコードの値やDF/NDFは一致している必要があります。



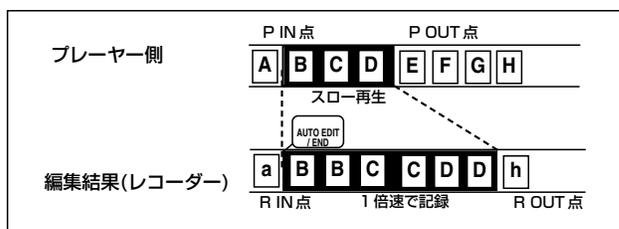
■オーディオスプリット編集

音声の編集点をずらせるテクニックが使えます。



■スロー編集

プレーヤーをスロー再生した映像を記録する編集です。



カット編集の操作方法

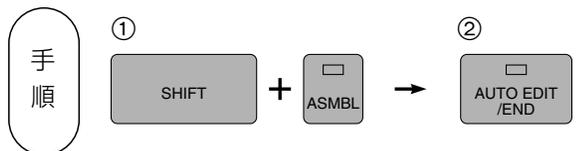
次の例をもとに編集の基本であるカット編集について説明します。

モード : アッセンブル編集
 ソース : PLAYER1 IN : 00:08:32:09
 OUT : 00:08:58:18
 RECORDER : IN : 00:00:00:00
 OUT : 00:00:26:09(自動計算)



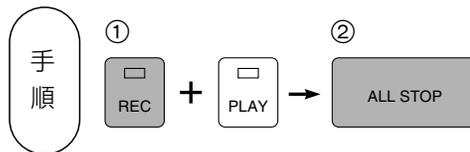
(ファーストエディット) レコーダー側編集用のテープを作成します。

アッセンブルモードで編集を行う場合、最初のイベントのレコーダー側 IN 点の前に、正常な映像信号を記録する必要があります。これは正常なプリロール動作のために必要です。



- ① [SHIFT] ボタンを押しながら [ASMBL] ボタンを押す。
- ② [AUTO EDIT/END] ボタンを押す。
(詳しくは、ファーストエディットをご覧ください。)

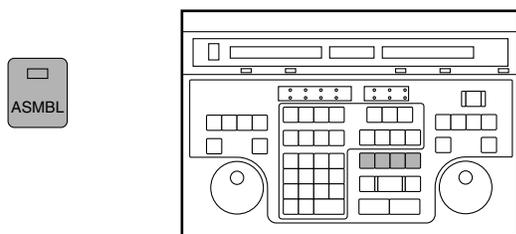
インサートモードで編集を行う場合は、テープのフォーマットを行ってテープ全体に正常な映像信号を記録する必要があります。



- ① [REC] ボタンを押しながら、レコーダー操作部の [PLAY] ボタンを押す。
- ② 編集を行う時間分、フォーマットできたら [ALL STOP] ボタンを押す。

1. 編集モードの選択

アッセンブル編集のモードを選択します。



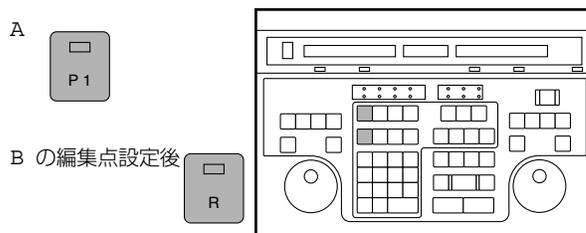
- ① アッセンブル編集は映像と音声(CH1,CH2)とタイムコードを同時に記録します。インサート編集を行う場合は、ここでインサートボタン(V、A1、A2、A3、A4)を押します。それぞれ映像、音声に対応しており、編集したい信号はすべて押してください。

*S-VHS (VHS) 方式のVTRの編集では、VTR側のAUDIO CH2 SELECTがTC側になっている場合、ここで押してもノーマル音声CH2は記録されませんのでご注意ください。

- ② 各モードを取り消したい場合はもう一度同じボタンを押してください。

2. VTR(外部機器)の選択

操作するVTRを選びます。
(簡易操作モードでは必要ありません)



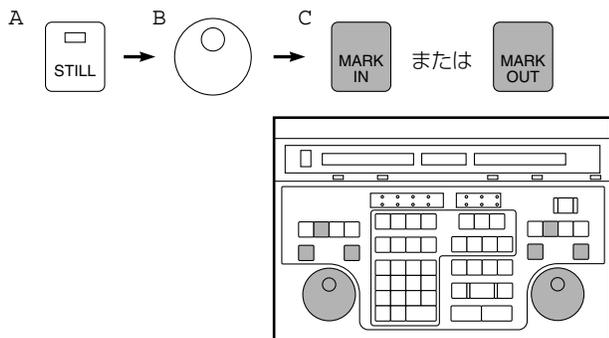
[P1 ~ P4, AUX1 ~ AUX4, R] のうち、ランプが点灯しているものをAG-A850で操作できます。

カット編集の操作方法

3. 編集点の設定

簡易操作モードでは、Aの方法で設定します。

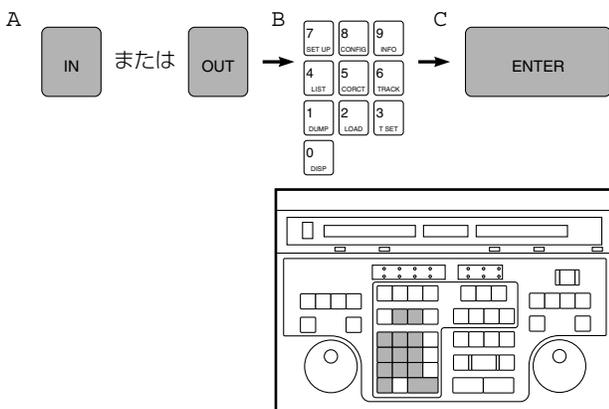
A. サーチダイヤルで編集画面を探し、MARK IN / OUT ボタンで設定する。



- ①選択されているVTRは一時停止状態になります。
 - ②サーチダイヤルを使い、シャトルまたはジョグサーチで編集点を探します。シャトル/ジョグ切替はダイヤルを押さえます。
 - ③編集点で一時停止させた後 [MARK IN/OUT] ボタンを押すと編集IN点/OUT点がそれぞれ設定されます。
- * [MARK IN/OUT] は必ずしも一時停止にする必要はありません。PLAYで再生を確認しながら「ここ」と思うポイントで [MARK IN/OUT] ボタンを押す設定方法も使いやすく便利です。

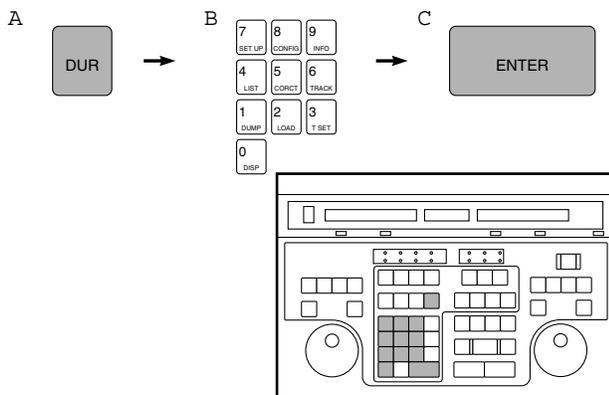
編集操作

B. テンキーで編集点のタイムコードをダイレクトに入力する。



- ① [IN / OUT] ボタンを押します。
- ②例えばPLAYER1のIN点ならば、83209 (8分32秒09フレーム) と押す。
- ③一つの編集点を入力するごとに [ENTER] ボタンを押します。

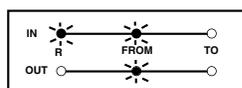
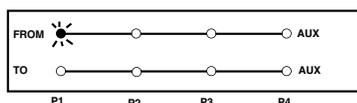
C. 編集区間の長さを指定して設定する。



- ① [DUR] ボタンを押します。
- ②例えばPLAYER1ならば、2609 (26秒09フレーム) を入力します。
- ③ [ENTER] ボタンを押します。

P1のIN点とOUT点、RECORDERのIN点を登録すれば編集点の登録は完了です。

RECORDERのOUT点は編集を実行したとき自動計算されます。(編集データ設定表示部で設定確認ができます。)



カット編集の操作方法

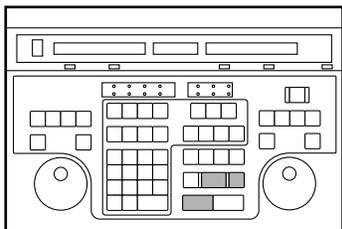
4. 特殊効果等の設定

簡易操作モードでは必要ありません。

カット編集の場合、初期スピードの設定、GPIの設定、オーディオスプリットの設定(インサート編集の時)などが行えます。詳しくは、さまざま編集をご覧ください。

5. 編集の実行

1～4で例題の編集に必要な編集点の設定が終了しました。これで編集を実行すれば、1イベントの自動編集が行われます。その前に「プレビュー」機能を使えば、意図通りの設定ができていないか確認することができます。編集を実行した後は「レビュー」で編集結果を確認することができます。

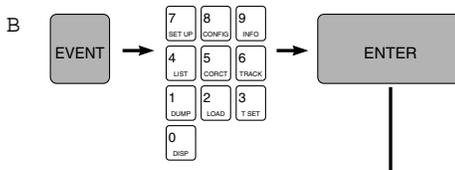


(プレビュー) 編集を実行する前にリハーサル再生をします。

A  ①[PREVIEW] ボタンを押すと、今登録したイベント(ディスプレイにイベント No. が表示されているイベント)についてプレビューを行います。

(レビュー) 編集後、テープに記録された内容を再生して確認できます。

A  + 



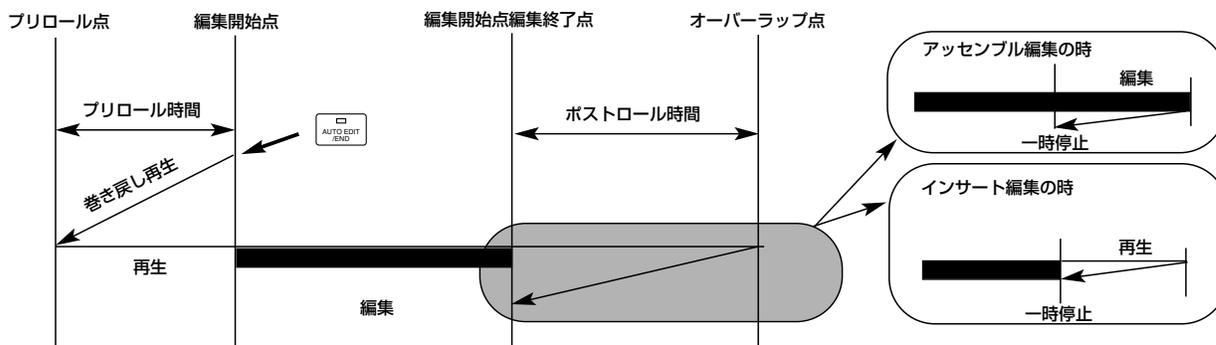
- ①ニューイベントでも [REVIEW] ボタンを押すと、すでに編集された前のイベントを再生します。
- ②編集済みのイベントはどこからでも呼び出してレビューすることができます。

(編集の実行) 連続自動編集の場合は編集を実行しないで次のイベントの入力を行ってください。



[AUTO EDIT / END] ボタンを押すと1イベントの自動編集を開始します。

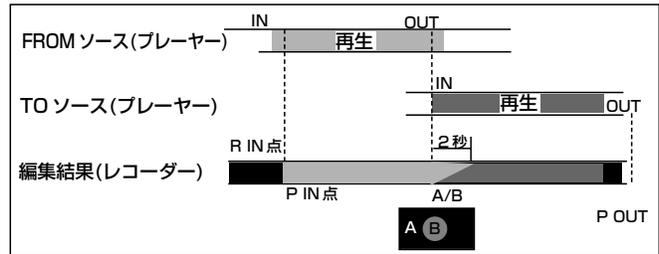
- * 編集実行後 EVENT No. が追加され、今までの RECORDER の編集 OUT 点が編集 IN 点として自動的に計算されます。
- * 途中で編集を終了したい場合 [ALL STOP] ボタンを押します。



A / B ロール編集の操作方法

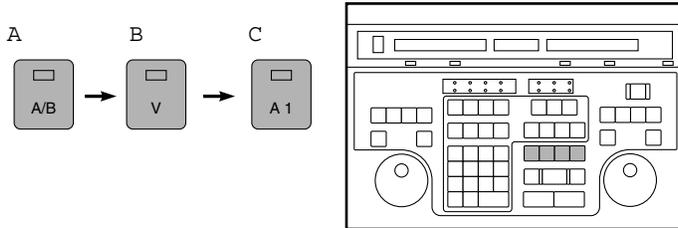
次の例をもとにプレーヤー2台を同時に使ったA / Bロール編集について説明します。

モード : A/Bロール編集
 インサート編集 (映像、音声 ch1)
 Aロール : PLAYER1 IN 00:09:32:18
 OUT 00:09:58:24
 Bロール : PLAYER2 IN 00:01:08:21
 OUT 00:01:12:02
 RECORDER IN 00:00:00:00
 OUT 00:00:29:17 (自動計算)
 画像特殊効果 : サークルワイプ (ノーマル) …… (WJ-MX50 を使ったとき)
 トランジションタイム : 2秒



1. 編集モードの選択

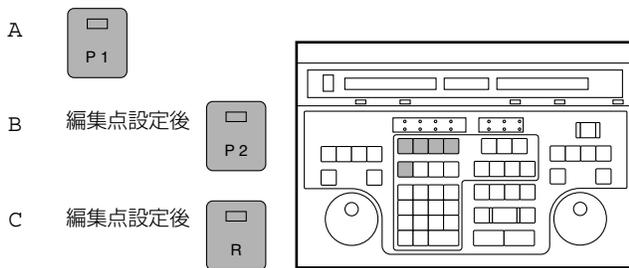
A/Bロール編集 インサート編集モードを選択します。



- ① A / B ロール編集は [A / B] ボタンを押します。シンクロール編集の場合は [SHIFT] ボタンを押しながら [A/B] ボタンを押します。
- ②・③ インサート編集は、記録済みのテープに映像や音声から必要な信号だけ選んで編集できます。

2. VTR(外部機器)の選択

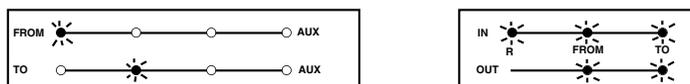
操作するVTRを選びます。



- P1 ~ P4, AUX1 ~ AUX4, Rのうち選択されたボタンのランプが点灯しているものをAG-A850で操作できます。
- ①最初に選択して編集点を設定したプレーヤーがFROMソース側になります。TOソース側から先に選択するには [TO] ボタンを押してからVTRを選択します。
 - ②2番目に選択して編集点を設定したプレーヤーがTOソース側になります。
 - ③レコーダーVTRを選択します。

3. 編集点の設定

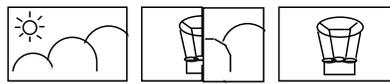
登録の方法はカット編集の場合と同様3つの方法があります。P1のIN点 / OUT点、P2のIN点 / OUT点、RECORDERのIN点の計5点を登録してください。R OUT点は編集実行時に自動計算されます。編集登録ランプが下のように点灯すれば登録完了です。

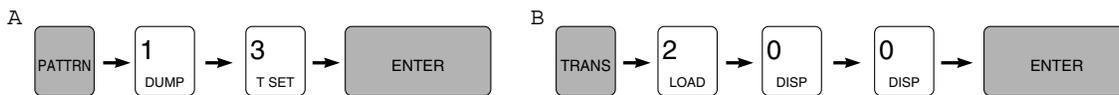


A / B ロール編集の操作方法

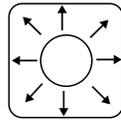
4. 特殊効果等の設定

EFFECT 効果を設定します。

効果の名称	効果の内容	
ディゾルブ (MIX)	はじめの映像が次第に消えながら次の映像が表示されてくる。	
ワイプ	はじめの映像を次の映像がぬぐい去るように切り換わる。	



- ①ビデオスイッチャーの効果を設定します。ディゾルブのときは0を入力し、ワイプの時はパターン番号を入力します。
ここでは、ワイプパターンに“13”を設定します。
- ②トランジションタイム（効果が始まって終わるまで）を設定します。この場合は2秒0フレームを設定されます。
0～最大59秒29フレームで設定可能 (PALは最大59秒24フレーム)

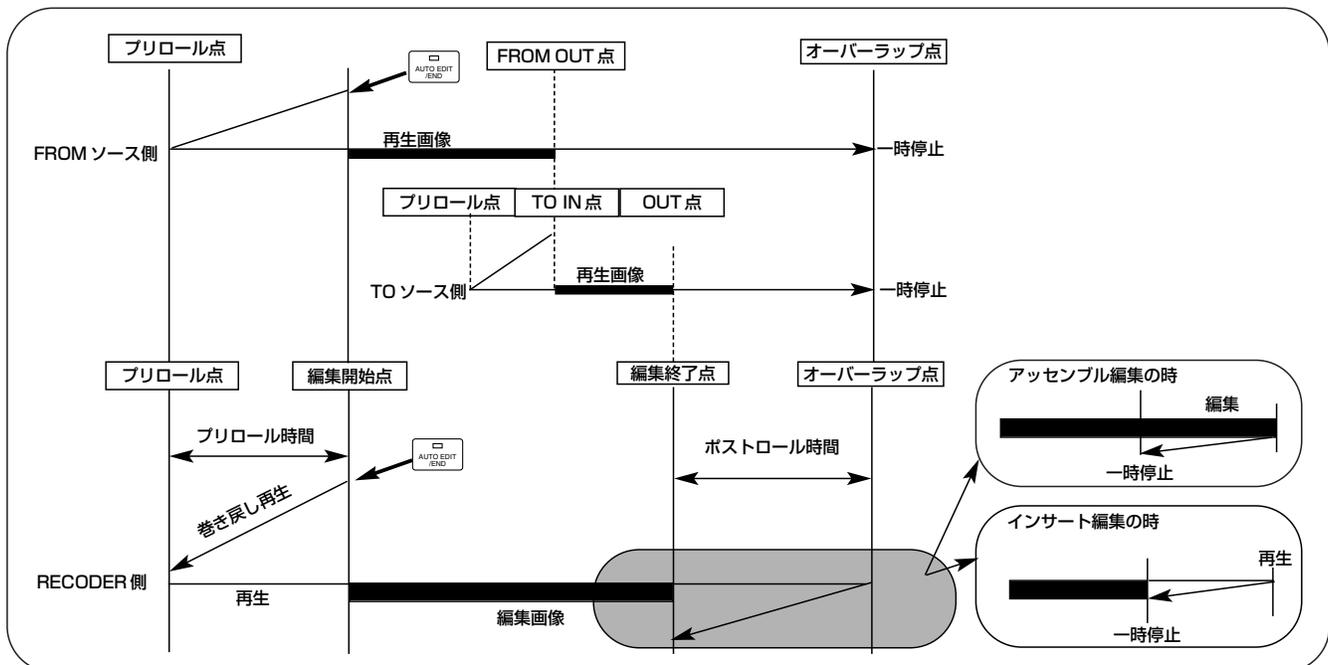


A/B点でサークルワイプ (ノーマル方向)
トランジションタイムは2秒 (60フレーム)

EFFECT 点での効果の他に、初期スピードの設定、GPIの設定、オーディオスプリットの設定（インサート編集の時）などを行います。詳しくは、さまざまな編集をご覧ください。

5. 編集の実行

編集点と特殊効果の設定が終了したらプレビューしてみます。手順はカット編集と同じです。OKならば自動編集を実行します。



マルチレコーダー編集

AG-A850は、カット編集やA/Bロール編集の他に、次のような編集を行うことができます。

- ①同時に複数のマスターテープを作成したい・・・マルチレコーダー編集
- ②EDLメモリーの編集データを連続して編集したい・・・マルチイベント編集
- ③編集OUT点の設定を省略したい・・・オープンエンド編集
- ④編集IN点の設定を省略したい・・・パークアンドエディット
- ⑤スイッチャーを手動で切り換えたい・・・シンクロール編集
- ⑥スロー再生した映像を編集したい・・・スロー編集
- ⑦編集中に再生速度を変えたい・・・ワンタッチスロー編集
- ⑧補助ソース (AUX) からの信号を使って編集したい・・・補助ソース (AUX) の編集
- ⑨映像と音声のずらした編集をしたい・・・オーディオスプリット編集
- ⑩外部機器を制御して編集をしたい・・・GPIの設定
- ⑪編集用テープを作りたい・・・ファーストエディット
- ⑫タイムコードだけを記録したい・・・TCインサート編集

マルチレコーダー編集

AG-A850は一回の編集で同時に3巻までのマスターテープを作成するマルチレコーダー編集を行うことができます。ここでは、P3、P4をスレーブVTRとしたマルチレコーダー編集について説明します。

システムの接続

システム接続の「プレーヤー2台と、レコーダー3台を使ったマルチレコーダーA/Bロール編集システム」をご覧ください。

システムの設定

ポート関係のSET UPでPORT STATUSを右図のように設定します。操作の方法は「お問い合わせになる前に」(89ページ)をご覧ください。

PORT STATUS	
1	PORT-A.....R*
2	PORT-B.....P1*
3	PORT-C.....P2*
4	PORT-D.....P3(SLAVE)
5	PORT-E.....P4(SLAVE)
6	PORT-F.....SW'ER*
7	PORT-G.....MIXER*

設定の方法



- 1 通常のカット編集やA/Bロール編集と同じ手順で編集データを設定します。スレーブVTR (P3、P4) の編集点は設定する必要はありません。

編集の実行



- 1 [AUTO EDIT/END]ボタンを押します。マルチレコーダー編集を開始します。[レコーダーVTRおよびスレーブVTR (P3、P4) で記録が行われます。]
- 2 編集OUT点を設定していないときは、[AUTO EDIT/END]ボタンを押して編集を終了させます。

[ご注意]

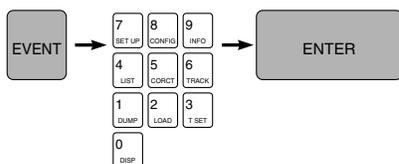
- ・レコーダーVTRやスレーブVTRは、タイムコード (TC) を使用されることをおすすめします。CTLを使用すると、レコーダーVTRとスレーブVTRとで編集点がずれたマスターテープが作成されるなど、正常な編集ができないことがあります。
- ・レコーダーVTRとスレーブVTRのタイムコードの値やフレームモードは一致している必要があります。
- ・マルチレコーダー編集でのキューオーディオトラックの選択 (システム設定一覧のCUE CONTRL 参照) は、スレーブVTRもレコーダーVTRと同じになります。
- ・レコーダーVTRとスレーブVTRの機種が異なるときは、正常な編集ができないことがあります。詳しくは、「お問い合わせになる前に」(91ページ)をご覧ください。

マルチイベント編集／オープンエンド編集

マルチイベント編集

1つのイベントの編集データを設定したあとすぐに編集を行わずに、いくつかのイベントのデータを登録し、まとめて編集することができます。

【編集データの呼び出し】



- 1 編集を開始するイベントを呼び出します。呼び出し方には、おもに次の2つの方法を使います。
 - ・ [EVENT]ボタンを押したのち、イベント番号を入力し[ENTER]ボタンを押します。
 - ・ [FS (SHIFT+ “+”)]または[BS (SHIFT+ “-”)]ボタンを繰り返し押し、目的のイベントを探します。くわしい操作は「編集データの登録と呼び出し」をご覧ください。

【編集の実行】



- 1 [PROGRAM EDIT (SHIFT+AUTO EDIT/END)]ボタンを押します。表示しているイベントから登録順に EDL リストの最後のイベントまで、編集を自動的に行います。

【ご注意】

- ・ マルチイベント編集は、ニューイベントの編集は行いません。
- ・ マルチイベント編集を行うときは、すべてのVTR (特にレコーダー) にタイムコード (TC) を使用してください。CTLを使用すると、完成したテープの編集点が設定した値と大きくずれることがあります。

オープンエンド編集

編集 OUT 点の設定を省略して編集することをオープンエンド編集といいます。

【設定方法】



- 1 通常のカット編集やA/Bロール編集と同じ手順で編集データを設定します。編集OUT点のみ設定しません。
- 2 A/Bロール編集の時だけ、FROMソースの編集OUT点を設定します。

【編集の実行】



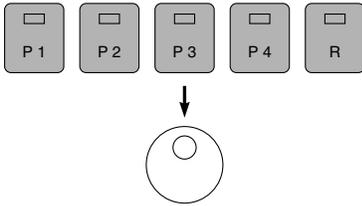
- 1 [AUTO EDIT/END]ボタンを押します。オープンエンド編集を開始します。
- 2 必要なシーンの記録ができましたら、もう一度 [AUTO EDIT/END]ボタンを押して終了させます。

パークアンドエディット/シンクロール編集

パークアンドエディット

編集 IN 点の設定を省略して、編集することをパークアンドエディットといいます。
編集 IN 点を設定していない VTR は、現在のテープの位置を編集 IN 点に設定します。

【設定方法】



- 1 [P1, P2, P3, P4, R] ボタンで使用する VTR を選択します。
- 2 サーチダイヤルを使って編集 IN 点を探します。

【編集の実行】



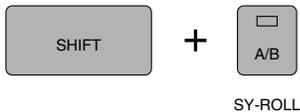
- 1 [AUTO EDIT/END]ボタンを押します。現在のテープの位置を編集 IN 点に設定して、編集を開始します。
- 2 編集 OUT 点を設定していないときは、[AUTO EDIT/END]ボタンを押して編集を終了させます。

さまざまな編集

シンクロール編集

FROM ソースと TO ソースを同時にスタートさせ映像を見ながら手でスイッチャーを切り換えます。

【設定方法】



- 1 [SYNC (SHIFT+A/B)]ボタンを押します。ランプが点滅します。
- 2 以降の設定は、A/B ロール編集と同じです。ソースを選択し、編集モードと編集点を設定してください。なお、レコーダー VTR と、FROM ソース、TO ソースのデュレーションは同じになります。

【編集の実行】



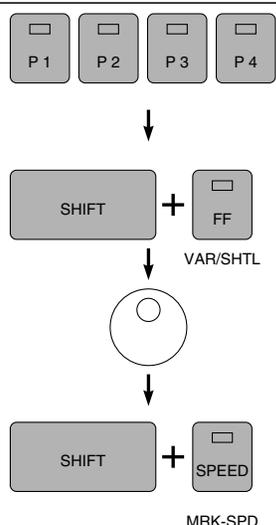
- 1 [AUTO EDIT/END]ボタンを押します。シンクロール編集を開始します。
- 2 任意の点でビデオスイッチャーを操作し映像を切り換えます。
- 3 編集 OUT 点を設定していないときは、[AUTO EDIT/END]ボタンを押して編集を終了させます。

スロー編集

スロー編集

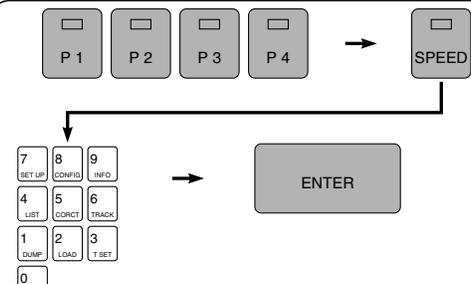
【設定方法】

1) 実際に VTR をスロー再生して設定する方法 (MRK-SPD)



1 [P1, P2, P3, P4]ボタンで、スロー再生するVTRを選択します。
2 [VAR/SHTL (SHIFT+FF)]ボタンを押して、サーチダイヤルをVARモードにします。
3 サーチダイヤルを回してVTRを希望のスピードで再生させます。
4 [MRK-SPD (SHIFT+SPEED)]ボタンを押します。

2) 初期スピードを数値入力する方法



1 [P1, P2, P3, P4]ボタンを押して、スロー再生するVTRを選択します。
2 [SPEED]ボタンを押します。ボタンを押しているあいだ、設定されているスピードを表示します。
3 [0]~[9]の数値入力キーと[-]ボタンで、通常の再生速度を“100”として、初期スピードを入力します。逆方向再生するときは、[-]ボタンを押して、数値の前にマイナスを入力します。
4 [ENTER]ボタンを押します。

【編集の実行】



1 [AUTO EDIT/END]ボタンを押します。スロー編集が開始されます。
2 編集中にサーチダイヤルを操作して、再生速度を変化させることもできます。編集をはじめる前に、サーチダイヤルをVARモードにしてください。
3 編集OUT点を設定していないときは、[AUTO EDIT/END]ボタンを押して編集を終了させます。

【ご参考】

- ・初期スピードは、-100%~300%の範囲で設定できます。
- ・スロー編集を取り消すには、[SPEED]、[C]、[ENTER]ボタンと続けて押してください。

【ご注意】

- ・スロー再生するVTRは、調相動作を行いませんので、編集精度は悪くなります。
- ・VTRの機種により、設定されたスピードで再生できないことがあります。
- ・スロー再生機能のないVTRでスロー編集を行うと、正常な映像を記録できません。

ワンタッチスロー再生/補助ソース (AUX) の編集

ワンタッチスロー再生

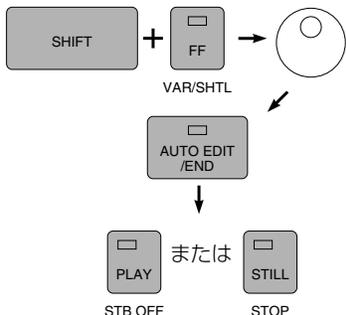
編集中、プレーヤー VTR をワンタッチで「標準スピード再生」から「スロースピード再生」にすることができます。

【設定方法】



- 1 通常のカット編集や A/B ロール編集と同じ手順で編集データを設定します。[SPEED] ボタンを使って初期スピードを設定する必要はありません。

【編集の実行】

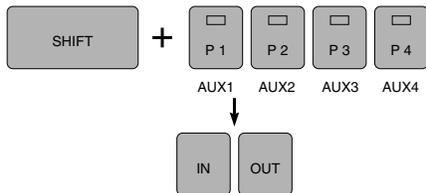


- 1 編集を始める前、プレーヤー VTR のサーチダイヤルを VAR モードにします。
- 2 サーチダイヤルで VTR を希望のスピードで再生させます。
- 3 [AUTO EDIT/END] ボタンを押します。
標準スピード再生で編集が開始されます。
- 4 編集中、プレーヤー側の [PLAY] ボタンを押すと、サーチダイヤルで設定したスピードに切り替わります。再度 [PLAY] ボタンを押すと、標準スピード再生 (VAR) に戻ります。また、[STILL] ボタンを押すと静止します。

補助ソース (AUX) の編集

補助ソース (AUX) を使用することにより、VTR 以外のソースを編集することができます。通常、VTR を使った編集では、タイムコード (TC) や CTL 信号により編集点を設定しますが、カメラや信号発生器などの映像信号や CD プレーヤーや DAT などの音声信号を編集するときは、TC や CTL が無いため VTR と同じように編集点を定めることができません。次のように、補助ソース (AUX) として設定し編集点を決めます。

【設定方法】



- 1 [AUX1, AUX2, AUX3, AUX4 (SHIFT + P1, P2, P3, P4)] ボタンで補助ソースを選択します。
- 2 通常のカット編集や A/B ロール編集と同じ手順で編集データを設定します。ただし、編集点の入力はテンキーを使って行います。サーチダイヤルと [MARK IN/OUT] を使った設定はできません。
[例] 5 秒間の編集を設定するには、
[IN] [0] [ENTER] 編集 IN 点の登録
[OUT] [5] [0] [0] [ENTER] 編集 OUT 点の登録
と入力します。

【編集の実行】



- 1 [AUTO EDIT/END] ボタンを押します。
補助ソースを使った編集を開始します。
- 2 編集に合わせて、補助ソースを手動で操作します。
GPI を使って自動的に制御する場合は、この操作は必要ありません。
- 3 編集 OUT 点を設定していないときは、[AUTO EDIT/END] ボタンを押して編集を終了させます。

【ご参考】

- ・ビデオスイッチャーやオーディオミキサーを使用するときは、それぞれの入力チャンネルに合わせて、クロスポイントの設定が必要になります。システム設定一覧の「SW'ER CROSS POINT」および「MIXER CROSS POINT」の項目をご覧ください。
- ・補助ソースのスタートタイミング制御はできません。手動で行うか GPI を使用してください。

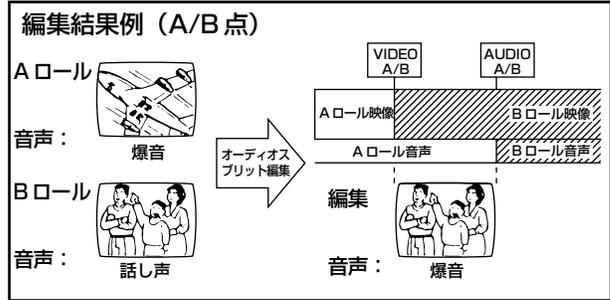
【ご注意】

- ・補助ソースに GPI 端子があっても、その仕様が AG-A850 に合わないときは使用しないでください。動作しないばかりでなく、故障の原因となります。接続の是非は機器メーカーにお問い合わせください。なお、AG-A850 の仕様は裏表紙の「定格」をご覧ください。

オーディオスプリット編集

オーディオスプリット編集

インサート編集の編集IN点、A/B点、OUT点で使える編集テクニック。映像に先行して次のカットの音声を入れたり、音声だけが次のカットに残ったりする効果が得られます。



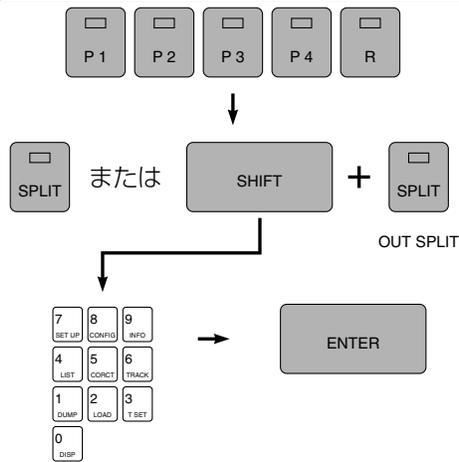
【設定方法】

1) VTRのタイムコードを読みとって設定する方法 (MARK SPLIT)



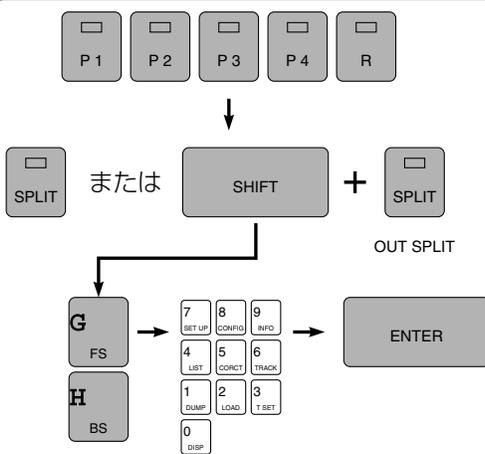
- 1 VTR を選択したあと、サーチダイヤルなどを使って、設定する編集点を探します。
- 2 [SHIFT]ボタンを押しながら、[MARK IN]ボタンを押します。VTRのタイムコードを読み取って、音声の編集点として設定します。[SHIFT]ボタンを押しながら[MARK OUT]ボタンを押すと、OUT側のスプリット点(OUT SPLIT)を設定します。

2) VTRのタイムコードを入力する方法



- 1 [P1, P2, P3, P4, R]ボタンで、タイムコードを設定するVTRを選択します。
- 2 [SPLIT]ボタンを押します。ボタンを押しているあいだ、設定されているタイムコードを表示します。[SHIFT]ボタンを押しながら[SPLIT]ボタンを押すと、OUT側のスプリット点(OUT SPLIT)を表示します。
- 3 [0]~[9]の数値入力キーで、希望するタイムコードを入力します。
- 4 [ENTER]ボタンを押します

3) 編集点からのスプリット量を入力する方法



- 1 [P1, P2, P3, P4, R]ボタンで、スプリット量（映像と音声の編集点のずれの量）を設定するVTRを選択します。
- 2 [SPLIT]ボタンを押します。ボタンを押しているあいだ、設定されているスプリット量を表示します。[SHIFT]ボタンを押しながら[SPLIT]ボタンを押すと、OUT側のスプリット点(OUT SPLIT)を表示します。
- 3 映像の編集点より音声を先行させるときは[-]ボタンを押し、タイム表示部に 'A' と表示させます。また、映像の編集IN点より音声を遅らせるときは[+]ボタンを押し、タイム表示部に 'd' と表示させます。
- 4 [0]~[9]の数値入力キーで、希望するスプリット量を入力します。
- 5 [ENTER]ボタンを押します。

オーディオスプリット編集

【編集の実行】



- 1 [AUTO EDIT/END]ボタンを押します。オーディオスプリット編集を開始します。
- 2 編集OUT点を設定していないときは、[AUTO EDIT/END]ボタンを押して編集を終了させます。

【ご参考】

- ・設定できるスプリット量は、±59秒29フレーム（NTSC）[±59秒24フレーム（PAL）] までです。
- ・オーディオスプリット編集を取り消すには、[SPLIT]、[C]、[ENTER]ボタンと続けて押してください。
- ・MARK SPLITはプレビュー中でも行うことができます。

【ご注意】

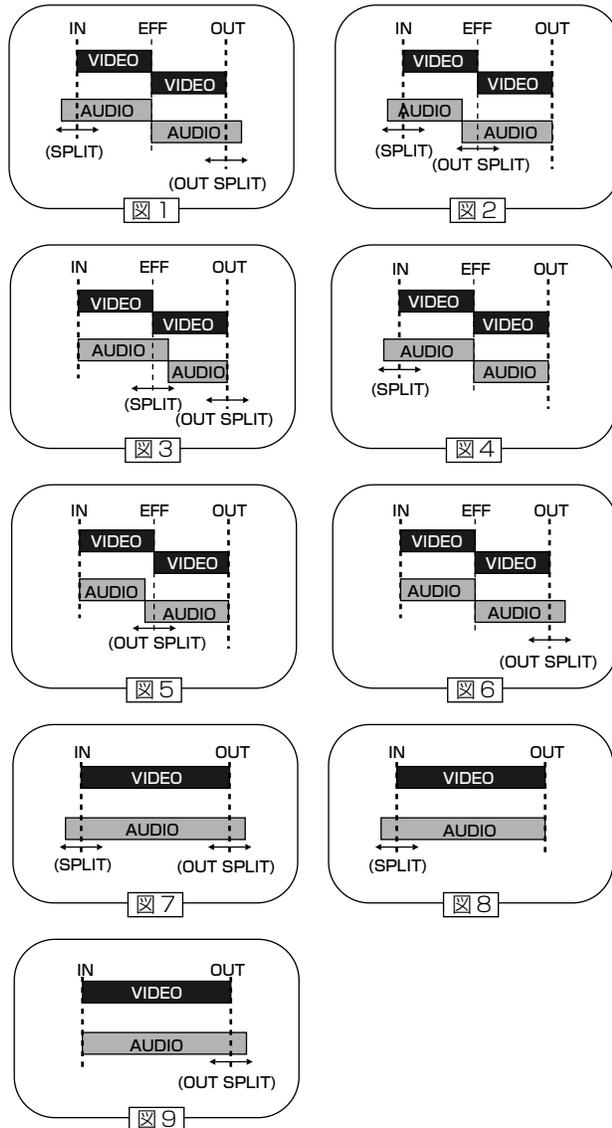
- ・アッセンブル編集では、オーディオスプリット編集はできません。
- ・編集動作を行わないVTRで設定をしたときは、オーディオスプリット編集は行いません。

オーディオスプリット

一般に使用する編集IN点でのスプリット設定の他に、さらに1ヶ所のスプリット（OUT SPLIT）点の設定をすることができます。設定されたスプリット点と編集時の動作は次のようになります。

スプリット設定の基準		編集の種類		
SPLIT	OUT SPLIT	CUT	A/B ROLL	SYNC ROLL
R-VTR	R-VTR	☒ 7	☒ 1	☒ 7
R-VTR	A-VTR	☒ 7	☒ 2	☒ 7
R-VTR	B-VTR		☒ 1	☒ 7
R-VTR	D	☒ 7	☒ 1	☒ 7
R-VTR	-----	☒ 8	☒ 4	☒ 8
A-VTR	R-VTR	☒ 7	☒ 1	☒ 7
A-VTR	A-VTR	☒ 7	☒ 2	☒ 7
A-VTR	B-VTR		☒ 1	☒ 7
A-VTR	D	☒ 7	☒ 1	☒ 7
A-VTR	-----	☒ 8	☒ 4	☒ 8
B-VTR	R-VTR		☒ 3	☒ 7
B-VTR	A-VTR		☒ 7	☒ 7
B-VTR	B-VTR		☒ 3	☒ 7
B-VTR	D	☒ 3	☒ 3	☒ 7
B-VTR	-----	☒ 5	☒ 5	☒ 8
D	R-VTR	☒ 7	☒ 1	☒ 7
D	A-VTR	☒ 7	☒ 2	☒ 7
D	B-VTR		☒ 1	☒ 7
D	D	☒ 7	☒ 1	☒ 7
D	-----	☒ 8	☒ 4	☒ 8
-----	R-VTR	☒ 9	☒ 6	☒ 9
-----	A-VTR	☒ 9	☒ 5	☒ 9
-----	B-VTR		☒ 6	☒ 9
-----	D	☒ 9	☒ 6	☒ 9

- R-VTR: レコーダーVTRのタイムコードで設定
- A-VTR: AロールVTRのタイムコードで設定
- B-VTR: BロールVTRのタイムコードで設定
- D: 編集点からのスプリット量で設定
- : 未設定



GPI の設定

GPI の設定

GPI 端子を使って、トリガー入力端子を持った外部機器などを制御することができます。AG-A850 は、GPI1 と GPI2 の出力端子を装備しており、GPI1 はイベントごとに出カタイミングを変えられます。さらに GPI1 は 1 回の編集集中に、2 回の GPI 出力をすることができます。

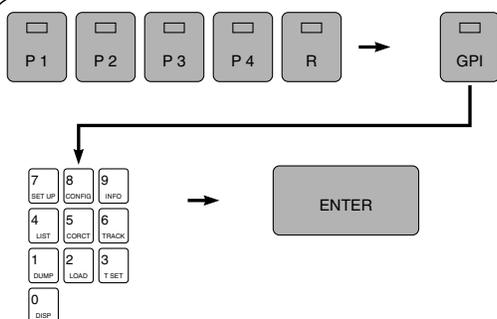
【設定方法】

1) VTR のタイムコードを読みとって設定する方法 (MRK-GPI)



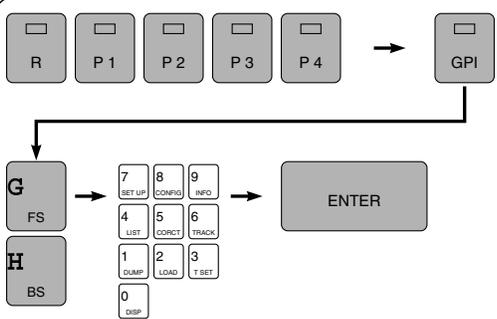
- 1 VTR を選択したあと、サーチダイヤルなどを使って、設定する編集点を探します。
- 2 [SHIFT] ボタンを押しながら、[GPI] ボタンを押します。VTR のタイムコードを読み取って、GPI の出力時間を設定します。

2) VTR のタイムコードを入力する方法



- 1 [P1, P2, P3, P4, R] ボタンで、タイムコードを設定する VTR を選択します。
- 2 [GPI] ボタンを押します。ボタンを押しているあいだ、設定されている GPI の設定値を表示します。
- 3 [0]~[9] の数値入力キーで、希望するタイムコードを入力します。
- 4 [ENTER] ボタンを押します

3) 編集点からの相対時間を入力する方法



- 1 [P1, P2, P3, P4, R] ボタンで、相対時間を設定する VTR を選択します。
- 2 [GPI] ボタンを押します。ボタンを押しているあいだ、設定されている GPI の設定値を表示します。
- 3 編集点より先行して GPI を出力するときは [-] ボタンを押します。また、編集点のあとで GPI を出力するときは [+] ボタンを押します。基準となる編集点は、選択している VTR と [+] [-] ボタンを押した回数で決まります。
- 4 [0]~[9] の数値入力キーで、編集点からの相対時間を入力します。
- 5 [ENTER] ボタンを押します。

【編集の実行】



- 1 [AUTO EDIT/END] ボタンを押し、編集を開始します。設定したタイミングで GPI を出力します。
- 2 編集 OUT 点を設定していないときは、[AUTO EDIT/END] ボタンを押して編集を終了させます。

GPI の設定

[ご参考] GPIの基準点と表示

- ・GPIの出力時間を編集点からの相対値で入力したとき、選択しているVTRと[+]、[-]ボタンを押した回数で基準点が決まり、タイム表示部に表示されます。

選択しているVTR	[+]ボタンを1回押したとき	[+]ボタンを2回押したとき	[+]ボタンを3回押したとき
レコーダー	REC INとの相対時間で設定 タイム表示部 [ri d ××:××]	REC OUTとの相対時間で設定 タイム表示部 [ro d ××:××]	タイムコードでの設定 タイム表示部 [×:×:×:×]
FROMソース	FROM INとの相対時間で設定 タイム表示部 [fi d ××:××]	FROM OUTとの相対時間で設定 タイム表示部 [fo d ××:××]	タイムコードでの設定 タイム表示部 [×:×:×:×]
TOソース	TO INとの相対時間で設定 タイム表示部 [ti d ××:××]	TO OUTとの相対時間で設定 タイム表示部 [to d ××:××]	タイムコードでの設定 タイム表示部 [×:×:×:×]

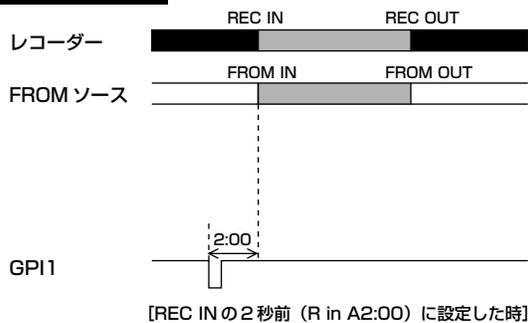
[-]ボタンを押したときの表示は [ri A ××:××] など、“d”のかわりに“A”が表示されます。

[ご参考]

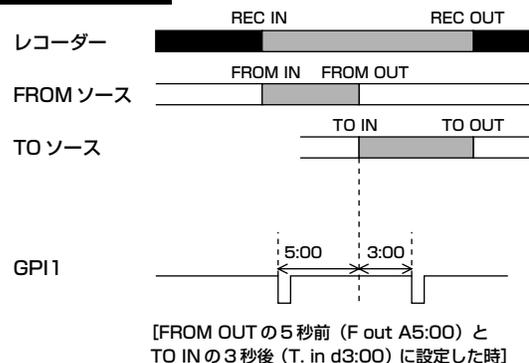
- ・同じイベントでGPIを3カ所設定すると、最初に行った設定は無効になります。
- ・設定できる相対時間は、±59秒29フレーム（NTSC）[±59秒24フレーム（PAL）] までです。
- ・GPI設定を取り消すには、[GPI]、[C]、[ENTER]ボタンと続けて押してください。
2ヶ所の設定がされているときは、まずあとに設定したデータから取り消されます。
- ・すべてのイベントで共通のGPI設定は、付録Aのシステム設定一覧（GPI CONTROL）をご覧ください。
- ・MARK GPIはプレビュー中でも行うことができます。
- ・スイッチャー関係のセットアップの「SW'ER DSK MODE」をGPI1にすると、ここでのGPIの設定にしたがってDSKをON/OFFすることができます。（WJ-MX50、GVG-100、VPS-300を使用時）

GPI 端子からの出力信号

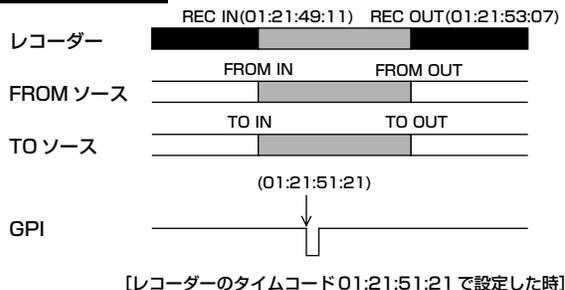
CUT 編集



A/Bロール編集



シンクロール編集



[ご参考]

実際のGPIの出力信号は、GPI関係の拡張セットアップの設定により調整できます。
AG-A850の初期設定ではこの図の出力タイミングより1フレーム早くGPI信号が出力されます。

[ご注意]

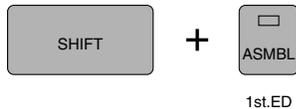
- ・編集動作を行わないVTRで設定しても、GPIは出力されません。
- ・編集区間外（プリロール～ポストロール区間外）でのGPIの設定はしないでください。
正常にGPI出力がされないことがあります。

ファーストエディット／TC インサート編集

ファーストエディット

アッセンブル編集を行うとき、レコーダーの編集 IN 点の前に、正常な映像信号を記録する必要があります。ファーストエディットは、これを自動的に行う機能です。

【設定方法】



- 1 レコーダー VTR を操作して、記録する位置を頭出しします。
- 2 [SHIFT] ボタンを押しながら、[ASMBL] ボタンを押してランプを点滅させます。

【編集の実行】



- 1 [AUTO EDIT/END] ボタンを押します。レコーダー VTR の現在の位置から記録をはじめ、約 25 秒間で終了します。編集終了後は、アッセンブル編集モードになります。
- 2 プレーヤー VTR の編集点の設定が完了していると、ファーストエディットに続いてこのイベント編集を自動的に開始します。

[ご参考] フォーマット

挿入編集を行うときは、テープのフォーマットが必要です。[T SET (SHIFT+3)] ボタンを使って記録するタイムコードの初期値を設定し、手動記録 ([REC+PLAY]) を行ってください。

[ご参考]

- ・ファーストエディットモードを取り消すには、もう一度 [SHIFT] ボタンを押しながら [ASMBL] ボタンを押してランプの点滅を止めてください。
- ・記録するタイムコードは、ファーストエディットモードに入る前に設定したレコーダー VTR の編集 IN 点を基準にします。設定されていないときは、“00 : 00 : 00 : 00” をレコーダー VTR の編集 IN 点に設定し、その時間を基準ファーストエディットを行います。
- ・実際に記録するタイムコードは、基準となるタイムコードから約 23 秒引いた時間からおよそ 25 秒間になります。
- ・TC インサート編集を登録しているイベントでファーストエディットを行ったときは、ファーストエディット終了後、編集モードの変更やそのイベントの編集は行いません。

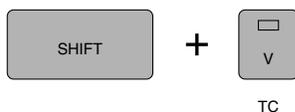
[ご注意]

- ・ファーストエディットやフォーマットを行うときは、レコーダーの映像入力にブラックバーストなどの信号を入力してください。
- ・ご使用になる VTR により、ビデオ信号とタイムコードとのカラーフレーム位相が合わせられないことがあります。詳しくは、「お問い合わせになる前に」(91 ページ) をご覧ください。

TC インサート編集

タイムコード(LTC)だけを、レコーダー VTR 側のテープへ記録します。プレーヤー VTR に使用するテープにタイムコードが記録されていないときや、途中で不連続(TC JUMP)になっていて編集ができないときなどに使用します。

【設定方法】



- 1 [T SET (SHIFT+3)] ボタンを使って、記録するタイムコードの初期値を設定します。(詳しくは、VTR の時間設定をご覧ください)
- 2 [TC (SHIFT+V)] ボタンを押して TC ランプを点灯させます。

【編集の実行】



- 1 [AUTO EDIT/END] ボタンを押します。TC インサート編集を開始します。編集を開始するとき一度、時間表示が CTL になりますが、異常な動作ではありません。

[ご参考]

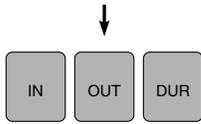
VHS (S-VHS) フォーマットの VTR は、オーディオチャンネル 2 を音声用のトラックか、タイムコード(LTC)用のトラックか切り換えて使用します。TC インサート編集を行うときは、タイムコード用のトラックになるよう、VTR 側で設定を行ってください。

[ご注意]

- ・レコーダー VTR のみを使用します。スレーブ VTR は、記録動作を行いませんのでご注意ください。
- ・ご使用になる VTR により、記録するタイムコードの初期値を設定できないことがあります。このようなときは、VTR 自身の操作でタイムコードを記録してください。

編集点を確認する (IN, OUT, DUR, LAP, GO TO)

編集点の設定値を確認する (IN, OUT, DUR)



のいずれか

- 1 [P1, P2, P3, P4]で、VTR を選択します。
- 2 [IN, OUT, DUR]ボタンを押します。
- 3 各ボタンを押している間、プレーヤータイム表示部にソース側の編集点が、レコーダータイム表示部にレコーダー側の編集点が表示されます。

[ご参考]

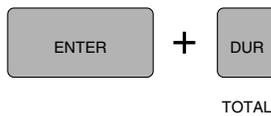
表示されるタイムコードの右側に編集点の状態が表示されます。

なにも表示しない：設定された編集点

“.”の点灯：他の編集点から自動的に算出された編集点

“.”の点滅：タイムトラックで管理された編集点

編集 IN 点からの時間を確認する (LAP)



- 1 [P1, P2, P3, P4] ボタンで VTR を選択します。
- 2 [LAP (ENTER + DUR)] ボタンを押します。
ボタンを押している間、プレーヤータイム表示部にソース側の編集 IN 点からの時間 (LAP 時間) が、また、レコーダータイム表示部にレコーダー側の LAP 時間が表示されます。

[ご参考]

編集中は、[DUR] ボタンを押して、LAP 時間を確認します。

編集点の映像を確認する (GO TO)

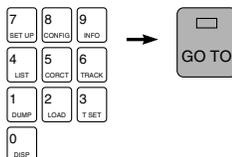
1) 編集点へ GO TO



GO TO OUT

- 1 [P1, P2, P3, P4, R]ボタンで、VTR を選択します。
- 2 編集 IN 点の映像を確認するときは、[GO TO]ボタンを押します。
[GO TO]ボタンのランプが点灯し、自動的に編集 IN 点をサーチして停止します。また、編集 OUT 点の映像を確認するときは、[GO TO OUT (SHIFT+GO TO)]ボタンを押します。

2) 任意のタイムコードへ GO TO



- 1 [P1, P2, P3, P4, R]ボタンで、VTR を選択します。
- 2 [0]~[9]の数値入力キーで、希望するタイムコードを入力します。
- 3 [GO TO]ボタンを押します。[GO TO]ボタンのランプが点灯し、自動的に入力したタイムコードをサーチして停止します。

[ご参考]

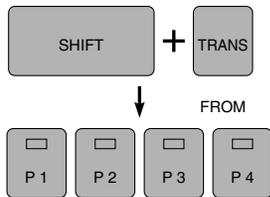
簡易操作モードでは、最後に [PLAY] ボタンなどで操作した VTR の編集点をサーチします。

編集データの修正・取り消し

編集データの修正・取り消し

編集点の設定などを間違ったとき、次のような方法で修正や取り消しを行うことができます。

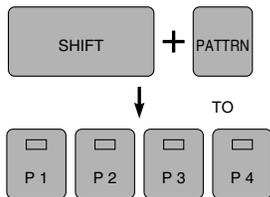
1) FROM ソースを変更する。



カット編集のソースや、A/B ロール編集のFROM ソースを変更します。

- 1 [FROM (SHIFT+TRANS)]ボタンを押します。
- 2 [P1, P2, P3, P4]ボタンを押してソース VTR を選択します。AUX1 ~ AUX4 も選択できます。

2) TO ソースを変更する。



A/B ロール編集の TO ソースを変更します。

- 1 [TO (SHIFT+PATTRN)]ボタンを押します。
- 2 [P1, P2, P3, P4]ボタンを押してソース VTR を選択します。AUX1 ~ AUX4 も選択できます。

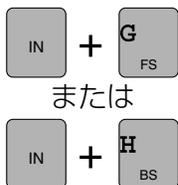
3) FROM ソースと TO ソースを交換する。



A/B ロール編集の FROM ソースと TO ソースを交換します。

- 1 [A/B]ボタンを2回押します。

4) 編集 (IN) 点を1フレームずつ調整する。(トリミング)

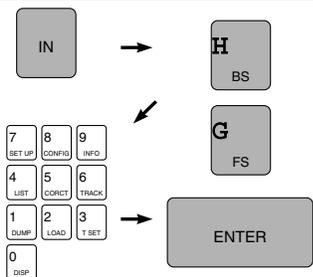


- 1 編集 IN 点を1フレーム増やすときは、[IN]ボタンを押しながら[+]ボタンを押します。また、編集 IN 点を1フレーム減らすときは、[IN]ボタンを押しながら[-]ボタンを押します。

[ご参考]

編集 IN 点と同様に、編集 OUT 点を加減するときは、[OUT]ボタンを押しながら[+]、[-]ボタンをデュレーションを加減するときは、[DUR]ボタンを押しながら[+]、[-]ボタンを押してください。

5) 編集 (IN) 点を修正する。



- 1 [IN]ボタンを押します。編集 OUT 点を修正するときは、[IN]ボタンのかわりに、[OUT]ボタンを、デュレーションを修正するときは、[DUR]ボタンを押します。
- 2 編集点を後ろにずらすときは、[+]ボタンを押します。前にずらすときは、[-]ボタンを押します。
- 3 [0]~[9]の数値入力キーで加減する値を入力します。
- 4 [ENTER]ボタンを押します。

6) 編集 (IN) 点を取り消す。



- 1 [IN]ボタンを押します。編集 OUT 点を取り消すときは、[IN]ボタンのかわりに、[OUT]ボタンを、デュレーションを取り消すときは、[DUR]ボタンを押します。
- 2 [C]ボタンを押します。
- 3 [ENTER]ボタンを押します。

編集データの登録と呼び出し

編集データの登録と呼び出し (FS、BS、EVENT)

AG-A850は、512イベント分のEDL (Edit Decision List)メモリーを内蔵しています。

AG-A850を標準操作モードで使用すれば、このEDLメモリーに編集データを登録し、必要なときに一度登録したイベントのデータを呼び出して修正したり、1イベントずつ、あるいは複数のイベントをまとめて編集を行うことができます。なお、EDLメモリーに登録したデータは、約3日間以上バックアップされますが、その後は消えてしまいますので、必要なデータは外部機器へ転送 (DUMP) しフロッピーディスクなどに保存してください。

1) 編集を実行して、編集データを登録する。



ニューイベントで編集データを作成し編集を実行すると、編集終了時に編集データを自動的にEDLメモリーに登録し、同時にイベント番号を1つ繰り上げ、編集データを更新します。また、ステータス画面では、編集を行ったイベントのイベント番号の右端に“R”のマークが表示されます。

2) 編集を実行せずに、編集データを登録する。



- 1 ニューイベントで編集データを作成し[FS (SHIFT+ “+”)]ボタンを押すと、編集データをEDLメモリーに登録し、同時にイベント番号を1つ繰り上げ、編集データを更新します。
- 2 ニューイベント以外で編集データを変更した後、[FS]ボタンを押したときは、変更確認のため再度[ENTER]ボタンを押します。編集データを変更しないときは、一度[+]ボタンを押し、表示を‘YES’から‘NO’にして[ENTER]ボタンを押します。
- 3 レコーダーVTRの編集OUT点が変更されているときは、さらにリップル処理を行うか確認します。詳しくは、「コレクト機能 (CORCT)」をご覧ください。

[ご参考]

“EDL OVERFLOW” エラーが発生したときは、それ以上登録できません。SET UPのOVER FLOWED EDITをONするか、データを消去(ERASE)してEDLメモリーの容量を確保したのち、再度登録してください。

3) 表示しているイベントの前後の編集データを呼び出す。

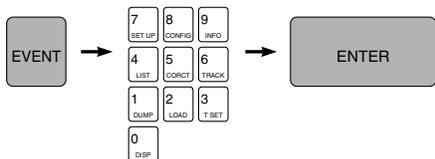


または



- ・ 1つ後ろのイベントの編集データを呼び出す。
[FS (SHIFT+ “+”)] ボタンを押します。
- ・ 1つ前のイベントの編集データを呼び出す。
[BS (SHIFT+ “-”)] ボタンを押します。

4) イベント番号を指定して、編集データを呼び出す。

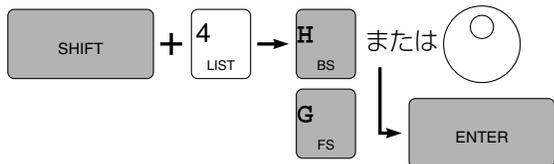


- 1 [EVENT]ボタンを押します。
- 2 [0]～[9]の数値入力キーで、希望するイベント番号を入力します。
- 3 [ENTER]ボタンを押します。

[ご参考]

削除 (DELETE) したイベントも、この操作で復活させることができます。

5) 画面上で編集データを探してから呼び出す。



- 1 [LIST (SHIFT+4)]ボタンを押します。モニター画面に、表示しているイベントとその前後のデータが表示されます。
- 2 [+], [-]ボタンで、モニター画面の編集データを前後させ希望の編集データを探します。またレコーダー操作部のダイヤルを使って探すこともできます。(ジョグモードのみ)
- 3 [ENTER]ボタンを押します。

[ご注意]

この操作は、ステータス表示用のモニターTVを使って行います。
くわしい表示内容は、「編集データを加工する(LIST)」をご覧ください。

LAST X /LAST ED/TOTAL

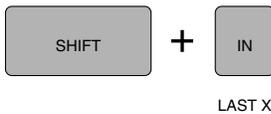
[ご注意] ニューイベントとEDLメモリー

AG-A850では、編集点などのデータを新たに入力しているイベントをニューイベントと呼び、それ以外の設定を完了したイベントのデータとは別に管理しています。ニューイベントでは、編集データは作業中であるため、設定されたデータすべてを管理しています。しかし、それ以外のイベントデータはEDLメモリーに登録され、そのときのデータの整合性をチェックした後、不要なデータの破棄を行います。

例えば、P1をソースとしたカット編集のとき、P1、P2、Rの編集点を設定しEDLメモリーに登録すると、P2の編集点は消えてしまいます。

修正した編集点を元に戻す (LAST X)

修正したり、取り消した編集点のデータを元に戻すことができます。



- 1 [LAST X (SHIFT+IN)]ボタンを押します。元の編集点に戻ります。
- 2 さらに、[LAST X]ボタンを繰り返して押すと、データを入力する前後の値が交互に表示されます。

1度編集したデータを呼び出す (LAST ED)

前にプレビュー編集したデータに戻るとき押します。



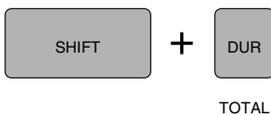
- 1 [LAST ED (SHIFT+OUT)]ボタンを押します。前にプレビュー編集した編集データに戻ります。
- 2 さらに、[LAST ED]ボタンを繰り返して押すと、直前にプレビュー編集した編集データと、交互に表示されます。

[ご参考] LAST ED (EVENT DATA) バッファ

LAST ED バッファに自動的に登録されるデータは、EDLメモリーに登録された最新のデータや、変更する前のプレビューデータです。[LAST ED]ボタンを押すと、このバッファ内に登録されたデータの画面に戻ります。データ変更後にプレビューを実行したけれど、変更前のほうが良かったといった場合に便利です。

編集の合計時間を調べる (TOTAL)

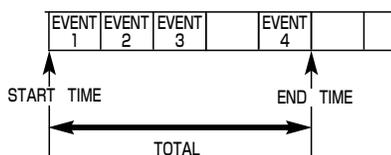
編集スタートからの時間を表示します。長さの決まっている編集を行うとき、編集時間を確認をできます。



- 1 [TOTAL (SHIFT+DUR)]ボタンを押します。ボタンを押しているあいだ、レコーダータイム表示部に、編集の合計時間を表示します。

[ご参考] スタート/エンド時間

編集点の設定の状態などにより、計算の基準となる時間が異なります。編集の合計時間は、次のエンド時間からスタート時間を引いた時間になります。

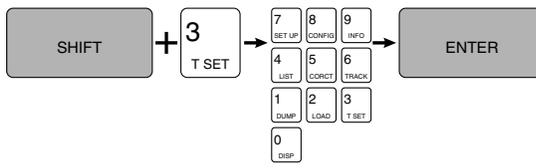


- ・スタート時間：通常は、EDLメモリーの最初のイベントに設定した編集データのレコーダーIN点をスタート時間とします。SET UPのSHOW STARTでスタート時間を設定することもできます。
- ・エンド時間：表示しているイベントのレコーダーOUT点をエンド時間とします。レコーダーOUT点が未設定のときはレコーダーIN点を、レコーダーIN点も未設定のときは、前のイベントのレコーダーOUT点をエンド時間とします。

T SET/CORCT/TRACK

VTRの時間設定 (T SET)

TC インサート編集や手動記録時の、タイムコードの初期値を設定します。



1 [T SET (SHIFT+3)]ボタンを押します。ボタンを押しているあいだ、設定されているタイムコード値を表示します。
2 [0]～[9]の数値入力キーで、記録するタイムコードの初期値を入力します。
3 [ENTER]ボタンを押します。

コレクト機能 (CORCT)

ニューイベント以外の (編集データがすでに登録されている) イベントで、編集データの修正を行う機能です。



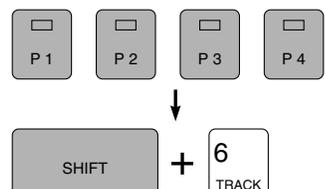
1 [CORCT (SHIFT+5)]ボタンを押します。変更した編集データをEDLメモリーに登録します。
2 レコーダーVTRの編集OUT点に変更されているときは、リップル処理を行うかを確認します。リップル処理を行うときは、[ENTER]ボタンを押します。リップル処理を行わないときは、[+]ボタンを押して表示を'YES'から'NO'にしてから[ENTER]ボタンを押します。
3 リップル処理を行うときは、次に実行するイベントを入力します。編集データを変更したイベント以降のすべてのイベントに対して処理するときは、そのまま[ENTER]ボタンを押します。イベントを指定するときは、[0]～[9]、[~]ボタンを使ってイベントを入力します。
[例] イベント5からイベント21を指定するとき
[5]、[~]、[2]、[1]、[ENTER]と入力します。

[ご参考]

編集データが登録済みのイベントで、編集点などを変更することは可能です。ただし [CORCT] ボタンを押さないと変更した内容はEDLメモリーには登録されませんので、再度イベントを呼び出したとき変更前の編集データにもどります。

トラック機能 (TRACK)

レコーダーの編集IN点の変更にしたがって、プレーヤーの編集点を効率よく設定する機能です。



1 [P1, P2, P3, P4] ボタンでタイムトラックを行うVTRを選択します。
2 [TRACK (SHIFT+6)] ボタンを押します。レコーダーIN点に合わせて、プレーヤーIN点を設定します。設定するタイムコードは前のイベントのレコーダーとプレーヤーの関係を保ちます。

[ご参考]

前のイベントに指定したプレーヤーがないときは、イベントをさかのぼって同じプレーヤーを探し、そのイベントの編集データに基づいて実行します。

[ご参考] オートタグ機能

この機能は、ニューイベントでの編集や、ニューイベントで [FS] ボタンを押してイベント番号を繰り上げるとき自動的に行うことができます。詳しくは、付録Aのシステム設定一覧のSYSTEM CONTROLのAUTO TAGの項目をご覧ください。

[ご参考] 自動タイムトラック

オートタグ機能やトラック機能により設定されたプレーヤーの編集IN点は自動タイムトラックの対象となり、レコーダーの編集IN点を修正すると、マッチフレームの関係を保つよう自動的に変更されます。なお、自動タイムトラックの対象となっている編集IN点は次のように表示されます。

●モニター表示部

タイムコードの秒とフレームの間に “'” を表示します。

〈例〉 01 : 23 : 45'24

●カウンター部

[IN] ボタンを押したとき、タイムコードの後にピリオドを点滅表示します。〈例〉 01 : 23 : 45 : 24. ←点滅

AG-A850 の設定 (SET UP)

SET UP 操作

おもにシステムの構成や接続する機器に関する設定を行います。データは不揮発性メモリーに保存しますので、電源を切ったあとも、設定内容は保持されます。設定項目ごとの内容は、付録 A のシステム設定一覧をご覧ください。

本体カウンター部表示

SETUP01	1-01	01
---------	------	----

項目 NO. 設定 NO.

SETUP MENU	トップメニュー名
1 SYSTEM CONTROL	サブメニュー名
2 PORT / CROSSPOINT	
3 SW'ER / MIXER CONTROL	
4 GPI CONTROL	
5 DIAL CONTROL	
6 DISPLAY CONTROL	

サブメニュー名	ページ
SYSTEM CONTROL	-1-
1 FUNCTION.....FULL*	→ 続くサブメニューがあるとき表示します。
2 FRAME MODE...NON DROP*	初期設定 (工場出荷時) のとき * マークを表示します。
3 COLOR FRAMING.....OFF*	
4 CF REF.....RECORDER*	
5 DIRECT SEARCH.....OFF*	
6 BUZZER VOLUME...MIDDLE*	
7 SKIP(R)MRK EVENT.....ON*	
8 MON CONTROL FOR R...OFF*	
設定項目	

- 1 [SET UP (SHIFT + 7)]ボタンを押して、SET UP モードのトップメニューを表示します。このとき、[FS (SHIFT+ “+”)]ボタンを押すと ENHANCED SET UP モードのトップメニューが表示されます。プレーヤータイム表示部には、SET UP と表示されます。
- 2 [+], [-]ボタンでサブメニューを選択し、[ENTER]ボタンを押します。
- 3 2 でサブメニュー “PORT / CROSSPOINT” または、“VTR CONSTANT” を選択したときは、さらにメニューを[+], [-]ボタンで選択し、[ENTER]ボタンを押します。
- 4 [+], [-]ボタンで設定する項目を選択し、[ENTER]ボタンを押します。
項目を選択するときに、[FS (SHIFT+ “+”)] [BS (SHIFT+ “-”)]ボタンを押すと、サブメニューが切り換わります。
- 5 [+], [-]ボタンで設定項目をご希望の値にし、[ENTER]ボタンを押します。
SHOW START や USERS BITS などの設定では、[0]~[9], [A (SHIFT+1)]~[F (SHIFT+6)], [C]ボタンを使って設定します。
- 6 [RETURN (SHIFT+ENTER)]ボタンを 2, 3 回押すと、設定値を確定し SET UP モードを終わります。
[EXIT (SHIFT+C)]ボタンを押すと、設定値を無効にし SET UP モードを終わります。

[ご参考]

AG-A850 の設定をリセットされるときは、次の手順で操作してください。

1. [SET UP (SHIFT + 7)] ボタンを押して、SET UP モードのトップメニューを表示します。
2. プレーヤー側の [RESET] ボタンを押します。画面には「SET-UP INIT. SET NO」と表示されます。
3. [+] ボタンを押して、画面に YES を表示させます。
4. [RETERN (SHIFT + ENTER)] ボタンを押します。AG-A850 の設定 (SET UP) が工場出荷時の値になります。

[ご注意]

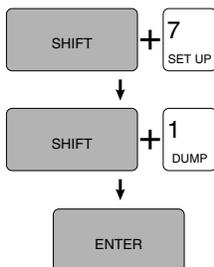
各モードを終了するときに、設定値を内部メモリーへ書き込みます。このとき電源を切ると、設定データがこわれるおそれがあります。

AG-A850 の設定 (SET UP. CONFIG)

2 か所へ SET UP データが保存できます

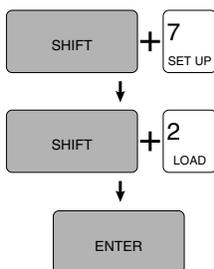
SET UP データは、設定終了後自動的に不揮発性メモリーに保存され、次に電源を入れたとき同じ値に設定されます。現在の設定値をバックアップメモリーにも保存しておくこと、SET UP データを変更した後でも、このデータを用いて元の設定値に復元することが可能です。

データの保存



- 1 [SET UP (SHIFT + 7)] ボタンを押して、SET UP モードのトップメニューを表示します。
- 2 [DUMP (SHIFT + 1)] ボタンを押します。
画面に “DUMP! USER SETUP” と表示されます。
- 3 [ENTER] ボタンを押します。
設定データがバックアップメモリーに保存されます。
[ENTER] 以外のボタンを押すと、データ保存は中止されます。

データの読み込み



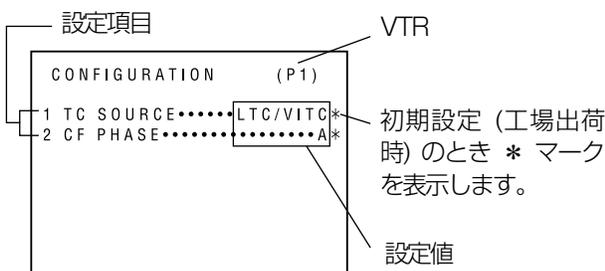
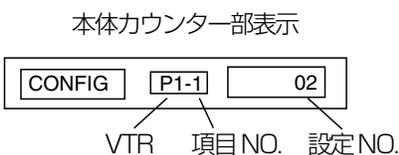
- 1 [SET UP (SHIFT + 7)] ボタンを押して、SET UP モードのトップメニューを表示します。
- 2 [LOAD (SHIFT + 2)] ボタンを押します。
画面に “LOAD! USER SETUP” と表示されます。
- 3 [ENTER] ボタンを押します。
バックアップされている設定データが読み込まれます。
[ENTER] 以外のボタンを押すと、データの読み込みは中止されます。

[ご注意]

バックアップメモリーのデータ内容は、電源を切った状態で約 3 日以上放置すると失われますが、不揮発性メモリーに保存されている通常の SET UP データは、保持されています。

CONFIG 操作

VTR ごとの設定を行います。データはバックアップメモリーに保存します。
設定項目ごとの内容は、付録 A のシステム設定一覧をご覧ください。



- 1 [P1, P2, P3, P4, R] ボタンで、VTR を選択します。
- 2 [CONFIG (SHIFT+8)] ボタンを押して、CONFIG モードのメニューを表示します。プレーヤータイム表示部には、“ConFig” と表示されます。
- 3 [+], [-] ボタンで設定する項目を選択し、[ENTER] ボタンを押します。
- 4 [+], [-] ボタンで設定項目をご希望の値にし [ENTER] ボタンを押します。
- 5 [RETURN (SHIFT+ENTER)] ボタンを押すと、設定値を確定し CONFIG モードを終わります。
[EXIT (SHIFT+C)] ボタンを押すと、設定値を無効にし CONFIG モードを終わります。

[ご注意]

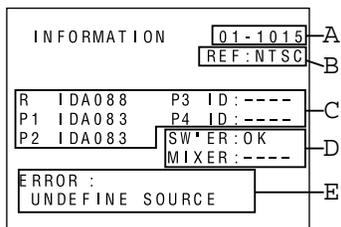
バックアップメモリーのデータ内容は、電源を切った状態で約 3 日以上放置すると工場出荷時の値になります。

モニター表示の切り換え

システムの状態表示 (INFO)



[INFO (SHIFT+9)]ボタンを押している間、システムの状態などの表示を行います。



インフォメーション画面



本体カウンター部

- ① 管理コード
- ② REF. VIDEO の状態
NTSC : NTSC (1 秒=30 フレーム) の信号が入力されていることを示します。
PAL : PAL/SECAM (1 秒=25 フレーム) の信号が入力されていることを示します。
---- : リファレンスが接続されていないか、正常でないとき表示します。SYNC GRADE を OFF にして編集してください。
- ③ デバイスタイプ (VTR ID)
VTR のデバイスタイプ (VTR ID) を表示します。(16 進数 4 桁)
VTR が接続されていないときなどでは、“----” と表示します。
- ④ スイッチャー・ミキサー
OK : スイッチャー・ミキサーが接続されています。ただし、スイッチャー・ミキサーの設定によってはコントロールができないこともあります。
---- : スイッチャー・ミキサーのコントロールができません。
- ⑤ エラーメッセージ
最後に起きたエラーコードを表示します。それぞれのエラーの内容は、エラー番号一覧をご覧ください。

[ご注意]

簡易操作モードでのインフォメーション画面は、P2～P4 表示がされないなど、表示内容が多少異なります

モニター表示の切換 (DISP)



[DISP (SHIFT+0)]ボタンを押すと、モニター画面にステータス表示や編集点表示、MONITOR IN 端子に入力された映像を表示するかを切り換えることができます。

[ご参考] 本機の MONITOR IN に VTR の映像などを入力し、MONITOR OUT にモニター TV を接続することにより、VTR 用のモニターに、ステータス表示や SET UP のメニュー画面を表示することができます。

[ご注意] MONITOR OUT から出力されるビデオ信号は、モニター TV 用の信号としてご使用ください。

ステータス表示の切り換え (STATUS DISP)



モニター画面にステータスを表示しているときに[STATUS DISP (ENTER+0)]ボタンを押すと、表示内容を編集 IN 点、OUT 点、DUR の設定値に固定できます。もう一度このボタンを押すと元にもどります。

編集データを消す

EDLメモリーの編集データを消す

1) すべての編集データを消す。

1 [EVENT]ボタンを押します。
2 [9]ボタンを4回押します。EVENT/TRANS/PATTERN表示に“9999”と表示されます。
3 [SHIFT]ボタンを押しながら、[ENTER]ボタンを押します。EDLメモリーの編集データをすべて消します。

[ご注意]

マルチEDL登録モード（256イベント×2リストモード）では、表示されているリストの編集データがEDLメモリーより消去されます。

2) 消去範囲を指定して消す。

1 [LIST (SHIFT+4)]ボタンを押します。
2 [0]ボタンを押します。
3 [ENTER]ボタンを押します。
4 [0]～[9]の数値入力キーで消去するイベント番号を入力します。複数のイベントを消去するときは、消去開始イベントを入力したあと[~]ボタンを押し、消去終了イベントを入力します。
5 [ENTER]ボタンを押します。操作4で指定したイベントの編集データが消去されます。
6 リップル処理を行うときは[ENTER]ボタンを押します。リップル処理を行わないときは、[+]ボタンを押して表示を'YES'から'NO'にしてから[ENTER]ボタンを押します。
7 操作6でリップル処理を行うとしたときは、[0]～[9]、[~]ボタンを使用して実行するイベント番号を入力します。
8 [ENTER]ボタンを押します。操作7で指定したイベントについてリップル処理を行います。

3) EDLメモリーを初期化する。

1 [LIST (SHIFT+4)]ボタンを押します。
2 プレーヤータイム表示の下にある[RESET]ボタンを押します。
3 [+]ボタンを押して、表示を'NO'から'YES'にします。
4 [ENTER]ボタンを押します。EDLメモリーの編集データをすべて消します。

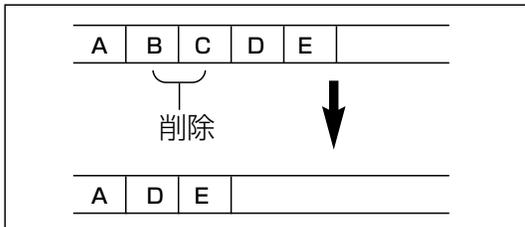
[ご注意]

マルチEDL登録モード（256イベント×2リストモード）では、表示されているリストだけでなく、もう一方のリストの編集データも含めてEDLメモリーより消去されます。

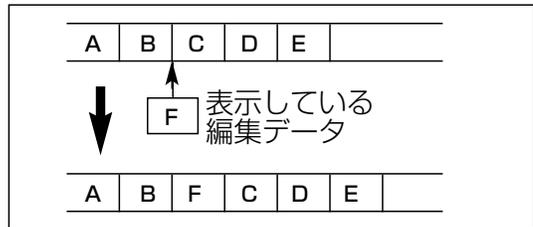
編集データを加工する (LIST)

AG-A850には、次のようなリストマネジメント機能があります。

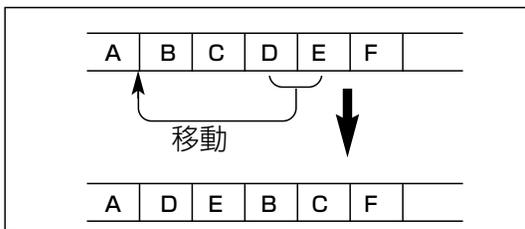
- | | |
|--------------------------------|-------------------------|
| 1) EDLメモリーの編集データをすべて消したい | 消去(ERASE) |
| 2) イベントの範囲を決めて、編集データを消したい | 削除(DELETE) |
| 3) EDLメモリーの任意の場所にイベントを作りたい | 挿入(INSERT) |
| 4) 編集データをEDLメモリーの任意の場所に移したい | 移動(TRANSFER) |
| 5) 編集データをニューイベントに複製したい | コピー to ニュー(COPY to NEW) |
| 6) レコーダーの編集点を並べ変えたい | ラインアップ(LINE UP) |
| 7) イベント番号を登録順に振り直したい | リナンバー(RENUMBER) |
| 8) 編集データをEDLメモリーの任意の場所に複製したい | コピー |
| 9) 特定の記録済イベントをもう一度マルチイベント編集したい | Rマーク(REC MARK) |



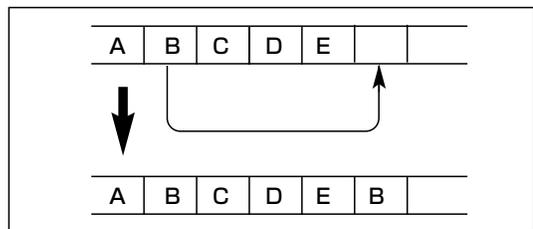
削除



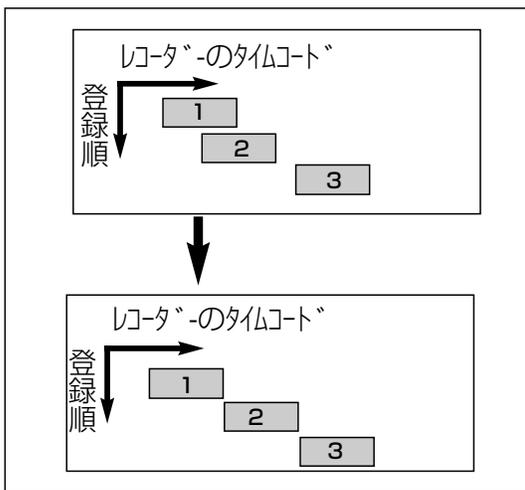
挿入



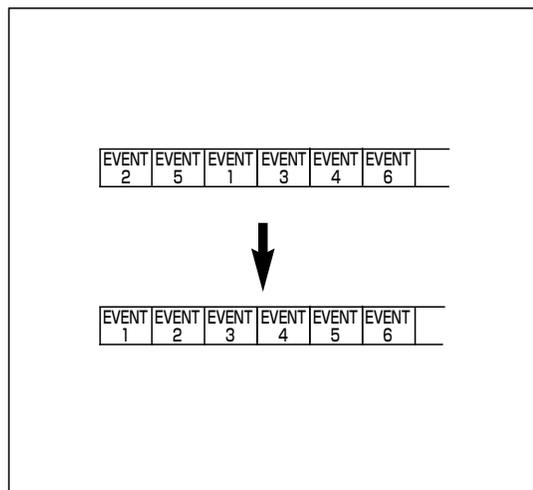
移動



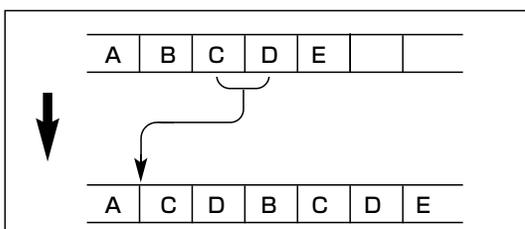
コピー to ニュー



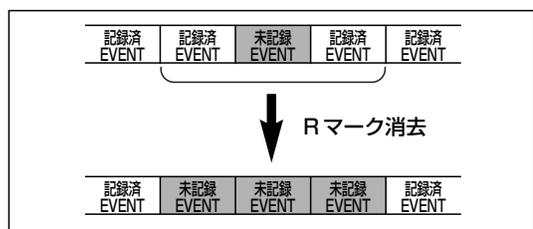
ラインアップ



リナンバー



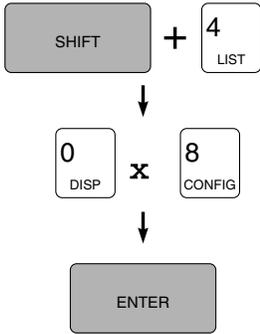
コピー



Rマーク

編集データを加工する (LIST)

操作



- 1 [LIST (SHIFT+4)]ボタンを押します。画面にEDLが表示されます。プレーヤータイム表示部には、E d Lと表示されます。
- 2 [0]~[8]ボタンでリストマネージメントの機能を選択し、[ENTER]ボタンを押します。

ボタン	機能	パネル表示	ボタン	機能	パネル表示
[0]	消去(ERASE)	E r S	[5]	ラインアップ(LINE UP)	L u P
[1]	削除(DELETE)	d E L	[6]	リナンバー(RENUMBER)	r n o
[2]	挿入(INSERT)	i n S	[7]	コピー(COPY)	C P y
[3]	移動(MOVE)	t r n	[8]	Rマーク(REC MARK)	r E C
[4]	コピーtoニュー(COPY to NEW)	C P n			

- 3 以降の操作は、リストマネージメントの機能により異なります。途中で中断するには、[EXIT] [RETURN]などのボタンを押します。

1) 消去 (ERASE)(操作2で [0] ボタンを押したとき)

The diagram shows the F/T C button with an 'x' and the ENTER button. The text describes the steps for erasing data.

- 4 [~]ボタンを押します。
- 5 [ENTER]ボタンを押します。EDLメモリーの編集データをすべて消します。

2) 削除 (DELETE) (操作2で [1] ボタンを押したとき)

The diagram shows a numeric keypad with the ENTER button. The text describes the steps for deleting data.

- 4 [0]~[9]の数値入力キーで、削除するイベント番号を入力します。複数のイベントを削除するときは、削除開始イベントを入力したあと[~]ボタンを押し、削除終了イベントを入力します。
- 5 [ENTER]ボタンを押します。操作4で指定したイベントの編集データが削除されます。操作4でイベントを指定しないときは、表示しているイベントが削除されます。
- 6 リップル処理を行うときは[ENTER]ボタンを押します。
リップル処理を行わないときは、[+]ボタンを押して表示を'YES'から'NO'にしてから[ENTER]ボタンを押します。
- 7 操作6でリップル処理を行うとしたときは、[0]~[9]、[~]ボタンを使用して実行するイベント番号を入力します。
- 8 [ENTER]ボタンを押します。操作7で指定したイベントについてリップル処理を行います。

[ご参考]

- ・編集データは削除しても、EDLメモリーに残っていますので、[EVENT]ボタンを使って再び呼び出すことができます。
- ・ニューイベントでイベント番号を指定せずに削除を行うと、表示している編集データを消去します。ただし、削除したニューイベントの編集データは再び呼び出すことはできません。

3) 挿入 (INSERT) (操作2で [2] ボタンを押したとき)

The diagram shows a numeric keypad with the ENTER button. The text describes the steps for inserting data.

- 4 [0]~[9]の数値入力キーで、挿入するイベント番号を入力します。
- 5 [ENTER]ボタンを押します。表示している編集データが、操作4で指定したイベントの後に挿入されます。操作4でイベントを指定しないときは、表示しているイベントの後ろに挿入されます。
- 6 リップル処理を行うときは[ENTER]ボタンを押します。
リップル処理を行わないときは、[+]ボタンを押して表示を'YES'から'NO'にしてから[ENTER]ボタンを押します。
- 7 操作6でリップル処理を行うとしたときは、[0]~[9]、[~]ボタンを使用して実行するイベント番号を入力します。
- 8 [ENTER]ボタンを押します。操作7で指定したイベントについてリップル処理を行います。

編集データを加工する (LIST)

4) 移動 (MOVE) (操作2で [3] ボタンを押したとき)



- [0]~[9]の数値入力キーで、移動するイベント番号を入力します。複数のイベントを移動するときは、移動開始イベントを入力したあと[~]ボタンを押し、移動終了イベントを入力します。
- [ENTER]ボタンを押します。操作4で指定したイベントの編集データを、[LIST]ボタンを押したときのイベントの後ろに移動します。
- リップル処理を行うときは[ENTER]ボタンを押します。
リップル処理を行わないときは、[+]ボタンを押して表示を'YES'から'NO'にしてから[ENTER]ボタンを押します。
- 操作6でリップル処理を行うとしたときは、[0]~[9]、[~]ボタンを使用して実行するイベント番号を入力します。
- [ENTER]ボタンを押します。操作7で指定したイベントについてリップル処理を行います。

[ご注意]

移動するイベントの中に、移動先のイベントを含んでいるとき、エラーとなることがあります。

5) コピー to ニュー (COPY to NEW) (操作2で [4] ボタンを押したとき)



- [ENTER]ボタンを押します。表示しているイベントの編集データを、ニューイベントにコピーします。

6) ラインアップ (LINE UP) (操作2で [5] ボタンを押したとき)

レコーダーの編集点が連続した編集になるよう、関係するタイムコードを変更します。



- [0]~[9]の数値入力キーで、ラインアップを行うイベント番号の位置を入力します。複数のイベントでラインアップを行うときは、開始イベントを入力したあと[~]ボタンを押し終了イベントを入力します。
- [ENTER]ボタンを押します。操作4で指定したイベントの編集データについて、ラインアップ処理を行います。

7) リナンバー (RENUMBER) (操作2で [6] ボタンを押したとき)



- [ENTER]ボタンを押します。編集データの削除や移動などを行った結果、不連続になったイベント番号を1から連続するように振り直します。

[ご注意]

リナンバーを行うと、削除した編集データはEDLメモリーから完全に消されます。

8) コピー (COPY) (操作2で [7] ボタンを押したとき)



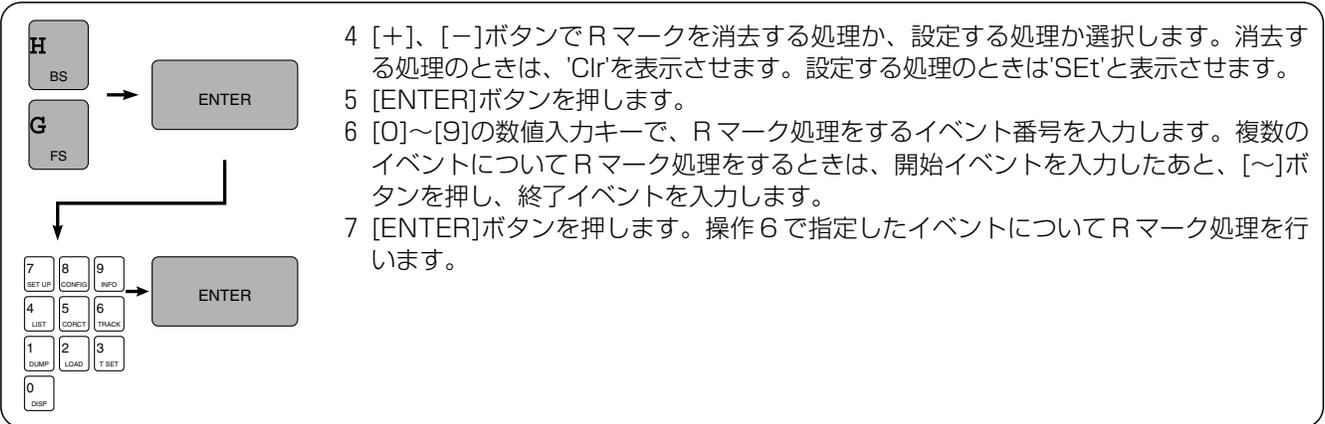
- [0]~[9]の数値入力キーで、コピーするイベント番号を入力します。複数のイベントをコピーするときは、コピー開始イベントを入力したあと[~]ボタンを押し、コピー終了イベントを入力します。
- [ENTER]ボタンを押します。操作4で指定したイベントの編集データを[LIST]ボタンを押したときのイベントの後ろにコピーします。
- リップル処理を行うときは[ENTER]ボタンを押します。
リップル処理を行わないときは、[+]ボタンを押して表示を'YES'から'NO'にしてから[ENTER]ボタンを押します。
- 操作6でリップル処理を行うとしたときは、[0]~[9]、[~]ボタンを使用して実行するイベント番号を入力します。
- [ENTER]ボタンを押します。操作7で指定したイベントについてリップル処理を行います。

[ご注意]

コピーするイベントの中に、コピー先のイベントを含んでいるとき、エラーとなることがあります。

編集データを加工する (LIST)

9) R マーク (REC MARK) (操作2で [8] ボタンを押したとき)

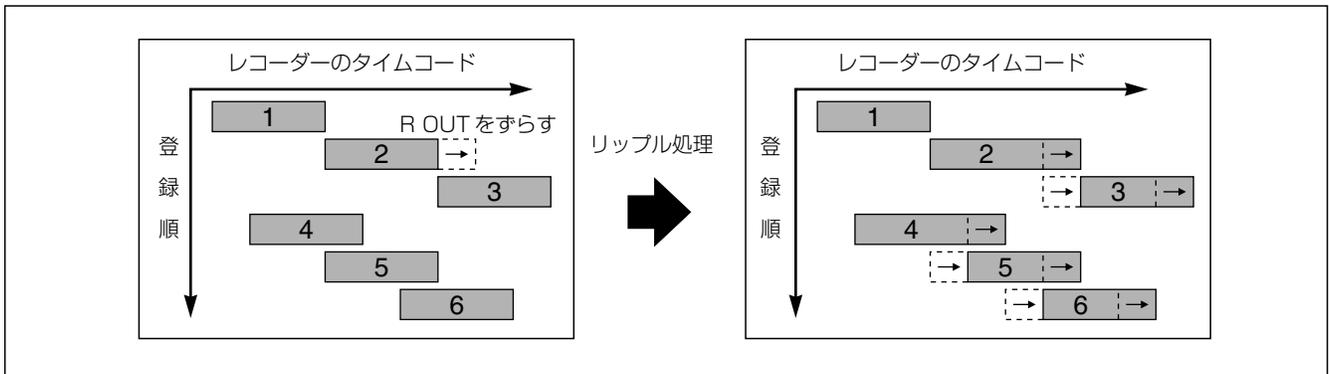


[ご参考] R マーク (記録済マーク) について

自動編集が正常に終了すると、そのイベントは編集済イベントとしてEDLメモリーに登録されます。([AUTO EDIT] ボタンが消灯しないうちに [ALL STOP] ボタンを押すと、登録されないことがあります。) また、そのイベントはモニター表示でイベント番号の後ろに「R」のマークが表示され、他のイベントと区別できるようになっています。マルチイベント編集を行うとき、すでに編集が完了したイベントをとばしたいときは、SET UPメニューのSKIP (R) MRK EVENTをONにします。

[ご参考] リップル処理について

レコーダーOUT点の変更や編集データの削除や移動などによって生じるレコーダーの編集点のずれを修正し、連続した編集になるよう関係するタイムコードを変更します。



[ご参考] LIST 時のモニター画面について

[LIST] ボタンを押すと、表示しているイベントの前後1イベントの編集データを次のように画面表示します。また、画面の一番下の行には、選択しているリストマネージメントの機能を表示します。

```
0213R (P2>P1) VA1234
Dis Tr01:10
00:51:29:07 00:50:55:14
0214 (P1>P2) VA1234
Wipe0015R Tr01:10 A S G
00:51:29:07 00:51:11:21
New0215 (P1) VA1234
Cut
--:--:--:-- 00:51:41:07
EDL1 DELETE 0100>0120
```

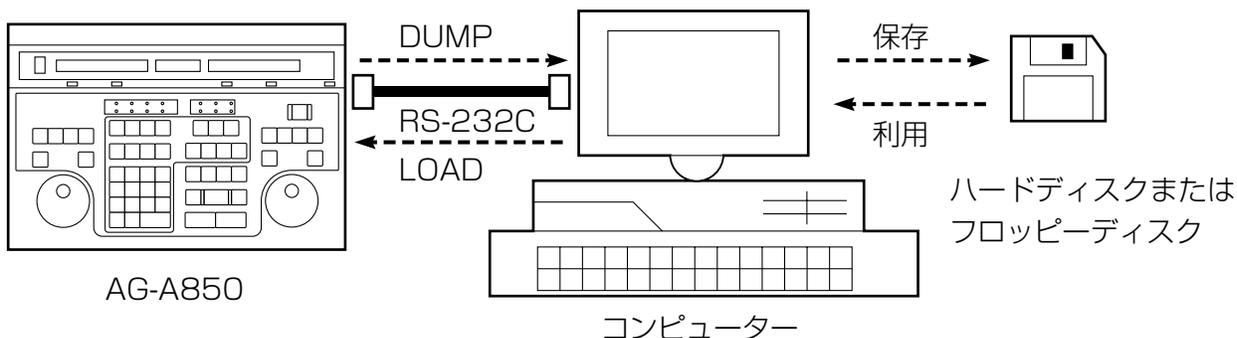
- ・各イベントの編集データは3行で表示し、上2行は、通常の状態表示と同じ内容です。
- ・各イベントの下1行は、右側のデータがFROMソースの編集IN点を示し、左側のデータはレコーダーVTRの編集IN点を示します。

編集データを外部機器に転送する(DUMP)／取り込む(LOAD)

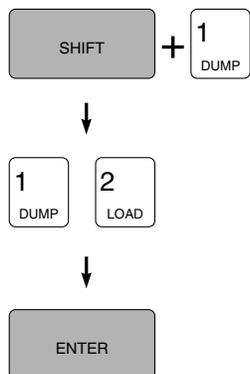
EDLメモリに登録されている編集データは、RS-232C端子を經由して外部と通信できます。

例えば、コンピューターにデータを出力したり、コンピューターからデータを受け取ったりすることにより、次のように、幅広いシステムでの運用・管理が行えるようになります。

- 1) AG-A850 でオフライン編集を行い、編集データをオンラインシステムで使用する。
- 2) 編集データをハードディスクやフロッピーディスクなどで保管する。
- 3) コンピューターのCRTやプリントアウトで、編集データのチェックを行う。



ダンプでの操作

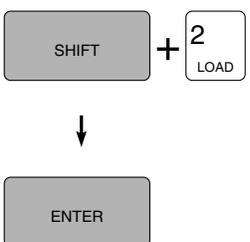


- 1 コンピューターなどの外部機器を、データ受信ができるようにします。
- 2 [DUMP (SHIFT+1)]ボタンを押します。画面に、DUMPと表示されます。プレーヤータイム表示部には、“d P”と表示されます
- 3 [1], [2]ボタンで、出力するEDLフォーマットを選択し、[ENTER]ボタンを押します。何も選択せずに、[ENTER]ボタンを押すと、SET UPのEDL FORMAT で設定しているフォーマットが選択されます。

[1]ボタン	AG-A850 フォーマット
[2]ボタン	CMX 340 フォーマット

- 4 編集データ (EDL) がRS-232C端子より出力されます。カウンター部に、出力しているイベント番号を表示します。
- 5 EDLメモリ内の編集データをすべて転送すると終了します。途中で中断するには、[ALL STOP] ボタンを押してください。

ロードでの操作



- 1 [LOAD (SHIFT+2)]ボタンを押します。画面にLOADと表示されます。プレーヤータイム表示部には“L d”と表示されます
- 2 [ENTER]ボタンを押します。編集データの受信を開始します。
- 3 コンピューターなどの外部機器からデータ送信します。カウンター部に受信しているイベント番号を表示します。
- 4 コンピューターの送信が終了するか、EDLメモリがいっぱいになると、終了します。途中で中断するには、[ALL STOP] ボタンを押してください。

[ご注意]

データのダンプやロードを行うときは、外部機器の設定などが必要になります。

編集データを外部機器に転送する(DUMP)／取り込む(LOAD)

【ご参考】外部機器の設定や通信方法

外部機器の設定やデータの通信方法は、機器ごとに異なります。くわしい設定・操作については、接続される機器やOS(DOS)、通信用ソフトウェアに付属のマニュアルをご覧ください。また、接続される機器のメーカーへお問い合わせください。

- 1) 外部機器と通信プロトコルを一致させてください。

AG-A850の通信プロトコルは、SET UPのRS-232C PROTOCOLで変更できます。

[初期設定(工場出荷時) 波特率:9600bit/s, データ長:8bit, ストップビット:1bit, パリティ:ODD]

外部機器側の設定は、スイッチや、RS-232Cプロトコル設定プログラム([MODE コマンド] や [SPEED コマンド])を使って変更します。

[設定例1] MODE COM1:BAUD=9600 PARITY=0 DATA=8 STOP=1

[設定例2] SPEED RS232C-0 9600 BITS-8 PARITY-ODD STOP-1 NONE

外部機器側で変更できないときは、AG-A850の設定を外部機器にあわせませす。

- 2) 外部機器のRS-232C端子でデータ受信をするには、

COPY AUX ___/A

または

COPYA AUX ___ (___ はファイル名を入力します。)

と入力し、[DUMP]ボタンを押してください。多くのコンピューターはこの方法でデータの受信ができます。

- 3) 外部機器のRS-232C端子からデータ送信をするには、[LOAD]ボタンを押してから、

COPY ___/B AUX

または

COPYA ___ AUX (___ はファイル名を入力します。)

と入力してください。多くのコンピューターはこの方法でデータの送信ができます。

【ご参考】EDLフォーマットについて

パーソナルコンピューターなどの外部機器へ、編集データ(EDL)を転送するときのデータフォーマットは、AG-A850、CMX 340の2種類から選択できます。また、AG-A800のデータフォーマットを取り込むこともできます。

- 1) **AG-A850** : 本機独自のフォーマット。EDLメモリーの編集データをすべて送りますので、ダンプしたデータを再度ロードしたとき、編集データは完全に復元できます。(TCインサート編集を除く)

【出力例】

TITLE: PANASONIC EDITING CONTROLLER AG-A850

EVENT	REEL	MODE	TYPE	TRANS	P-VTR IN	P-VTR OUT	R-VTR IN	R-VTR OUT
0001R	0008	VA1234	C		00:00:00:00	00:00:05:00	00:00:00:00	00:00:05:00
0001R	0001	VA1234	D	01:10	00:01:05:00	00:01:00:00	00:00:05:00	00:00:10:00
0001R		SPEED	REEL 0001		-100		00:01:05:00	
0001R		GPI1	REEL 0001			00:01:04:00		
0001R		GPI1	RECORDER		00:00:07:00			
0002R	0001	VA1234	C		00:01:00:00	00:00:53:00	00:00:10:00	00:00:17:00
0002R	0005	VA1234	W0050R	02:00	00:00:00:00	00:00:03:00	00:00:17:00	00:00:20:00
0002R		SPEED	REEL 0001		-100		00:01:00:00	
0002R		GPI1	FROM IN		-01:00			
0002R		GPI1	TO OUT		-00:10			
0003D	0001	ASMBL	C		01:21:51.07	01:21:51.20	00:01:49:11	00:01:49:24
0004R	AUDIO	SPLIT	REC IN		-01:00			
0004R	0002	VA1234	C		01:05:12:05	01:05:19:05	00:00:20:00	00:00:27:00
0005R	AUDIO	SPLIT	RECORDER		00:00:26:00			
0005R	0003	VA1234	C		00:51:06:10	00:00:09:10	00:00:27:00	00:00:30:00
0005R	0002	VA1234	D	01:20	01:02:10.00	01:01:15.00	00:00:30:00	00:00:35:00
0006	0002	VA1234	C		01:01:15.00	01:01:20.00	00:00:35:00	00:00:40:00
0007	0001	VA1234	C		00:00:00:00	--:--:--:--	00:00:00:00	--:--:--:--

プレーヤーIN点 プレーヤーOUT点 レコーダーIN点 レコーダーOUT点

エフェクト (タテ°、パターン番号、トランジション)

タイプ C:カット D:ディゾルブ W:ワイプ

パターン番号 R:リバースパターン

編集モード VA1234:インサート編集 ASMBL:アッセンブル編集

リール番号 0001:P1 0002:P2 0003:P3 0004:P4

0005:AUX1 0006:AUX2 0007:AUX2 0008:AUX4

イベント番号 R:編集済みイベント D:削除イベント

編集データを外部機器に転送する(DUMP)／取り込む(LOAD)

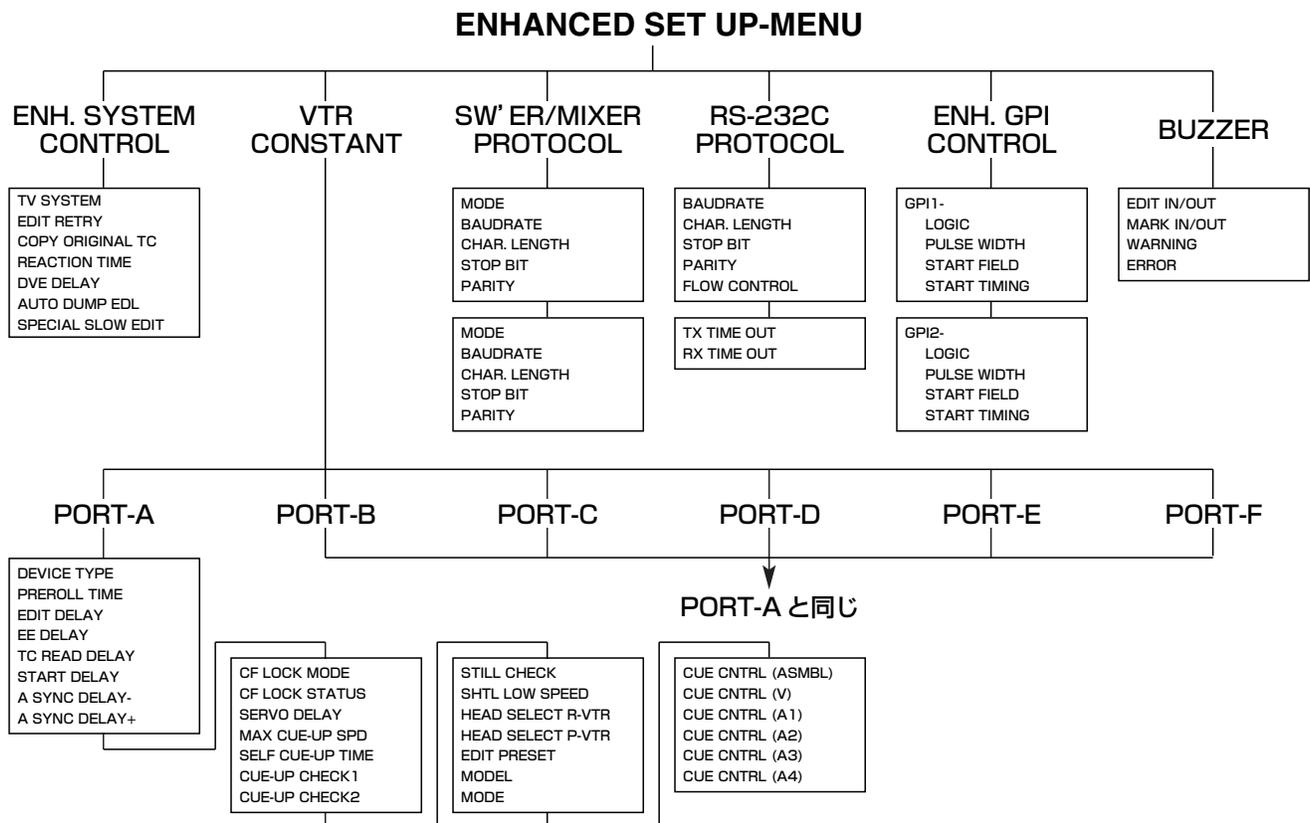
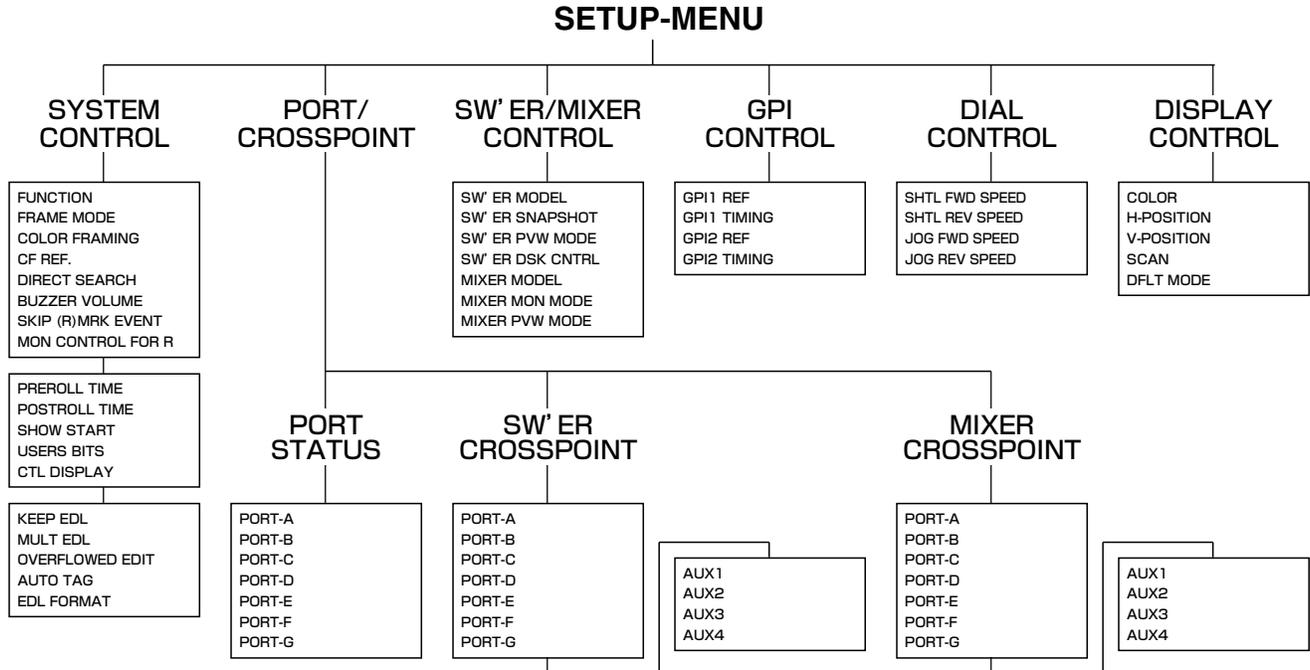
- 2) **AG-A800** : AG-A800のフォーマット。一部のデータを変換して取り込みます。
- (1) リールナンバー
P1 : 001 P2 : 002 AUX1 : AX AUX2 : 004 AUX4 : BL
 - (2) DSK
GPI1に変換されます。
 - (3) EFFECT、OUT点のオーディオスプリット
取り込みません。
 - (4) フェードIN、フェードOUT
取り込まないときがあります。
- 3) **CMX340** : CMX340 と共通のフォーマット。一部のデータは変換されますので、ダンプしたデータを再度ロードしても、完全には復元されません。
- (1) イベント番号
EDLメモリーに1000以上のイベント番号で登録されているデータは出力しません。
また削除したイベントのデータも出力しません。
 - (2) リールナンバー
リールナンバーは、次のようにソースを変換して出力します。
P1 : 001 P2 : 002 P3 : 003 P4 : 004
AUX1 : AX AUX2 : 006 AUX3 : 007 AUX4 : BL
 - (3) 編集モード
次のように変換して出力します。
 - ・アッセンブル → インサート(V, A1, A2)
 - ・インサート(A3) → インサート(A1)
 - ・インサート(A4) → インサート(A2)また、編集モードが設定されていないときは、インサート(V, A1, A2)に変換します。
 - (4) フィープのパターン番号
4桁のパターン番号は下3桁のみを出力します。但し下3桁が0のとき、パターン番号は001になります。またリバースパターンも通常のパターン番号と同じになります。
 - (5) トランジション時間
999フレームをこえる時間は、999フレームで出力します。
 - (6) GPI
セットアップで設定したGPIは出力しません。
 - (7) シンクロール編集は送出しません。
 - (8) スロー編集時は、オーディオスプリットおよび、GPIの設定は、出力されません。

システム設定一覧

SET UP モード

SET UP モードは、次のような構成になっています。

操作手順については、AG-A850 の設定をご覧ください。



□ は設定項目です。

システムのSET UP

システムのセットアップ (SYSTEM CONTROL)

項 目		設 定 値		機 能 説 明
No.	画 面 表 示	No.	画 面 表 示	
01 1-01	FUNCTION	00 01 02 03	LIMITED FULL SINGLE DIAL SPECIAL	<p>操作モードを切り換えます。</p> <p>[LIMITED] 簡易操作モードとなり、シングルイベント、カット編集専用となるほか、簡易編集に必要な機能だけを操作できます。簡易操作モードで操作を制限する機能は、操作パネルの黒枠で囲まれた部分のなかで、[IN], [OUT], [DUR], [SET UP], [DISP], [INFO]以外のボタンになります。</p> <p>[FULL] 標準操作モードとなり、AG-A850の持つすべての機能が動作します。</p> <p>[SINGLE DIAL] VTRソース選択部 ([R], [P1], [P2], [P3], [P4])で選んだVTRがレコーダー/プレーヤー操作部の両方で操作できるようになります。その他の操作は標準操作モードと同じです。</p> <p>[SPECIAL] SINGLE DIALモードに特殊な機能を追加したモードです。通常は設定しないでください。詳しくは、「お問い合わせになる前に」(92ページ)をご覧ください。</p> <p>[注意] FUNCTIONを切り換えるとEDLメモリーの編集データを消すことがあります。</p>
01 1-02	FRAME MODE (NTSCモードのみ有効)	00 01	NON DROP DROP	<p>ファーストエディットやTCインサート編集などで記録するタイムコードを、ドロップフレームモードまたはノンドロップフレームモードのいずれかに選択します。必ずレコーダのテープのモードと、一致するように設定してください。</p>
01 1-03	COLOR FRAMING	00 01 00 01 02	OFF ON (NTSCモード) OFF 4FIELD 8FIELD (PALモード)	<p>カラーフレーミング編集をするためにVTRをCFロックさせるか設定します。</p> <p>(NTSCモード)</p> <p>[OFF] カラーフレーミング編集は行いません。</p> <p>[ON] カラーフレーミング編集を行います。最大1フレームの編集点の移動が行われます。</p> <p>(PALモード)</p> <p>[OFF] カラーフレーミング編集は行いません。</p> <p>[4 FIELD] カラーフレーミング編集を行います。最大1フレームの編集点の移動が行われます。</p> <p>[8 FIELD] カラーフレーミング編集を行います。最大3フレームの編集点の移動が行われます。</p> <p>[注意] ご使用になるVTRにより制限があります。詳しくは、「お問い合わせになる前に」(92ページ)をご覧ください。</p>
01 1-04	CF REF.	00 01 02	ALL VTR TIME CODE R ONLY	<p>カラーフレーミング編集を行うとき、カラーフレームロックの基準を設定します。COLOR FRAMINGがOFFでないときに有効です。</p> <p>[ALL VTR] VTR自身でCFロック状態にします。編集を行うすべてのVTRにCFロック機能が必要です。</p> <p>[TIME CODE] テープ上のタイムコードを基準に編集をします。各VTRのカラーフレーム位相はCONFIGメニューで設定します。レコーダーVTRにCFロック機能が必要です。カラーフレーム位相が特定できないときは、選択しないでください。</p> <p>[R ONLY] レコーダーVTRのみCFロック状態にします。レコーダーVTRにCFロック機能が必要です。</p>

は初期設定(工場出荷時)の値です。

システムのSET UP

システムのセットアップ (SYSTEM CONTROL)

項 目		設 定 値		機 能 説 明
No.	画 面 表 示	No.	画 面 表 示	
01 1-05	DIRECT SEARCH	00 01	OFF ON	OFFのときは、STILL ボタンを押してから、ダイヤルの操作をします。 ONのときは、ダイヤルを回転させると、選択されているVTRが自動的にサーチモードになります。
01 1-06	BUZZER VOLUME	00 01 02 03	LOUD MIDDLE LOW SILENT	エラーのときや、[MARK IN/OUT] ボタンを押したときに、鳴らすブザーの音量を調整します。 [LOUD] 最大の音量 [LOW] 最小の音量 [MIDDLE] 中間の音量 [SILENT] 鳴らしません。
01 1-07	SKIP (R)MRK EVENT	00 01	OFF ON	マルチイベント編集をするとき、編集済みイベントも再度編集するか設定します。 [ON] 編集が完了したイベントをスキップして編集します。 [OFF] 編集が完了したイベントも編集します。 [参考] 編集済みイベントは、モニター表示でイベント番号の後ろに「R」のマークが表示されます。
01 1-08	MON CONTROL FOR R	00 01	OFF ON	編集状態でないとき、レコーダーVTRの出力制御を設定します。 [ON] VTRソース選択部で[P1/AUX1]～[P4/AUX4]を選択すると、レコーダーVTRをEEモードにします。レコーダー側モニターで、ソース選択したVTRの画像・音声をモニターすることができます。 [OFF] VTRソース選択部の状態にかかわらず、レコーダー側モニターは、レコーダーVTRのみのモニターをします。 [注意] FUNCTIONをLIMITEDに設定しているときは、[OFF]に設定します。
01 1-09	PREROLL TIME	00 01 02 03 04 05 06	AUTO 0s 3s 5s 7s 10s 15s	調相などを行うために、テープをIN点から余分に巻戻す時間（プリロールタイム）[秒単位]を設定します。通常はAUTOに設定します。 [参考] 編集時のプリロールタイムはSET UPのVTR CONSTANTでの設定値により制限されることがあります。AUTOは編集するVTRの組み合わせや、CFのON/OFF等の条件で自動的にプリロールタイムを決めます。
01 1-10	POSTROLL TIME	00 01 02 03 04 05 06	0.5s 1s 2s 3s 5s 7s 10s	自動編集やプレビュー、レビューを行ったときに、テープを編集動作完了後から止めるまでの時間（ポストロールタイム）を設定します。 [参考] ポストロール時間は、設定値より多少長くなることがあります。
01 1-11	SHOW START	UNDEFINED または 00:00:00:00～ 23:59:59:29 (NTSC) 00:00:00:00～ 23:59:59:24 (PAL)		編集するプログラムのトータルタイムを計算するために計算を開始する、スタート時刻を設定します。この設定を行わないときは、EDLの最初のイベントに登録されたレコーダーIN点を基準としてトータルタイムを計算します。[C]ボタンを押すと未設定(UNDEFINED)になります。(未設定時、レコーダータイム表示部には --:--:-- と表示)
01 1-12	USERS BITS	00000000～ FFFFFFF		レコーダーに記録するタイムコード内のユーザズビットを設定します。0～Fの16進数で8つの桁を設定することができます。A～Fの入力には [SHIFT+1]～[SHIFT+6] ボタンを押してください。

は初期設定(工場出荷時)の値です。

システムのSET UP

システムのセットアップ (SYSTEM CONTROL)

項 目		設 定 値		機 能 説 明
No.	画 面 表 示	No.	画 面 表 示	
01 1-13	CTL DISPLAY	00	24H	表示時間の選択がCTLのとき、その表示範囲を設定します。 [24H] 00:00:00:00 ~ 23:59:59:29(24) [+/- 10H] - 9:59:59:29(24) ~ 14:00:00:00 (カッコ内の数字はPALの場合) [注意] [+/- 10H]にし、オーディオスプリットやGPIを設定するとき、マイナスのタイムコードは入力できません。また、すでに設定されている編集点を変更するときも、マイナスのタイムコードを入力すると設定されているタイムコードに対して修正処理を行います。
		01	+/- 10H	
01 1-14	KEEP EDL	00	OFF	電源を切った後も、EDLメモリーの編集データを残したいとき、ONにします。データは3日間バックアップ可能です。 (2時間以上連続通電した場合)
		01	ON	
01 1-15	MULT EDL	00	512	EDLメモリーを連続した512イベントで使用するか256イベントの2リスト分とするか設定します。 [512] 最大512イベントのデータを登録し、一度に連続編集やリストマネージメント操作ができます。 [256x2] 最大256イベントのデータを2リスト登録できます。各々のリストは[CHAGE EDL (ENTER+EVENT)]ボタンで切り換えることができ、別々に連続編集やリストマネージメント操作ができます。 [注意] この設定を変更すると、EDLメモリーは初期化されます。
		01	256x2	
01 1-16	OVERFLOWED EDIT	00	OFF	512イベント以上の編集データを登録するときの処理モードを選択します。 [OFF] “EDL OVERFLOW”のエラーとなり、新しいイベントはこれ以上登録されません。[LIST]にて不要なイベントを消去してから追加登録してください。 [ON] 登録されているイベントのうちで、はじめに登録したイベントから順に消去し、それに変わって新しいイベントを登録します。
		01	ON	
01 1-17	AUTO TAG	00	R/P	[FS] ボタンを押して、編集データをEDLメモリーに登録し、次のイベントに移るとき、前のイベントの編集OUT点をニューイベントの編集IN点に自動設定します。 [R/P] プレーヤーとレコーダーのIN点を前のイベントにつながるように、計算して自動設定します。 [R] レコーダーのIN点のみを前のイベントにつながるように、計算して自動設定します。 [OFF] 自動設定を行いません。
		01	R	
		02	OFF	
01 1-18	EDL FORMAT	00	AG-A850	RS - 232C端子を使用して、コンピューターなどの外部機器に、EDLデータを出力するときの、データフォーマットを選択します。各フォーマットについては、データ管理(DUMP、LOAD)をご覧ください。
		01	CMX340	

は初期設定(工場出荷時)の値です。

SW'ER/MIXER の SET UP

SW'ER/MIXER のセットアップ (SW'ER/MIXER CONTROL)

項 目		設 定 値		機 能 説 明
No.	画 面 表 示	No.	画 面 表 示	
03 1-01	SW'ER SELECT	00	WJ-MX50	使用するビデオスイッチャーの機種を設定します。 [注意] KM-3000, VPS-300 を接続したときは、先にビデオスイッチャーの電源を入れ、次に AG-A850 の電源を入れてください。
		01	GVG-100	
		02	DFS-500	
		03	AS-D700	
		04	BVS-3000	
		05	KM-3000	
		06	VPS-300	
03 1-02	SW'ER SNAPSHOT	00	OFF	ビデオスイッチャーに DFS-500 を使用しているとき、スナップショットをコントロールするかどうかを設定します。 SET UP の FUNCTION が簡易操作モード (LIMITED) のときは、設定にかかわらずコントロールしません。 [ON] コントロールします。 [OFF] コントロールしません。 [注意] コントロールできるイベント番号は、1 から 99 までです。
		01	ON	
03 1-03	SW'ER PVW MODE	00	EE	自動編集やプレビュー、レビューのとき、ビデオスイッチャーの動作を設定します。 [EE] レコーダー VTR のビデオ出力でモニターするときに指定します。 [FULL] レコーダー VTR のビデオ出力をビデオスイッチャーに入力して、ビデオスイッチャーの PGM OUT でモニターするとき設定します。 レコーダー VTR にも TBC が必要です。 [参考] レコーダー VTR のビデオ／オーディオ出力のみでモニターするときは [EE] に設定し、SET UP の MON CONTROL FOR R を ON にしてください。 [注意] ・フレームシンクロナイザーが各入力ごとにないビデオスイッチャー (WJ-MX50, DFS-500 など) は [EE] で使用してください。 ・[FULL] に設定すると、プレビュー中 編集モード設定部 ([V], [A1], [A2]) のボタンは機能しません。
		01	FULL	
03 1-04	SW'ER DSK MODE	00	OFF	ビデオスイッチャーに WJ-MX50/GVG-100 を使用しているとき、DSK のフェードイン／アウトのタイミングをコントロールするかどうかを設定します。 [OFF] コントロールしません。 [GPI1] GPI1 の設定に従ってコントロールします。DSK のトランジション時間は、ビデオスイッチャー側で設定します。 [参考] AG-A850 とビデオスイッチャーは 9P リモートコントロールケーブルのみで接続してください。GPI のケーブル接続は必要ありません。 [注意] ビデオスイッチャーがワイプやディゾルブの効果を行っているとき DSK のフェードイン／アウトを設定すると、正常に動作しないときがあります。
		01	GPI1	
03 1-05	MIXER SELECT	00	PAM-300	使用するオーディオミキサーの機種を設定します。オーディオミキサー本体に ESAM II または ESAM II-EXTENDED に対応したシリアルコントロール機能がないときは、オーディオミキサーのオプションのシリアルインターフェイスボードなどが必要になります。詳しくは、「VTR・スイッチャーの設定」をご覧ください。
		01	MXP-S390	
		02	DESAM200	

は初期設定(工場出荷時)の値です。

SW'ER/MIXER の SET UP

SW'ER/MIXER のセットアップ (SW'ER/MIXER CONTROL)

項 目		設 定 値		機 能 説 明
No.	画 面 表 示	No.	画 面 表 示	
03 1-06	MIXER MON MODE	00	LINE	VTR ソース選択部を操作したときの動作を設定します。 [LINE] オーディオミキサーのライン出力でモニターするとき設定します。 [PVW] オーディオミキサーのプレビューバスで信号を切り換えるとき設定します。 [MIX] オーディオミキサーのライン出力バスとプレビューバスとで信号を切り換えるとき設定します。 ・ [R] ボタンを押したときは、プレビューバスへ信号が切り換わります。 ・ [P1/AUX1]～[P4/AUX4] ボタンを押したときは、ライン出力へ信号が切り換わります。 [PARA] オーディオミキサーのライン出力バスとプレビューバスの両方で信号を切り換えるとき設定します。 [参考] ・レコーダー VTR のビデオ/オーディオ出力でモニターするときは [LINE] に設定し、SET UP の MON CONTROL FOR R を ON にしてください。 ・オーディオミキサーでモニターするときは、レコーダー VTR のオーディオ出力をオーディオミキサーに入力してください。 [注意] オーディオミキサーの機種により、プレビューバスが制御できないことがあります。
		01	PVW	
		02	MIX	
		03	PARA	
03 1-07	MIXER PVW MODE	00	EE	自動編集やプレビュー、レビュー時のオーディオミキサーの動作を設定します。 [EE] レコーダー VTR のオーディオ出力でモニターするときに指定します [LINE] レコーダー VTR のオーディオ出力をオーディオミキサーに入力して、オーディオミキサーのライン出力でモニターするとき設定します。 [PVW] レコーダー VTR のオーディオ出力をオーディオミキサーに入力して、オーディオミキサーのプレビューバスで信号を切り換えるとき設定します。 [注意] [LINE][PVW] に設定すると、プレビュー中 編集モード設定部 ([V], [A1], [A2]) のボタンは動作しません。
		01	LINE	
		02	PVW	

は初期設定(工場出荷時)の値です。

PVW MODE の設定と動作

自動編集やプレビュー、レビュー時のビデオスイッチャーやオーディオミキサーの動作は次のようになります。

ビデオスイッチャー(PGMバス)の動作

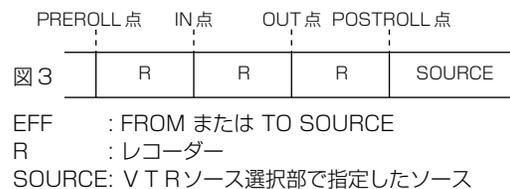
	EE	FULL
プレビュー	☒ 1	☒ 2
自動編集	☒ 1	☒ 2
レビュー	☒ 3	☒ 3

オーディオミキサー(ライン出力バス)の動作

	EE/PVW	LINE
プレビュー	☒ 1	☒ 2
自動編集	☒ 1	☒ 2
レビュー	☒ 3	☒ 3

オーディオミキサー(プレビューバス)の動作

	EE/LINE	PVW
プレビュー	制御しない	☒ 2
自動編集	制御しない	☒ 2
レビュー	制御しない	☒ 3



GPI・サーチダイヤルのSET UP

GPIのセットアップ (GPI CONTROL)

項 目		設 定 値		機 能 説 明
No.	画 面 表 示	No.	画 面 表 示	
04 1-01	GPI1 REF	00	UNDEFINED	GPI1 端子へ信号を出力するタイミングの基準点を設定します。各イベントでのGPI1の設定が優先されます。 [UNDEFINED] トリガー信号を出力しません。 [REC IN] レコーダーのIN点 [REC OUT] レコーダーのOUT点 [EFFECT] スイッチャーの効果の開始点 [REC TALLY] 編集時、レコーダーIN点～OUT点の間(記録中)出力します。 [SRC SELECT] ソースVTRにP1を選択している間出力します。
		01	REC IN	
		02	REC OUT	
		03	EFFECT	
		04	REC TALLY	
		05	SRC SELECT	
04 1-02	GPI1 TIMING	00:00	～± 59:29 (NTSC)	GPI1 端子へ信号を出力するタイミングを、基準点からの相対時間で設定します。+10 と設定すれば基準点から10フレーム後に、-200 と設定すれば、基準点から2秒前にトリガー信号を出力します。GPI1 REFでREC TALLYを設定した場合は、IN点のみ設定します。 (レコーダータイム表示部には“+”のとき“d”、“-”のとき“A”と表示)
		00:00	～± 59:24 (PAL)	
04 1-03	GPI2 REF	00	UNDEFIND	GPI2 端子へ信号を出力するタイミングの基準点を設定します。 [UNDEFIND] トリガー信号を出力しません。 [REC IN] レコーダーのIN点 [REC OUT] レコーダーのOUT点 [EFFECT] スイッチャーの効果の開始点 [REC TALLY] 編集時、レコーダーIN点～OUT点の間(記録中)出力します。 [SRC SELECT] ソースVTRにP1を選択している間出力します。
		01	REC IN	
		02	REC OUT	
		03	EFFECT	
		04	REC TALLY	
		05	SRC SELECT	
04 1-04	GPI2 TIMING	00:00	～± 59:29 (NTSC)	GPI2 端子へ信号を出力するタイミングを、基準点からの相対時間で設定します。(GPI1 TIMING参照)
		00:00	～± 59:24 (PAL)	

サーチダイヤルのセットアップ (DIAL CONTROL)

項 目		設 定 値		機 能 説 明
No.	画 面 表 示	No.	画 面 表 示	
05 1-01	SHTL FWD SPEED	00	x16	SHTL モードでの正方向の最大速度を設定します。 [x16] 最大速度を16倍速にします。 [x32] 最大速度を32倍速にします。 [x60] 最大速度を60倍速にします。 [x100] 最大速度を100倍速にします。 [FF] 最大速度をFF(早送り)にします。 [注意] VTRの機能で制限される場合があります。
		01	x32	
		02	x60	
		03	x100	
		04	FF	
05 1-02	SHTL REV SPEED	00	x16	SHTL モードでの逆方向の最大速度を設定します。 [x16] 最大速度を16倍速にします。 [x32] 最大速度を32倍速にします。 [x60] 最大速度を60倍速にします。 [x100] 最大速度を100倍速にします。 [REW] 最大速度をREW(巻き戻し)にします。 [注意] VTRの機能で制限される場合があります。
		01	x32	
		02	x60	
		03	x100	
		04	REW	

は初期設定(工場出荷時)の値です。

サーチダイヤル・画面表示のSET UP

サーチダイヤルのセットアップ (DIAL CONTROL)

項 目		設 定 値		機 能 説 明
No.	画 面 表 示	No.	画 面 表 示	
05 1-03	JOG FWD SPEED	00	x1	JOGモードでの正方向の最大スピードを設定します。 [x1] 最大スピードを1倍速にします。 [x2] 最大スピードを2倍速にします。 [x3] 最大スピードを3倍速にします。
		01	x2	
		02	x3	
05 1-04	JOG REV SPEED	00	x1	JOGモードでの逆方向の最大スピードを設定します。 [x1] 最大スピードを1倍速にします。 [x2] 最大スピードを2倍速にします。 [x3] 最大スピードを3倍速にします。
		01	x2	
		02	x3	

画面表示のセットアップ (DISPLAY CONTROL)

項 目		設 定 値		機 能 説 明
No.	画 面 表 示	No.	画 面 表 示	
06 1-01	COLOR	00	BLACK	ステータスなどを表示するモニター画面の背景色を設定します。 [BLACK] 背景色に黒色の画面を選択します。 [BLUE] 背景色に青色の画面を選択します。
		01	BLUE	
06 1-02	H-POSITION	00	00	ステータス表示などの水平方向の表示位置を設定します。 No.を大きくするに従って、文字は画面の右方向へ移動します。
		01	01	
		02	02	
		03	03	
		04	04	
		05	05	
		06	06	
06 1-03	V-POSITION	00	00	ステータス表示などの垂直方向の表示位置を設定します。 No.を大きくするに従って、文字は画面の下方向へ移動します。
		01	01	
		02	02	
		03	03	
		04	04	
		05	05	
		06	06	
06 1-04	SCAN	00	NON INTERLACE	ステータスなどのモニター画面の表示モードを設定します。 [NON INTERLACE] ノンインターレスで表示します。 標準TV信号ではありませんが、文字のチラツキをなくすることができます。モニターの機種により障害が出ることもあり、そのときは [INTERLACE] に設定してください。 [INTERLACE] インターレスで表示します。
		01	INTERLACE	
06 1-05	DFLT MODE	00	AUTO	電源投入時のモニター画面の表示内容を設定します。 [AUTO] 編集時は MON IN 端子に入力された映像信号を出力し、それ以外のときはステータスを表示します。 [STATUS] VTRのステータスや編集IN点, OUT点, DURを表示します。 [EDIT DATA] 常に編集IN点, OUT点, DURの設定値を表示します。 [MON IN] MON IN 端子に入力された映像信号を出力します。
		01	STATUS	
		02	EDIT DATA	
		03	MON IN	

は初期設定(工場出荷時)の値です。

システムの拡張 SET UP

システムの拡張セットアップ (ENH SYSTEM CONTROL)

項 目		設 定 値		機 能 説 明
No.	画 面 表 示	No.	画 面 表 示	
11 1-01	TV SYSTEM	00 01	NTSC PAL	VTRなど接続するシステムの信号方式を選択します。 [NTSC] NTSC方式(30フレーム)を選択します。 [PAL] PAL/SECAM方式(25フレーム)を選択します。 [注意] システムの信号方式を変更したときは、EDLメモリーを初期化し(47ページ参照)、次のSET UP、CONFIGを再設定してください。 [SET UPモード] ・ SYSTEM CONTROL - COLOR FRAMING SHOW START ・ GPI CONTROL - GPI1 TIMING GPI2 TIMING ・ VTR CONSTANT - PREROLL TIME CF LOCK MODE [CONFIGモード] ・ CF PHASE
11 1-02	EDIT RETRY	00 01	OFF ON	SYNC GRADEで設定した編集精度で調相ができないときの動作を設定します。 [OFF] 編集を中止します。 [ON] 編集をやり直します。3回失敗したときは、編集を中止します。
11 1-03	COPY ORIGINAL TC	00 01	OFF ON	オリジナルテープのタイムコードをそのまま記録させたいときに、ONにします。この機能を使用するときは、ソースVTRのTC OUT端子とレコーダーVTRのTC IN端子を接続し、レコーダーVTRのTC INT/EXT SELECTはEXT(外部入力)にします。またレコーダーVTRはCTLで使用します。
11 1-04	REACTION TIME	00～03～63		テープの再生映像(PLAY)を見ながら、[MARK IN/OUT]ボタンを押したときに、発生する操作の遅れをフレーム単位で補正します。
11 1-05	DVE DELAY	00～03		DVEやビデオスイッチャーにより映像信号が遅延するとき、その遅延量をフレーム単位で設定します。
11 1-06	AUTO DUMP EDL	00 01 02	OFF EDIT EDIT/FS	編集を実行したときやデータを変更したときに、編集データをRS-232C端子から外部機器に出力するか設定します [OFF] 自動で編集データを出力しません。 [EDIT] 自動編集をするたびに、実行した編集データを出力します。 [EDIT/FS] 自動編集をするか、データ変更をして[CORCT]、[FS]ボタンを押したとき、編集データを出力します。 [注意] 自動で編集データを出力したとき、[END OF FILE]のコード出力は行いません。
11 1-07	SPECIAL SLOW EDIT	00 01	OFF ON	スロー編集時の動作を設定します。 [OFF] 従来と同じスロー編集を行います。編集精度は保証されません。 [ON] プレーヤーVTRを編集IN点までは標準スピードで再生し、編集IN点の数フレーム後にスロー再生させます。従来のスロー編集に比べ、編集精度が向上します。

は初期設定(工場出荷時)の値です。

VTRの拡張 SET UP

VTRの拡張セットアップ (VTR CONSTANT)

この項目のデータは“00”～“FF”の範囲で設定できます。通常はデバイスタイプにより、VTRの機種を自動認識し、最適制御を行いますので、設定を変更する必要はありません。A～Fの入力には [SHIFT+1]～[SHIFT+6] ボタンを押してください。項目番号の上3桁目は設定するポートにより変わります。

ポートA:12 1-xx ポートB:12 2-xx ポートC:12 3-xx *個別設定が生じた場合は、当社営業またはサービス窓口へお問い合わせください。
 ポートC:12 4-xx ポートE:12 5-xx ポートF:12 6-xx

項 目		設 定 値	機 能 説 明								
No.	画 面 表 示										
12 x-01	DEVICE TYPE	00 00 ~ FF FF	<p>通常、VTRの機種は自動認識しますので‘FF FF’のまま変更する必要がありません。自動認識できないVTRは個別設定‘FF FE’にしPREROLL TIME ~ MODEL のVTR CONSTANT DATA を設定する必要があります。</p> <table border="1"> <tr> <td></td> <td>DEVICE TYPEの設定値</td> </tr> <tr> <td>VTRを自動認識させるとき</td> <td>‘FF FF’</td> </tr> <tr> <td>特定のVTRと同じ制御をさせるとき (疑似設定)</td> <td>特定VTRのVTR ID</td> </tr> <tr> <td>VTR CONSTANT DATAを個別に設定するとき (個別設定)</td> <td>‘FF FE’</td> </tr> </table>		DEVICE TYPEの設定値	VTRを自動認識させるとき	‘FF FF’	特定のVTRと同じ制御をさせるとき (疑似設定)	特定VTRのVTR ID	VTR CONSTANT DATAを個別に設定するとき (個別設定)	‘FF FE’
	DEVICE TYPEの設定値										
VTRを自動認識させるとき	‘FF FF’										
特定のVTRと同じ制御をさせるとき (疑似設定)	特定VTRのVTR ID										
VTR CONSTANT DATAを個別に設定するとき (個別設定)	‘FF FE’										
12 x-02	PREROLL TIME	00:00 ~ 05:00 ~ 59:29 (NTSC) 00:00 ~ 05:00 ~ 59:24 (PAL)	VTRが必要とする最小限のプリロール時間(秒:フレーム)を設定します。SYSTEM CONTROLの項目のPREROLL TIMEでこの設定よりも短いプリロール時間を設定しても、こちらが優先されます。								
12 x-03	EDIT DELAY	00 ~ 06 ~ 99	編集タイミング(EDIT ON/OFF コマンドを送出してから実際にVTRが記録動作を始めるまでの遅れ)をフレーム単位で設定します。								
12 x-04	EE DELAY	00 ~ 06 ~ 99	EEタイミング(FULL 又は SELECT EE ON/OFF コマンドを送出してから、実際にVTRがEE動作を始めるまでの遅れ)をフレーム単位で設定します。								
12 x-05	TC READ DELAY	00 ~ 03 ~ 99	調相時に、タイムコードの連続性が何フレーム継続したら確定データとして処理するかフレーム単位で設定します。								
12 x-06	START DELAY	00 ~ 05 ~ 99	VTRがSTOP状態のとき、PLAYコマンドを受け付けてから動作するまでの遅延時間をフレーム単位で設定します。								
12 x-07	A SYNC DELAY -	00 ~ 99	調相時に、VTRのテープスピードを減速してタイムコードが一致した後PLAYモードに戻るタイミングをフレーム単位で設定します。								
12 x-08	A SYNC DELAY +	00 ~ 03 ~ 99	調相時に、VTRのテープスピードを加速してタイムコードが一致した後PLAYモードに戻るタイミングをフレーム単位で設定します。								

は初期設定(工場出荷時)の値です。

VTRの拡張SET UP

VTRの拡張セットアップ (VTR CONSTANT)

項 目		設 定 値		機 能 説 明
No.	画 面 表 示	No.	画 面 表 示	
12 x-09	CF LOCK MODE	00	2FIELD	VTRの機能としてサポートしている最大フレーミングを設定します。 [2FIELD] 2フィールドロック ([NTSC]: S-VHS, [PAL]: AG-7700, AG-7600 など) [4FIELD] 4フィールドロック ([NTSC]: DVCPRO, D3, D5, MII, [PAL]: S-VHS など) [8FIELD] 8フィールドロック ([NTSC]: なし, [PAL]: DVCPRO, D3, D5, MII など) [参考] カラーフレーミング編集は、ここでの設定と SYSTEM CONTROLの項目の COLOR FRAMING の設定とでコントロールされます。
		01	4FIELD	
02	8FIELD (NTSCモード)			
00	2FIELD			
01	4FIELD			
02	8FIELD (PALモード)			
12 x-10	CF LOCK STSTATUS	00	VOID	VTRからのCFステータスを有効とするか無効とするか設定します。 [VOID] CFステータスが無効 [VALID] CFステータスが有効
		01	VALID	
12 x-11	SERVO DELAY	00~99		調相開始タイミングをフレーム単位で設定します。'00' に設定するとサーボロック後に調相を開始します。通常は '00' に設定します。
12 x-12	MAX CUE-UP SPD	00	SHTL	GO TO や PREROLL などの頭出しをするときの、最大速度を設定します。 [SHTL] SHTL の最大速を使用します。 [FF/REW] FF/REW を使用します。
		01	FF/REW	
12 x-13	SELF CUE-UP TIME	00	30s	VTR 自身による頭出し (CUE-UP WITH DATA による頭出し) を行う範囲を秒 [s] または分 [m] 単位で設定します。設定の範囲より離れているときは、AG-A850 が頭出しを行います。
		01	40s	
		02	50s	
		03	1m	
		04	2m	
		05	3m	
		06	5m	
		07	10m	
12 x-14	CUE-UP CHECK 1	1~7		目標値がここで設定したフレーム数以上離れているとき、GO TO や PREROLL などの頭出し動作を行います。
12 x-15	CUE-UP CHECK 2	00	STS	頭出しの完了条件を設定します。 [STS] VTRからのステータスのみで判定します。 [STS/TM] VTRからのステータスと時間で判定します。
		01	STS/TM	
12 x-16	STILL CHECK	1~7		スロー編集時、VTRがSTILLモードとする最少のスピードをパーセント単位で設定します。
12 x-17	SHTL LOW SPEED	00	SHTL	サーチダイヤルをSHTLモードで操作するとき、使用するコマンドを設定します。 [SHTL] SHTLコマンドを使います。通常はこの設定にします。 [VAR] 高速時はSHTLコマンド、低速時はVARコマンドを使います。D3 VTRやD5 VTRはこの設定にします。
		01	VAR	

は初期設定(工場出荷時)の値です。

VTRの拡張SET UP

VTRの拡張セットアップ (VTR CONSTANT)

項 目		設 定 値		機 能 説 明
No.	画 面 表 示	No.	画 面 表 示	
2 x-18	HEAD SELECT R-VTR	00 01 02	NO PB R/P	編集時レコーダーVTRに出力する HEAD SELECT コマンドを設定します。 [NO] HEAD SELECT コマンド出力しません。 [PB] PB HEAD を選択します。 [R/P] R/P HEAD を選択します。通常はこの設定にします。
12 x-19	HEAD SELECT P-VTR	00 01	NO PB	編集時プレーヤーVTRに出力する HEAD SELECT コマンドを設定します [NO] HEAD SELECT コマンド出力しません。 [PB] PB HEAD を選択します。通常はこの設定にします。
12 x-20	EDIT PRESET COM	00 01	1BYTE 2BYTE	EDIT PRESET コマンドデータのバイト数を設定します。 [1BYTE] 1バイトのデータを使用します。オーディオトラックを2チャンネルもつVTRはこの設定にします。 [2BYTE] 2バイトのデータを使用します。オーディオトラックを4チャンネルもつVTRやDVCPROはこの設定にします。
12 x-21	MODEL	00 01 02	VTR LQ-4100 LQ-D5500	接続している機種特有の制御を設定します。 [VTR] 通常はこの設定にします。 [LQ-4100] LQ-4100 特有の制御を行います。 [LQ-D5500] LQ-D5500 特有の制御を行います。
12 x-22	MODE	00~FF		バックアップメモリーの設定内容が消えたときの [TC SOURCE] のデフォルト値を設定します。 (71 ページ：CONFIG モード参照) 通常は、“00” に設定してください。 00：LTC/VITC 01：LTC 02：VITC
12 x-23	CUE CNTRL (ASMBL)	00 01	OFF ON	編集時、編集モードごとにキューオーディオトラックの記録を有効にするか設定します。複数の編集モードを選択したとき、その中にここで ON した編集モードが含まれていれば、キューオーディオの記録を行います。 [ON] その編集モードが選択されているとき、キューオーディオを記録します。 [OFF] その編集モードが選択されているとき、キューオーディオを記録しません。 [設定例] ・AJ-D750 でオーディオの記録を行ったとき、キューオーディオも記録したいときには、次の様に設定してください。 ASMBL, A1, A2 : ON V, A3, A4 : OFF ・AJ-D750 でキューオーディオの記録を個別で選択したいときには、次の様に設定してください。 ASMBL, A3 : ON V, A1, A2, A4 : OFF (キューオーディオの選択は[A3]ボタンを使用します。) [注意] キューオーディオトラックがあり、2バイトの EDIT PRESET コマンドが使用できるVTR (DVCPRO, D3, D5 など)でのみ、ここでの設定が有効になります。DEVICE TYPE が個別設定になっているときは EDIT PRESET COM を2BYTE に設定してください。
12 x-24	CUE CNTRL (V)			
12 x-25	CUE CNTRL (A1)			
12 x-26	CUE CNTRL (A2)			
12 x-27	CUE CNTRL (A3)			
12 x-28	CUE CNTRL (A4)			

は初期設定(工場出荷時)の値です。

SW'ER/MIXERの拡張SET UP

SW'ER/MIXERの拡張セットアップ (SW'ER/MIXER PROTOCOL)

項 目		設 定 値		機 能 説 明
No.	画 面 表 示	No.	画 面 表 示	
13 1-01	SW'ER PROTOCOL MODE	00 01	AUTO MANUAL	[AUTO] ビデオスイッチャーを制御する通信プロトコルを、標準の設定にします。 [MANUAL] BAUDRATE 以降の SW'ER PROTOCOL DATA が有効になります。
13 1-02	SW'ER PROTOCOL BAUDRATE	00 01 02 03 04 05	38400 19200 9600 4800 2400 1200	ビデオスイッチャー制御の通信速度 (bit/s) を設定します。
13 1-03	SW'ER PROTOCOL CHAR. LENGTH	00 01	8bit 7bit	ビデオスイッチャー制御のデータ長を設定します
13 1-04	SW'ER PROTOCOL STOP BIT	00 01	2bit 1bit	ビデオスイッチャー制御のストップビット長を設定します。
13 1-05	SW'ER PROTOCOL PARITY	00 01 02	NONE EVEN ODD	ビデオスイッチャー制御のパリティチェックを設定します。
13 2-01	MIXER PROTOCOL MODE	00 01	AUTO MANUAL	[AUTO] オーディオミキサーを制御する通信プロトコルを、標準の設定にします。 [MANUAL] BAUDRATE 以降の MIXER PROTOCOL DATA が有効になります。
13 2-02	MIXER PROTOCOL BAUDRATE	00 01 02 03 04 05	38400 19200 9600 4800 2400 1200	オーディオミキサー制御の通信速度(bit/s)を設定します。
13 2-03	MIXER PROTOCOL CHAR. LENGTH	00 01	8bit 7bit	オーディオミキサー制御のデータ長を設定します。
13 2-04	MIXER PROTOCOL STOP BIT	00 01	2bit 1bit	オーディオミキサー制御のストップビット長を設定します。
13 2-05	MIXER PROTOCOL PARITY	00 01 02	NONE EVEN ODD	オーディオミキサー制御のパリティチェックを設定します。

は初期設定(工場出荷時)の値です。

RS-232C の拡張 SET UP

RS-232C 関係の拡張セットアップ (RS-232C PROTOCOL)

項 目		設 定 値		機 能 説 明
No.	画 面 表 示	No.	画 面 表 示	
14 1-01	BAUDRATE	00	38400	EDL データ通信の通信速度 (bit/s) を設定します
		01	19200	
		02	9600	
		03	4800	
		04	2400	
		05	1200	
14 1-02	CHAR. LENGTH	00	8bit	EDL データ通信のデータ長を設定します。 [注意] 7 bit での受信はできません。
		01	7bit	
14 1-03	STOP BIT	00	2bit	EDL データ通信のストップビット長を設定します。
		01	1bit	
14 1-04	PARITY	00	NONE	EDL データ通信のパリティチェックを設定します。
		01	EVEN	
		02	ODD	
14 1-05	FLOW CONTROL	00	NONE	EDL データ通信のフロー制御の有無を設定します。
		01	RTS/CTS	
14 1-06	TX TIME OUT	00	OFF	ON にすると、EDL データを送信するとき外部機器が 5 秒以内に受信状態にならないと、通信を強制的に終了します。OFF にするとタイムアウト処理を行いません。FLOW CONTROL が RTS/CTS のときのみ有効です。
		01	ON	
14 1-07	RX TIME OUT	00	OFF	ON にすると、EDL データを受信するとき外部機器から 5 秒以内にデータが送られてこない、通信を強制的に終了します。OFF にするとタイムアウト処理を行いません。
		01	ON	

は初期設定(工場出荷時)の値です。

GPI・ブザーの拡張SET UP

GPIの拡張セットアップ (ENH. GPI CONTROL)

項 目		設 定 値		機 能 説 明
No.	画 面 表 示	No.	画 面 表 示	
15 1-01	GPI1 CONTROL LOGIC	00 01	NEGATIVE POSITIVE	GPI1 端子の出力信号極性を設定します。 [NEGATIVE] 待機時：HIGH レベル 動作時：LOW レベル [POSITIVE] 待機時：LOW レベル 動作時：HIGH レベル
15 1-02	GPI1 CONTROL PULSE WIDTH	00～03～63		GPI1 端子の出力パルス幅(フレーム)を設定します。
15 1-03	GPI1 CONTROL START FIELD	00 01	FIRST SECOND	GPI1 端子の出力開始フィールドを設定します。 [FIRST] 第一フィールドから出力開始をします。 [SECOND] 第二フィールドから出力開始をします。
15 1-04	GPI1 CONTROL START TIMING	01～63		GPI1 端子に接続された機器が、トリガー信号を受けてから動作を開始するまでの時間(フレーム)を設定します。
15 1-05	GPI2 CONTROL LOGIC	00 01	NEGATIVE POSITIVE	GPI2 端子の出力信号極性を設定します。 [NEGATIVE] 待機時：HIGH レベル 動作時：LOW レベル [POSITIVE] 待機時：LOW レベル 動作時：HIGH レベル
15 1-06	GPI2 CONTROL PULSE WIDTH	00～03～63		GPI2 端子の出力パルス幅(フレーム)を設定します。
15 1-07	GPI2 CONTROL START FIELD	00 01	FIRST SECOND	GPI2 端子の出力開始フィールドを設定します。 [[FIRST] 第一フィールドから出力開始をします。 [SECOND] 第二フィールドから出力開始をします。
15 1-08	GPI2 CONTROL START TIMING	01～63		GPI2 端子に接続された機器が、トリガー信号を受けてから動作を開始するまでの時間(フレーム)を設定します。

ブザーの拡張セットアップ (BUZZER)

項 目		設 定 値		機 能 説 明
No.	画 面 表 示	No.	画 面 表 示	
16 1-01	EDIT IN/OUT	00 01	OFF ON	自動編集やプレビュー、レビューを行ったときに、IN/OUT 点でブザーを鳴らすか選択します。
16 1-02	MARK KEY	00 01	OFF ON	[MARK IN/OUT] などのMARK ボタンを押したとき、ブザーを鳴らすか選択します。
16 1-03	WARNING	00 01	OFF ON	ワーニング（警告）が発生したとき、ブザーを鳴らすか選択します。
16 1-04	ERROR	00 01	OFF ON	エラーが発生したとき、ブザーを鳴らすか選択します。

は初期設定(工場出荷時)の値です。

CONFIG

CONFIG モード

項目番号の上 1 桁目は設定する VTR により変わります。

P1 : P1-1 P2 : P2-1 P4 : P3-1 P4 : P4-1 R = r - 1

項 目		設 定 値		機 能 説 明
No.	画 面 表 示	No.	画 面 表 示	
× -01	TC SOURCE	00	LTC	VTRの時間表示にタイムコードを使用するとき、タイムコードの種類を選択します。 [LTC] LTCを使用します。 [VITC] VITCを使用します。 [LTC/VITC] テープスピードに応じてLTCとVITCを自動的に切り換えて使用します。
		01	VITC	
		02	LTC/VITC	
× -02	CF PHASE	01	A	ビデオ信号とタイムコードとのカラーフレーム位相差を補正します。SET UPのCOLOR FRAMINGがONでCF REF.が TIME CODEのとき、この設定を基準として編集を行います。 (NTSCモード)
		02	B	
			(NTSCモード)	[A] 補正は行いません。ビデオ信号のフレームAとタイムコードの偶数フレームをロックさせます。 [B] 180°の補正を行います。ビデオ信号のフレームBとタイムコードの偶数フレームをロックさせます。
		01	1	(PALモード)
		02	2	[1] 補正は行いません。EBUの規格にそって、ビデオ信号とタイムコードをロックさせます。
		03	3	[2] 補正を行います。ビデオ信号の第2フレームを第1フレームとしてタイムコードにロックさせます。
		04	4	[3] 補正を行います。ビデオ信号の第3フレームを第1フレームとしてタイムコードにロックさせます。 [4] 補正を行います。ビデオ信号の第4フレームを第1フレームとしてタイムコードにロックさせます。
			(PALモード)	[注意] VHS (PAL) で記録したテープは、カラーフレーム位相差が特定できません。従って、CF REF. は TIME CODE に設定しないでください。

は初期設定(工場出荷時)の値です。

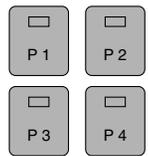
キー機能一覧

特殊キー



1. **[SHIFT]** ボタンの下（数値入力部は中央）に表示している機能を使うとき、このボタンを押しながら操作します。

VTR/ソース選択キー



1. **[P1, P2, P3, P4]** プレーヤー操作部でコントロールするVTRを選択します。[R]ボタンのランプが点灯しているときは、[R]ボタンを押す前に選んでいたプレーヤーVTRをプレーヤー操作部でコントロールできます。

[IN] [OUT] [DUR] [FROM] [TO] [SPLIT] [SPEED] [GPI] [GOTO]ボタンにより、編集データを設定したり制御するときも、このボタンで選択されたVTR対象になります。

2. **[SHIFT+P1, P2, P3, P4]** 補助ソース (AUX) 1～4 を選択します。[IN] [OUT] [DUR] [FROM] [TO] [SPLIT] [GPI]ボタンにより編集データを設定するとき、このボタンで選択した補助ソースが対象になります。



1. **[R]** [IN] [OUT] [DUR] [SPLIT] [GPI] [GOTO] ボタンにより、レコーダーVTRに対して編集データを設定したり制御するとき、選択します。

VTR制御キー



1. **[REC]** 押している間、レコーダーVTRをEEモードにします。レコーダーVTRに接続されたモニターに入力映像・音声が出力されます。VTRの機種や設定、静止や再生などの状態により、EEモードにならないこともあります。
2. **[REC+PLAY]** このボタンを押しながらレコーダー操作部の [PLAY] ボタンを押すとレコーダーVTRが録画を始め（手動記録）、ランプが点灯します。
3. **[ENTER+REC+PLAY]** [ENTER] ボタンとこのボタンを押しながらプレーヤー操作部の [PLAY] ボタンを押すとVTR/ソース選択キーで選ばれているプレーヤーVTRが録画を始め、ランプが点灯します。



1. **[PLAY]** 選択しているVTRのテープを再生します。ランプは点灯します。
2. **[STB OFF (SHIFT+PLAY)]** 選択しているVTRが停止しているときに押すと、スタンバイオフの状態にします。停止していない状態で押してもスタンバイオフになるVTRもあります。ランプは点滅します。



1. **[STILL]** 選択しているVTRのテープを、静止します。ランプは点灯します。
2. **[STOP (SHIFT+STILL)]** 選択しているVTRのテープを停止します。ランプは点滅します。



1. **[REW]** 選択しているVTRのテープを、巻き戻します。ランプは点灯します。
2. **[EJECT (SHIFT+REW)]** 選択しているVTRのテープをVTRから取り出します。ランプは点滅します。
3. **[ALL REW (ENTER+REW)]** すべてのVTRのテープを巻き戻します。ランプは点灯します。



1. **[FF]** 選択しているVTRのテープを早送りします。ランプは点灯します。
2. **[VAR/SHTL (SHIFT+FF)]** 選択しているVTRが、SHTLモードのときVARモードにします。もう一度押すとSHTLモードに戻ります。（プレーヤー操作部のみ）
3. **[ALL EJECT (ENTER+FF)]** [ENTER] ボタンを押しながら、レコーダー操作部の [FF] ボタンを押すと、すべてのVTRのテープを取り出します。



1. **[MARK IN]** 選択しているVTRのタイムコードを読みとって編集のIN点を設定します。
2. **[MARK IN SPLIT (SHIFT+MARK IN)]** 選択しているVTRのタイムコードを読み取って、オーディオスプリット編集での、オーディオIN点を設定します。



1. **[MARK OUT]** 選択しているVTRのタイムコードを読みとって編集のOUT点を設定します。
2. **[MARK OUT SPLIT (SHIFT+MARK OUT)]** 選択しているVTRのタイムコードを、読み取ってオーディオスプリット編集でのオーディオOUT点を設定します。

編集モード設定キー



1. **[ASMBL]** アッセンブル編集を行うとき、このボタンを押して点灯させます。もう一度押すと、消灯しアッセンブルが解除されます。すでにインサート編集を設定しているときは、インサートを解除してからボタンを押してください。
2. **[1st. ED (SHIFT + ASMBL)]** ファーストエディットを行うとき、このボタンを押して、ランプを点滅させます。もう一度押すと解除されます。



1. **[V]** インサート編集時、ビデオ信号を選択します。[A1] [A2] [A3] [A4]と重複して選択できますが、アッセンブル編集やTCインサート編集を設定しているときは解除してからボタンを押してください。
2. **[TC (SHIFT+V)]** タイムコード (LTC) をインサート記録 (TCインサート編集) するとき、このボタンを押して点灯させます。アッセンブル編集や、他のインサート編集を設定しているときは、解除してからボタンを押してください。



1. **[A1]** インサート編集時、オーディオチャンネル1の信号を選択します。[V] [A2] [A3] [A4]と重複して選択できますが、アッセンブル編集やTCインサート編集を設定しているときは、解除してからボタンを押してください。
2. **[A3 (SHIFT+A1)]** インサート編集時、オーディオチャンネル3の信号を選択します。[V] [A1] [A2] [A4]と重複して選択できますが、アッセンブル編集やTCインサート編集を設定しているときは、解除してからボタンを押してください。



1. **[A2]** インサート編集時、オーディオチャンネル2の信号を選択します。[V] [A1] [A3] [A4]と重複して選択できますが、アッセンブル編集やTCインサート編集を設定しているときは、解除してからボタンを押してください。

2. **[A4 (SHIFT+A2)]** インサート編集時、オーディオチャンネル4の信号を選択します。[V] [A1] [A2] [A3]と重複して選択できますが、アッセンブル編集やTCインサート編集を設定しているときは、解除してからボタンを押してください。

[参考1] VHS (S-VHS) フォーマットのVTRは、オーディオチャンネル2をタイムコード用 (LTC) のトラックとして使用できます。タイムコードとして使用しているときは、オーディオチャンネル2の信号をインサート編集できません。

[参考2] オーディオチャンネル3・4のインサート編集は、D3やD5フォーマットなどオーディオトラックを4チャンネル持ったVTRを、レコーダーVTRに使用するとき有効になります。

自動編集操作キー



1. **[GO TO]** 編集IN点が設定されているとき、その位置にテープを頭出しします。
2. **[GO TO OUT (SHIFT+GO TO)]** 編集OUT点が設定されているとき、その位置にテープを頭出しします。
3. **[PREROLL (ENTER+GO TO)]** 編集IN点が設定されているとき、プリロール位置にテープを頭出しします。レコーダーの編集IN点がないときは、自動的に設定します。
4. **[時間⇒GO TO]** 数値入力キーで頭出ししたいタイムコードを入力し、[GO TO]ボタンを押します。



1. **[PREVIEW]** 編集のリハーサルを行うとき押します。編集データが登録済みで、VTRがコントロールできる必要があります。
2. **[PREVIEW (SHIFT+PREVIEW)]** 編集の結果を確認するとき押します。表示しているイベントがニューイベントでないときは、そのイベントでREVIEWし、ニューイベントなら前のイベントのREVIEWをします。
3. **[SYNC PREVIEW (ENTER+PREVIEW)]** 編集のリハーサルを行うとき押します。リハーサル中、レコーダーVTRの出力は常にテープの信号となり、外部入力に切り換わりません。

キー機能一覧

AUTO EDIT
/END

1. **[AUTO EDIT/END]** 表示中のイベントだけを自動編集するとき押します。編集データが登録済みでVTRがコントロールできる必要があります。編集OUT点を設定せずに自動編集を実行し、このボタンを押すと、その点を編集OUT点に自動設定して編集を終了します。ニューイベントで自動編集を行うと自動的に次のイベントに移ります。
2. **[PROGRAM EDIT (SHIFT+AUTO EDIT/END)]** 表示中のイベント以降を連続して自動編集 (マルチイベント編集) をするとき押します。ニューイベントの編集は行いません。

ALL STOP

1. **[ALL STOP]** すべてのVTRを停止させます。編集 (PREVIEW, EDIT, REVIEW, GOTO) 中や通信 (DUMP, LOAD) 中に押すとその動作を中止します。

編集点設定キー

IN

1. **[IN]** 押している間、編集IN点の表示を行います。
2. **[時間⇒IN]** 数値入力キーでタイムコードを入力し[IN]ボタンを押すと、編集IN点を設定します。
3. **[IN⇒時間⇒ENTER]** [IN]ボタンを押したあと、数値入力キーでタイムコードを入力し[ENTER]ボタンを押すと、編集IN点を設定します。
4. **[IN⇒C⇒ENTER]** 編集IN点を取り消します。
5. **[LAST X (SHIFT+IN)]** 一度修正した編集点を元に戻すとき押します。

OUT

1. **[OUT]** 押している間、編集OUT点の表示を行います。
2. **[時間⇒OUT]** 数値入力キーでタイムコードを入力し[OUT]ボタンを押すと、編集OUT点を設定します。
3. **[OUT⇒時間⇒ENTER]** [OUT]ボタンを押したあと、数値入力キーでタイムコードを入力し、[ENTER]ボタンを押すと、編集OUT点を設定します。
4. **[OUT⇒C⇒ENTER]** 編集OUT点を取り消します。
5. **[LAST ED (SHIFT+OUT)]** 最後にプレビュー編集したデータに戻すとき押します。

DUR

1. **[DUR]** 押している間、デュレーションの表示を行います。
2. **[時間⇒DUR]** 数値入力キーでタイムコードを入力し[DUR]ボタンを押すと、デュレーションを設定します。
3. **[DUR⇒時間⇒ENTER]** [DUR]ボタンを押したあと数値入力キーでタイムコードを入力し[ENTER]ボタンを押すと、デュレーションを設定します。
4. **[DUR⇒C⇒ENTER]** デュレーションを取り消します。
5. **[TOTAL (SHIFT+DUR)]** レコーダータイム表示部に編集の合計時間を表示します。通常 (SET UPのSHOW STARTが未登録時) は、EDLメモリーの最初のイベントに設定した編集データのレコーダーIN点をスタート時間として計算します。SET UPのSHOW STARTでスタート時間を設定することもできます。
6. **[LAP (ENTER+DUR)]** 押している間ラップ時間を表示します。

[参考 1] 編集点のタイムコードは、次の様な方法で入力できます。

1. **フレーム単位で入力する。**
[F/TC]ボタンを押して“F”を表示させます。
2. **入力しているタイムコードを消す。**
[C]ボタンを押します。
3. **設定しているタイムコードを加減する。**
タイムコードを増やしたいときは、[+]ボタンを、減らしたいときは、[-]ボタンを押して、加減する数値を入力します。[+]ボタンを押すと、SERVOのランプが、[-]ボタンを押すと、TCのランプが点滅します。

[参考 2] 編集データの表示のときの、タイムコード右端に表示される'.'について

11 : 54 : 27 : 08 .

- ・ 何も表示しない : [MARK IN] や [IN] などで設定した編集点です。
- ・ “.” が点灯 : 他の編集点より、自動計算したタイムコードです。
- ・ “.” が点滅 : タイムトラックで管理された、タイムコードです。

キー機能一覧

編集設定キー

EVENT

1. [EVENT ⇒ イベント番号 ⇒ ENTER] すでに登録したイベント番号を呼び出すとき押します。[EVENT]ボタンを押したあと呼び出すイベント番号を入力し[ENTER]ボタンを押してください。
2. [EVENT ⇒ + ⇒ ENTER] ニューイベントを呼び出します。
3. [EVENT ⇒ - ⇒ ENTER] 最初のイベントを呼び出します。
4. [EVENT ⇒ 9 ⇒ 9 ⇒ 9 ⇒ 9 ⇒ SHIFT+ENTER] すべてのイベントの編集データを消去します。
5. [CHANGE EDL (ENTER+EVENT)] SET UPのMULT EDLが“256 × 2”になっているとき、編集操作を行うEDLのリストを切り換えます。

TRANS

1. [TRANS] A / B ロール編集のとき押している間、中央の表示部にトランジション時間を表示します。上2桁は秒を、下2桁はフレームを示します。

3.10

秒 フレーム

2. [TRANS ⇒ 時間 ⇒ ENTER] A / B ロール編集時にトランジション時間を設定するとき、[TRANS]ボタンを押したあとタイムコードを入力し、[ENTER]ボタンを押してください。フレーム単位で入力するときは、[F / TC]ボタンを押して“F”を表示させます。
3. [TRANS ⇒ C ⇒ ENTER] A / B ロール編集のとき、トランジション時間を1秒にします。
4. [FROM (SHIFT+TRANS) ⇒ ソース] CUT編集のソースやA / B ロール編集のFROMソースを選択するとき、[FROM]ボタンを押したあとVTR / ソース選択キー (P1 ~ P4、AUX1 ~ AUX4) を押します。
5. [AUDIO TRANS (ENTER+TRANS)] オーディオのトランジション時間を単独で表示・設定するとき使用します。設定の方法はTRANSと同じです。オーディオミキサーを接続しているときのみ有効になります。

PATTRN

1. [PATTRN] A / B ロール編集のとき押している間、中央の表示部にパターン番号を表示します。エフェクトがディゾルブのときは“0”、ワイプのときは'0'以外を表示します。またリバースパターンは、パターン番の右側に“.”を表示します。

150

2. [PATTRN ⇒ パターン番号 ⇒ ENTER] A / B ロール編集時にパターン番号を設定するとき、[PATTRN]ボタンを押したあとパターン番号を入力し、[ENTER]ボタンを押します。リバースパターンを設定するときには、[-]ボタンを押してパターン番号の右側に“.”を表示させます。
3. [PATTRN ⇒ C ⇒ ENTER] A / B ロール編集のとき、エフェクトにディゾルブを設定します。
4. [TO (SHIFT+PATTRN) ⇒ ソース] A / B ロール編集のTOソースを選択するとき、[TO]ボタンを押したあと、VTR / ソース選択キー (P1 ~ P4、AUX1 ~ AUX4) を押します。

[参考] FROMソース、TOソース

カット編集時のソースは、VTR / ソース選択キーで選択します。またA / B ロール編集時は、最初に編集点を設定したソースをFROMソースとして、次に編集点を設定したソースをTOソースとして設定します。[FROM] [TO]ボタンは、編集点を決める前にソースを決めるときや、変更するときに使います。

キー機能一覧



1. **[A/B]** A/B ロール編集を行うとき押して点灯させます。もう一度押して消灯させると、CUT 編集モードになります。FROM ソースと TO ソースを交換するときは、[A/B] ボタンを2回押してください。
2. **[SYNC (SHIFT+A/B)]** シンクロール編集を行うとき、押して点滅させます。



1. **[SPLIT]** 押している間、オーディオスプリットを表示します。オーディオ スプリットが設定されると、編集 IN 点はビデオの IN 点となり、オーディオの IN 点をずらして編集をします。
2. **[SPLIT⇒時間⇒ENTER]** オーディオスプリット編集を行うとき、オーディオ IN 点をタイムコードで設定します。
3. **[SPLIT⇒+⇒スプリット量⇒ENTER]** オーディオの IN 点をビデオの IN 点より後ろにずらして編集を行うときに、スプリット量を設定します。
4. **[SPLIT⇒-⇒スプリット量⇒ENTER]** オーディオの IN 点をビデオの IN 点より前にずらして編集を行うときに、スプリット量を設定します。
5. **[SPLIT⇒C⇒ENTER]** オーディオスプリット編集を取り消します。
6. **[OUT SPLIT (SHIFT+SPLIT)]** OUT 側のオーディオスプリットを表示・設定するとき使用します。設定の方法は SPLIT と同じです。

[参考 1] SPLIT 時の表示は設定された状態により、次のように表示します。

・8桁のタイムコードを表示

VTRのタイムコードで設定しています。基準となる VTR は中央の表示部に表示されます。編集点を変更しても、スプリット量が変わりオーディオの編集点はそのままになります。



- ・ “A” または “d” の表示と 4 桁までのタイムコードを表示
編集点を基準にスプリット量を設定しています。編集点を変更すると、スプリット量はそのままオーディオの編集点も変わります。

[d 2:00] オーディオの IN (OUT) 点を 2 秒遅くします。

[A 20] オーディオの IN (OUT) 点を 20 フレーム早くします。

[参考 2] 設定できるスプリット量は、± 59 秒 29 フレーム (NTSC) [± 59 秒 24 フレーム (PAL)]までです。



1. **[SPEED]** VTR / ソース選択キーが [P1 ~ P4] のとき、押している間、スロー編集時の初期スピードをプレーヤータイム表示部に表示します。VTR / ソース選択キーが初期スピードを設定していないソースになっているときは、何も表示しません。
2. **[SPEED⇒初期スピード⇒ENTER]** スロー編集を行うとき、初期スピードを設定します。[SPEED] ボタンを押したあと、初期スピードを通常速度が 100 % として数値入力キーで入力し、[ENTER] ボタンを押してください。なお初期スピードは、- 100 % ~ 300 % の範囲で設定できます。
3. **[SPEED⇒C⇒ENTER]** 初期スピードを通常の再生速度に戻します。
4. **[MRK-SPD (SHIFT+SPEED)]** スロー編集を行うとき、初期スピードを設定します。[VAR/SHTL] ボタンを押してプレーヤー操作部のダイヤルを VAR モードにし、ダイヤルを回転させて、任意のスピードにしたあと、このボタンを押してください。
VTR が PLAY しているときに押すと、初期スピードは取り消されます。

キー機能一覧



1. **[GPI]** 押している間、GPI1 の設定時間を表示します。GPI1 は、各イベントごとに、トリガー信号を出力する時間を 2 カ所まで決められます。設定された時間が 1 カ所のときはプレーヤータイム表示部に、2 カ所設定されるとプレーヤータイム表示部とレコーダータイム表示部に、その時間を表示します。
2. **[GPI⇒時間⇒ENTER]** GPI をタイムコードで設定します。

[参考 1] GPI 時の表示は設定された状態により次のような表示を行います。

・8桁のタイムコードを表示

VTR のタイムコードで設定しています。基準となる VTR は、中央の表示部に表示されます。



・“Fi” や “to” などの文字と 4 桁までのタイムコードを表示

編集点を基準とする相対時間で設定しています。編集点を変更しても相対時間はそのままに保ちます。

3. **[GPI⇒+⇒相対時間⇒ENTER]**
編集開始点、エフェクト点、編集終了点を基準に、GPI を基準点より遅らせて出力するように設定します。
4. **[GPI⇒-⇒相対時間⇒ENTER]**
編集開始点、エフェクト点、編集終了点を基準に、GPI を基準点より早く出力するように設定します。

5. **[MRK-GPI (SHIFT+GPI)]** 選択している VTR のタイムコードを読みとって、GPI の出力時間を設定します。

[参考 2] GPI の出力の基準となる編集点は、VTR / ソース選択キーの状態と、[+] または [-] ボタンを押した回数により選択できます。なお、次の表示例は [+] ボタンを押したときのものです。

・レコーダーのとき、

`r i d x x : x x`

REC IN との相対時間での設定

`r o d x x : x x`

REC OUT からの相対時間での設定

`x x : x x : x x : x x`

タイムコードでの設定

・FROMソースのとき、

`F i d x x : x x`

FROM IN からの相対時間での設定

`F o d x x : x x`

FROM OUT からの相対時間での設定

`x x : x x : x x : x x`

タイムコードでの設定

・TOソースのとき、

`T i d x x : x x`

TO IN からの相対時間

`T o d x x : x x`

TO OUT からの相対時間

`x x : x x : x x : x x`

タイムコードでの設定

キー機能一覧

数値入力キー

0
DISP

1. [0] 編集データを設定するときなど、数値の入力に使用します。
2. [DISP (SHIFT+0)] モニター出力に、ステータス表示するか、MONITOR IN 端子に入力された映像を表示するかを、切り換えます。
3. [STATUS DISP (ENTER+0)] モニター出力にステータスを表示しているとき、その表示内容を切り換えます。

1
DUMP

1. [1] 編集データを設定するときなど、数値の入力に使用します。
2. [DUMP (SHIFT+1)⇒ENTER] パーソナルコンピューターなどの外部機器へ、編集データ (EDL) を転送します。出力フォーマットは、SET UP メニューの EDL FORMAT で指定します。
3. [DUMP (SHIFT+1)⇒1⇒ENTER] AG-A850 フォーマットで、編集データ (EDL) を転送します。
4. [DUMP (SHIFT+1)⇒2⇒ENTER] CMX340 フォーマットで、編集データ (EDL) を転送します。
5. [DUMP (SHIFT+1)⇒3⇒ENTER] SET UP データを転送します。

2
LOAD

1. [2] 編集データを設定するときなど、数値の入力に使用します。
2. [LOAD (SHIFT+2)⇒ENTER] パーソナルコンピューターなどの外部機器から、編集データを内部の EDL メモリーに取り込みます。入力できるフォーマットは、AG-A850 および AG-A800 フォーマットと、CMX340 フォーマットです。SET UP データの取り込みも行えます。

3
T SET

1. [3] 編集データを設定するときなど、数値の入力に使用します。
2. [T SET (SHIFT+3)⇒時間⇒ENTER] TC インサート編集や手動記録の、TC の初期値を設定します。

4
LIST

1. [4] 編集データを設定するときなど、数値の入力に使用します。
2. [LIST (SHIFT+4)] モニターに編集データを表示します。
3. [LIST (SHIFT+4)⇒機能選択⇒ENTER] 編集データの削除、移動、コピーなどリストマネージメントを行うとき押します。くわしい操作は、データ管理をご参照ください。

5
CORCT

1. [5] 編集データを設定するときなど、数値の入力に使用します。
2. [CORCT (SHIFT+5)] すでに EDL メモリーに登録している編集データを変更するときに押します。[FS] [BS] [EVENT] ボタンでイベント番号を変更したときは、EDL メモリーに登録済みの編集データは変更されません。

6
TRACK

1. [6] 編集データを設定するときなど、数値の入力に使用します。
2. [TRACK (SHIFT+6)] 前のイベントの編集点との間でタイムトラックを行うとき押します。

[参考 1] [FS] ボタンを押したとき、自動的にタイムトラックさせるには、SET UP の AUTO TAG を R/P にします。

7
SET UP

1. [7] 編集データを設定するときなど、数値の入力に使用します。
2. [SET UP (SHIFT+7)] SET UP 操作を行うとき押します。設定項目は付録 A のシステム設定一覧をご覧ください。

8
CONFIG

1. [8] 編集データを設定するときなど、数値の入力に使用します。
2. [CONFIG (SHIFT+8)] CONFIG 操作を行うとき押します。設定項目は付録 A のシステム設定一覧をご覧ください。

キー機能一覧

9
INFO

1. [9] 編集データを設定するときなど、数値の入力に使用します。
2. [INFO (SHIFT + 9)] レコーダタイム表示部に、最後に起きたエラーコードを表示し、プレーヤータイム表示部に、ソフトウェアの管理コードを表示します。エラー番号の詳細と対処については、付録Cのエラー番号一覧をご覧ください。

X
F/TC

1. [~] 編集データ (EDL) の削除や移動で、開始・終了のイベント番号を入力するときに使用します。
2. [F/TC (SHIFT + ~)] 数値を入力するとき、タムコードで入力するか、フレーム単位で入力するかを切り換えます。

G
FS

1. [+] 編集データを設定するときなどに使用します。
2. [FS (SHIFT + "+")] 次のイベントに変更するとき押します。SET UPモードのときは、ページを変更します。
3. [TRIM IN+ (IN + "+")] 設定されている編集IN点に1フレーム加えます。(トリミング)
4. [TRIM OUT+ (OUT + "+")] 設定されている編集OUT点に1フレーム加えます。(トリミング)
5. [TRIM DUR + (DUR + "+")] 設定されているデュレーションに1フレーム加えます。(トリミング)

H
BS

1. [-] 編集データを設定するときなどに使用します。
2. [BS (SHIFT + "-")] 前のイベントに変更するとき押します。SET UPモードのときは、ページを変更します。
3. [TRIM IN - (IN + "-")] 設定されている編集IN点を1フレーム減らします。(トリミング)
4. [TRIM OUT - (OUT + "-")] 設定されている編集OUT点を1フレーム減らします。(トリミング)
5. [TRIM DUR - (DUR + "-")] 設定されているデュレーションを1フレーム減らします。(トリミング)

C
EXIT

1. [C] 編集データを取り消すときなどに使用します。
2. [EXIT (SHIFT+C)] 編集点などのデータ入力を途中でやめるとき押します。SET UPモードのときは、設定を破棄してモードを終了します。

ENTER

1. [ENTER] 編集データを設定するときなどに使用します。
2. [RETURN (SHIFT+ENTER)] 編集点などのデータ入力を途中でやめるとき、押します。SET UP、CONFIGモードのときは、設定を確定してモードを終了します。

ディスプレイ部のキー

TC/CTL 各VTRの時間表示内容を、タイムコードまたはCTLに切り換えます。VTRにタイムコードの機能がないときは、必ずCTLとなり、切り換わりません。

RESET CTLのとき、時間表示をリセットします。

SYNC GRADE 編集時の調相精度を切り換えます。

・ACCURATE

±0フレームの調相を行います。

・±1

1フレームの調相を行います。

・ROUGH

調相動作中に1度でも誤差がなくなれば、それ以降調相をしません。編集精度は保証されません。

・OFF

調相動作を行いません。

編集精度は保証されません。

[参考] SET UPのCOLOR FRAMINGをONに設定している場合、SYNC GRADE設定を、ACCURATEや±1に設定しても、自動的にROUGHとして編集を行います。

[注意] ACCURATE、±1、ROUGHに設定したときは、REF. VIDEO IN端子に外部基準信号を入力してください。

エラー表示一覧

エラー表示一覧

[INFO (SHIFT+9)] ボタンを押すと、レコーダタイム表示部に、最後に起きたエラーコードまたは、警告コードを表示します。またモニター表示の下2行には、次のようなメッセージを表示します。

・エラーメッセージ

ERROR :
XXXXXXXXXXXXXXXXXX

・警告メッセージ

WARNING :
XXXXXXXXXXXXXXXXXX

エラーコード	モニター表示	エラーの内容 / 処置
Err 0000	NO ERROR	電源 ON 以降にエラーは発生していません。
Err 0001	CANNOT CHANGE MODE	編集モードの変更はできません。アッセンブルモード、インサートモード、TC インサートモードを切り換えるには、編集モードを一度解除してください。
Err 0002	TC ERROR	入力されたタイムコードは正しい値ではありません。
Err 0003	UNDEFINE IN POINT	編集 IN 点が設定されていないか誤りです。
Err 0004	UNDEFINE OUT POINT	編集 OUT 点が設定されていないか誤りです。
Err 0005	INVAILD REC POINT	レコーダ VTR の編集 IN 点が、OUT 点より大きい値になっています。
Err 0006	UNDEFINE SOURCE	ソース VTR が設定されていません。
Err 0007	EDIT DATA NOT FOUND	[TRACK] にて、参照するデータがありません。
Err 0008	CANNOT LAST ED	[LAST ED] にて、現在のイベント No. と記録されているイベント No. とが異なります。
Err 0009	EVENT NOT FOUND	指定されたイベント No. は登録されていません。
Err 0010	EDL OVERFLOW	EDL メモリーが一杯です。
Err 0011	EDL READ ERROR	EDL データが壊れています。このイベントのデータ修正しました。
Err 0012	EDL WRITE ERROR	EDL データが書き込めません。当社サービス窓口へご相談ください。

エラーコード	モニター表示	エラーの内容 / 処置
Err 0013	INVALID SPLIT POINT	スプリットデータが正しい値ではありません。
Err 0099	OPERATE ERROR	操作が間違っています。正しく入力してください。
Err 0101	VTR xx LOCAL	VTR xx がローカルになっています。
Err 0102	CANNOT READ TC	VTR のタイムコードが読めません。VTR との接続などを確認してください。また、使用できるタイムコード (LTC または VITC) を調べ [CONFIG] で設定してください。
Err 0103	CANNOT RECORD	VTR に記録できません。レコーダ VTR が REC INHI ON になっていないか、またテープの爪が記録禁止になっていないかを確認してください。
Err 0104	TC JUMP FOUND	VTR の TC が不連続になっています。
Err 0105	CANNOT CUEUP xx	VTR xx が頭出しできません。VTR の TC が、不連続になっている可能性があります。基準信号を CTL に変更し再度編集点を設定してください。
Err 0106	CANNOT SYNCHRONIZE xx	調相できません。VTR xx を調べてください。REF VIDEO の未接続、TC の不連続、[SETUP] の VTR パラメーターが合っていない、CF PHASE が合っていないなどが、考えられます。また、VTR の機種により、編集精度を高くできないものもあり、そのときは編集精度を下げてください。
Err 0107	CANNOT EXECUTE xx	編集できません。VTR xx を調べてください。

エラー表示一覧

エラーコード	モニター表示	エラーの内容 / 処置
Err 0108	CANNOT CF EDIT	カラーフレーム調相できません。REF VIDEOの未接続、TCの不連続、[SETUP]のVTRパラメーターが合っていない、CF PHASEが合っていないなどが考えられます。また、VTRの機種により、カラーフレーム編集できないものもあります。
Err 0109	CANNOT REVIEW	編集データがないため、[REVIEW]できません。
Err 0110	CANNOT RESET TC	CTL以外では、RESETできません。
Err 0111	CANNOT SWITCH TC	TCに切り換えられません。VTRにTC機能がないなどが考えられます。
Err 0112	UNDEFINE SOURCE	スレーブ設定されたプレーヤーVTRが、ソースVTRに設定されているので編集できません
Err 0113	CANNOT FOUND EVENT	未編集のイベントが見つかりません。
Err 0199	CANNOT OPERATE	編集中にできない操作です。
Err 0201	FORMAT ERROR	[LOAD]しているデータに誤りがあります。[LOAD]可能なデータは、AG-A850 / A800フォーマットと、CMX340フォーマットのデータのみです

エラーコード	モニター表示	エラーの内容 / 処置
Err 0202	RS232C COMM ERROR	[LOAD] [DUMP]するとき、通信エラーが発生しました。外部機器の通信プロトコルや、接続を確認してください。接続が正常なときは両方の通信速度を遅くしてください。
Err 0203	CANNOT COMM	[LOAD][DUMP]中に、外部機器が応答しなくなりました。外部機器との、接続を確認してください。
Err 0299	CANNOT OPERATE	DUMP・LOAD中にできない操作です。

警告番号一覧

警告コード	モニター表示	警告の内容 / 処置
Err1001	UNDEFINE EDIT MODE	編集モードが設定されていません。
Err1002	OVERWRITE EXECUTE	EDLメモリーに上書きにしました。
Err1003	DIFFER FRAME MODE	レコーダーVTRのテープに記録されたタイムコードと、AG-A850のシステム設定とのフレームモードが異なります。一致させてください。
Err1103	SW'ER COMM ERROR	スイッチャーとの通信エラーが発生しました。
Err1104	SW'ER LOCAL	スイッチャーがローカルになっています。
Err1105	CANNOT EXECUTE xx	スレーブVTR xxが制御できません。VTR xxを使用せずに、他のVTRで編集を行います。
Err1202	EDL OVER FLOW	[LOAD]するとき、EDLメモリーが飽和しました。[LOAD]できるイベント数は512までです。

VTR・スイッチャーの設定

当社 VTR の設定

機種	設定
S-VHS AG-7750 7750H 7650 7650H	1) 9P DEVICE TYPE を S-VHS ID にする。 SET UP MENU No. 3002 : S-VHS ID(01) 2) PLAY DELAY を 0 FRAME にする。 SET UP MENU No. 4003 : 0 FRAME(00) 3) TC を使用するとき、ポケット内のスイッチを INT, PRESET, FREE RUN にする。 (AG-7750(H)のみ) 4) LTC を使用するとき、ポケット内のスイッチをオーディオ ch2 を LTC にする。 5) REMOTE OPERATION を 9P にする。 SET UP MENU No. 3003 : 9P(00) 6) FRAME SERVO を ON にする。 SET UP MENU No. 4005 : ON(O1) 7) SHORT FF を ON にする。 SET UP MENU No. 1007 : ON(O1) 8) フロントのモードスイッチを PLAYER 側は PLAY, RECORDER 側は EDIT に設定する。 (AG-7750(H)のみ) 9) CONTROL SW を REMOTE にする。
S-VHS AG-DS850 DS840 DS555 DS545 DS550 DS540	1) 9P DEVICE TYPE を S-VHS ID にする。 SET UP MENU No. 5002 : S-VHS ID(01) 2) PLAY DELAY を 0 FRAME にする。 SET UP MENU No. 6004 : 0 FRAME(00) 3) TC を使用するとき、INT, FREE RUN にする。 SET UP MENU No. 7001 : INT(00) SET UP MENU No. 7002 : FREE RUN (02) SET UP MENU No. 7007 : UB (02) 以外 (AG-DS850/DS555/DS550のみ) 4) LTC を使用するとき、オーディオ ch2 を LTC にする。 SET UP MENU No.3006 : LTC(O1) 5) 調相するとき、DIGITAL SLOW SW を OFF または 1 にする。 (AG-DS850/DS840のみ) 6) FRAME SERVO を ON にする。 SET UP MENU No. 6005 : ON(O1) 7) SHORT FF を ON にする。 SET UP MENU No. 1006 : ON(O1) 8) CONTROL SW を REMOTE にする。

機種	設定
MII AU-660 650 640 630 620 60	1) 9P DEVICE TYPE を M2 ID にする。 L6 基板 SW3-5 : ON 2) PLAY DELAY を 0 FRAME にする。 L6 基板 SW5-1 ~ 4 : OFF (AU-650/620 を除く) 3) TC を使用するとき、INT, PRESET, FREE RUN にする。 (AU-660/650/640のみ) 4) HEAD SW を PLAYER 側は PLAY, RECORDER 側は R/P に設定する。 (AU-660/650/640のみ) 5) CONTROL SW を REMOTE にする。 [注意] AU-650 はカラーフレーミング編集ができません。
MII AU-W35H/R W33H/R W32H/R 655 66H 65(H) 63(H) 62(H)	1) 9P DEVICE TYPE を M2 ID にする。 SETUP MENU No. 3004 : M2 ID (2) 2) TC を使用するとき、AU-F65 を装着する。 (AU-66H/65(H)/63(H)/62(H)のみ) 3) TC を使用するとき、INT, PRESET, FREE RUN にする。 (AU-W35H/665/66H/65(H)のみ) 4) HEAD SW を PLAYER 側は PLAY, RECORDER 側は R/P に設定する。 (AU-665/66Hのみ) 5) CONTROL SW を REMOTE にする。
DVCPRO AJ-LT75	1) ID SEL を DVCPRO ID にする。 SET MENU No. 200 : DVCPRO (1) (VTR1, 2 ともに設定) 2) PLAY DELAY を設定する。 SET UP MENU No. 301 : 0 or 4 (VTR1 : 0 FRAME に設定。VTR2 : レコーダーするとき 4 FRAME に、プレーヤーにするときは 0 FRAME に設定する。 3) TC を使用するとき、INT, PRESET, FREE RUN にする。 SET UP MENU No. 507 : P-FREE (1) (VTR2 をレコーダーにするときのみ) 4) CONTROL SW を REMOTE にする。

[ご注意]

次の VTR はカラーフレーミング編集に制限があります。

NTSC: S-VHS フォーマットの VTR は、カラーフレーミング編集はできません。

PAL: S-VHS フォーマットの VTR は、8 フィールドのカラーフレーミング編集はできません。

- ・設定の必要なスイッチが機器の内部にある場合に、お客様ご自身でカバー等はずしてスイッチの変更をされると、感電や故障の原因となる恐れがあります。機器をお買い求めになられました販売店か、当社サービス窓口にご相談ください。

VTR・スイッチャーの設定

当社 VTR の設定

機種	設定
DVCPRO AJ-D750 D650 D640	1) ID SEL を DVCPRO ID にする。 SETUP MENU No. 202 : DVCPRO (1) 2) PLAY DELAY を 0 FRAME にする。 SETUP MENU No. 106 : 0 FRAME (0) 3) 9P SEL を ON する。 SETUP MENU No. 201 : ON (1) 4) VAR RANGE を -4 ~ +4 にする。 SETUP MENU No. 300 : 1 本設定がないときは、 ・ VAR STEP を FINE にする。 SET UP MENU No. 316 : FINE (0) ・ VAR FWD MAX を +4.1 にする。 SET UP MENU No. 317 : +4.1 (0) 5) TC を使用するときには、INT, PRESET, FREE RUN にする。 ・ フロントパネルのスイッチを INT にし、ポケット内のスイッチを PRESET, FREE RUN にする。 (AJ-D750 のみ) ・ ポケット内のスイッチを INT にする。 (AJ-D650 のみ) ・ SET UP MENU No. 504 : OFF (0) (AJ-D650 のみ) ・ SET UP MENU No. 510 : FREE (1) (AJ-D650 のみ) 6) CONTROL SW を REMOTE にする。
D5/D3 AJ-D580 D350 D351 D360	1) 9P DEVICE ID を DEFAULT にする。 INTERFACE SETUP MENU : DEFAULT 2) RS-422 制御モードを設定する。 INTERFACE SETUP MENU : MODE-1 3) TC を使用するときには、INT, PRESET, FREE RUN にする。 TC/CHR MENU : INT, PRESET, FREE RUN 4) CONTROL を REMOTE にする。 HOME : REMOTE (AJ-D350/D351) CONTROL SW : REMOTE (AJ-D580)

当社 DISK の設定

機種	設定
DISK LQ-D5500	1) DEVICE TYPE を LQ-D5500 にする。 SETUP MENU No. 6-10 : LQ-D5500(0) 2) PLAY DELAY を 0 FRAME にする。 SETUP MENU No. 6-3 : 0 FRAME(0) 3) EDIT DELAY を 3 FRAME にする。 SETUP MENU No. 6-4 : 3 FRAME(3) 4) TC の設定を INT, PRESET, FREE RUN にする SETUP MENU No. 4-1 : PRESET(0) SETUP MENU No. 4-2 : FREE. RUN(1) 5) CTL のモードを選択する。くわしい内容は、LQ-D5500 の取扱説明書をご覧ください。 SETUP MENU No. 5-6 : CTL(0)/ATC(1) 6) カラーフレーミング編集を行うときは COLOR FRAMING を ON にする。 SETUP MENU No. 6-5 : ON(1) 7) スプリットモードを選択する。くわしい内容は、LQ-D5500 の取扱説明書をご覧ください。 SETUP MENU No. 6-9 : ON(1) 8) CONTROL を REMOTE にする。
DISK LQ-4100	1) 9PDEVICE TYPE を LQ-4100 にする。 SETUP MENU No. 1-4 : AOA1 2) EDIT TIMING を 5 FRAME にする。 SETUP MENU No. 1-2 : 5 FRAME 3) PREROLL TIME を AG-A850 とあわせる。 SETUP MENU No. 1-1 : 5 SEC (標準) 4) CONTROL を REMOTE にする。 [注意] ・スレーブ VTR として使用できません。 ・LQ-4100 のソフトウェアのバージョンにより動作しないことがあります。

・設定の必要なスイッチが機器の内部にある場合に、お客様ご自身でカバー等はずしてスイッチの変更をされると、感電や故障の原因となる恐れがあります。機器をお買い求めになりました販売店か、当社サービス窓口にご相談ください。

VTR・スイッチャーの設定

JVC 社 VTR の設定

機 種	主な設定 / AG-A850 接続時注意点
BR-S822 S622 S525 (SA-R22 含む)	<ul style="list-style-type: none"> ・9PIN DEVICE TYPE ID を JVC SVHS-1 にする。 ・VIDEO EDIT DELAY を 8 FRAME にする。 ・AUDIO EDIT DELAY を 8 FRAME にする。 [注意] TC インサート編集はできません。
BR-S800 (SA-K26 SA-R50 SA-N50 含む)	<ul style="list-style-type: none"> ・9PIN DEVICE ID を JVC SVHS-1 にする。 ・VIDEO EDIT DELAY を 8 FRAME にする。 ・AUDIO EDIT DELAY を 8 FRAME にする。 ・SYNCHRONIZATION を ENABLE にする。 [注意] <ul style="list-style-type: none"> ・TC インサート編集はできません。 ・ファーストエディット編集時、タイムコードは設定できません。 ・オーディオスプリット編集時、編集点がずれることがあります。
PR-D85 D80	<ul style="list-style-type: none"> ・9PIN DEVICE ID を JVC D80 にする。 ・タイムコード設定は、INT、FREE、PRESET にする。 [注意] <ul style="list-style-type: none"> ・アッセンブル編集、ファーストエディット編集を行うと、編集終了後 VTR が FF 動作を行うことがあります。 ・ソース VTR のスロー再生信号の品質により、編集できないことがあります。 ・カラーフレーミング編集はできません。

上記以外の設定は、「システム設定」および、各 VTR のマニュアルをご覧ください。

SONY 社 VTR の設定

機 種	主な設定 / AG-A850 接続時注意点
BVU-800	CTL 編集のみ可能
BVU-950	<ul style="list-style-type: none"> ・TCG/R 別売・TC インサート編集不可 ・TC スイッチ (サブパネル) は SREVO LOCK=INT に設定 ・カラーフレーミング編集はプリロール時間を 10 秒以上に設定
EVO-9800	<ul style="list-style-type: none"> ・調相不可・PLAYER のみ可・外部同期不可 ・AG-A850 の REF. IN は EVO の VIDEO OUT を接続 ・レコーダー VTR の REF.IN に入力しないレコーダー VTR はインカムロックにする。 ・SYNC SELECT : NORM (S-VHS) ・SYNC : AUTO (MII)
EVO-9850	調相を失敗するときは、SYNC GRADE をおとす。
PVW-2800 PVW-2650 PVW-2600	TC を設定するときは、INT、PRESET、FREE RUN にする。
BVW-75	TC を設定するときは必ず INT、PRESET、FREE RUN にする。 カラーフレーミング編集はプリロール時間を 10 秒以上に設定する。

上記以外の設定は、「システム設定」および、各 VTR のマニュアルをご覧ください。

- ・設定の必要なスイッチが機器の内部にある場合に、お客様ご自身でカバー等はずしてスイッチの変更をされると、感電や故障の原因となる恐れがあります。機器をお買い求めになりました販売店か、機器メーカーにご相談ください。
- ・他社製品につきましては、仕様変更等によりここで記載した設定で動作しないことがあります。

VTR・スイッチャーの設定

ビデオスイッチャーの設定

機種	主な設定 / AG-A850 接続時注意点																											
共通	1) AG-A850のSET UP MENU “SW'ER SELECT” を、接続する機種に合わせる。 2) [EDITOR ENABLE] ボタンのある機種は、ランプを点灯させる。 3) フレームシンクロナイザーを内蔵するスイッチャーを使用するときは、機器に応じた遅延フレームをAG-A850のSET UP MENU “DVE DELAY” で設定する。																											
WJ-MX50	1) リアパネルのEDIT CONTROLスイッチをRS422にする。 2) アナログ基板のスイッチを以下のように設定する。 <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td></td> <td>1</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>5</td> <td>6</td> <td>7</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>SW702</td> <td>on</td> <td>off</td> <td>off</td> <td>off</td> <td>on</td> <td>off</td> <td>off</td> <td>off</td> </tr> </table>		1	2	3	4	5	6	7	8	SW702	on	off	off	off	on	off	off	off									
	1	2	3	4	5	6	7	8																				
SW702	on	off	off	off	on	off	off	off																				
GVGモデル100	1) 067714 SIA基板のスイッチを以下のように設定する。 <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td></td> <td>1</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>5</td> <td>6</td> <td>7</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>S1</td> <td>off</td> <td>off</td> <td>on</td> <td>on</td> <td>off</td> <td>off</td> <td>off</td> <td>off</td> </tr> <tr> <td>S2</td> <td>off</td> <td>off</td> <td>off</td> <td>off</td> <td>off</td> <td>off</td> <td>off</td> <td>on</td> </tr> </table> S3: “RS422” 表示側 S4: “38400” 表示位置 S5: “ON” 側 S6: “RS422” 表示側 2) [EDITOR ENABLE]ボタンを押してランプを点灯させる。		1	2	3	4	5	6	7	8	S1	off	off	on	on	off	off	off	off	S2	off	on						
	1	2	3	4	5	6	7	8																				
S1	off	off	on	on	off	off	off	off																				
S2	off	off	off	off	off	off	off	on																				
DFS-500	1) 編集機選択スイッチ (SY-172 基板) をBVE-900の位置にする。 2) AG-A850のSET UP MENU “SW'ER PVW MODE” を“EE” にする。																											
DFS-300	1) 編集機選択スイッチ (SY-199 基板) をPVE-500の位置にする。 2) AG-A850のSET UP MENU “SW'ER PVW MODE” を“EE” にする。 3) AG-A850のSET UP MENU “SW'ER SELECT” を“DFS-500” にする。																											
KM-3000	1) CPU 基板スイッチを以下のように設定する。 <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td></td> <td>1</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>5</td> <td>6</td> <td>7</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>S3</td> <td>on</td> <td>on</td> <td>on</td> <td>on</td> <td>on</td> <td>off</td> <td>off</td> <td>off</td> </tr> <tr> <td>S4</td> <td>off</td> <td>on</td> <td>on</td> <td>off</td> <td>off</td> <td>off</td> <td>off</td> <td>off</td> </tr> </table>		1	2	3	4	5	6	7	8	S3	on	on	on	on	on	off	off	off	S4	off	on	on	off	off	off	off	off
	1	2	3	4	5	6	7	8																				
S3	on	on	on	on	on	off	off	off																				
S4	off	on	on	off	off	off	off	off																				

上記以外の設定は、各ビデオスイッチャーのマニュアルをご覧ください。

- ・設定の必要なスイッチが機器の内部にある場合に、お客様ご自身でカバー等はずしてスイッチの変更をされると、感電や故障の原因となる恐れがあります。機器をお買い求めになりました販売店か、機器メーカーにご相談ください。
- ・他社製品につきましては、仕様変更等によりここで記載した設定で動作しないことがあります。

ビデオスイッチャーの設定

機種	主な設定 / AG-A850 接続時注意点
VPS-300	1) CPU 基板 DS2-7 は OFF (初期設定) にする。 2) AG-A850 の SET UP MENU “SW'ER PVW MODE” を “EE” にする。

- ・GVGモデル100は、THE GRASS VALLEY GROUP社の製品です。
- ・DFS-500/300は、SONY社の製品です。
- ・KM-3000はビクター社の製品です。
- ・VPS-300は朋栄社の製品です。

オーディオミキサーの設定

機種	主な設定 / AG-A850 接続時注意点
共通	1) AG-A850のSET UP MENU “MIXER SELECT” を、接続する機種に合わせる。 2) システム (チャンネル数他) に合わせて、ミキサーの設定をする。 3) フェーダーレバー、LOCALスイッチ等を適宜設定する。
PAM-300 (PAM-300IF含む)	1) PAM-300IFの設定を38.4 Kbps. ODD, ESAM-II, フレームレート (NTSC : 30F, PAL : 25F) にする。 2) EDITORスイッチを点灯させる。
MPX-S390	1) MODEスイッチをEDITORにする。
D/ESAM200	1) 内部スイッチを38.4 Kbps. ODDに設定する。 2) EDIT I/Fスイッチを点灯させる。
03D (03DVEK含む)	1) AG-A850のSET UP MENU “MIXER SELECT” を“DESAM200” に設定する。 2) MIDI/HOSTページのHOST INTERFACEをEDITOR TO EDITORをENABLE PARITY FLAGをODDにする。

上記以外の設定は、各オーディオミキサーのマニュアルをご覧ください。

- ・PAM-300は朋栄社の製品です。
- ・MPX-S390は、SONY社の製品です。
- ・D/ESAM200はGRAHAM-PATTEN SYSTEM社の製品です。
- ・03Dは、ヤマハ社の製品です。

編集用語集

ア行

頭出し (Cue-up)
編集 I N 点や O U T 点など、テープを特定の位置に移動させること。

アッセンブル編集 (Assemble)
何も信号の入っていないテープに、シーンを順序良くつないで編集していく方法。映像、音声、タイムコード、コントロール信号 (C T L) などすべての信号が一度に記録される。まったくの生テープを用いる場合には、最初にファーストエディットをする必要がある。(ファーストエディット参照)

A/Bロール編集 (A/B Roll Editing)
プレーヤー V T R や補助ソースから、2つの信号を合成して行う編集のこと。ワイプやディゾルブなど、映像的効果が高い編集が行える。

E E (Electric to Electric)
V T R に入力している (記録しようとしている) 映像・音声信号をそのままモニターに出力すること。また、その信号自身も E E という。

E D L (Edit Decision List)
マルチイベント編集における、ソースやレコーダーの I N / O U T 点、エフェクトなどがリストになったデータをいう。

イベント (Event)
レコーダーが1回記録するときの編集動作を1イベントまたは1エディットという。E V E N T ボタンは、マルチイベント編集においてイベントナンバーを登録したり、呼び出ししたりするために用いる。

インサート編集 (Insert)
タイムコードおよびコントロール信号、(映像・音声信号)がすでに記録されたマスター用テープに編集 I N / O U T 点を決めて映像、音声を個別にはめ込む編集方法。まったくの生テープに記録する場合には、ブラックバースト信号をあらかじめ記録 (フォーマット) してからインサート編集をする必要がある。

A T (Auto Tracking)
ノイズのないスロー、スチル、逆再生を行うための機構。この機能を使った編集をスロー編集や A T 編集という。同様の機能を D T と呼ぶこともある。

エディット (Edit)
レコーダー V T R に編集 I N / O U T 点を決めて映像、音声を記録すること。また、その動作もエディットという。

N T S C (National Television System Committee)
カラーテレビジョン方式の一つで、1秒間は30フレームで構成される。日本や米国、カナダなどで採用されている。

L T C (Longitudinal Time Code)
テープの長手方向に記録するタイムコード。長所は T C インサート編集で書き換えが可能なこと、短所はスチル/スロー再生など低速時に読みとりできないことにある。

オートタグ (Auto Tag)
レコーダー V T R やプレーヤー V T R の編集 O U T 点を、次のイベントの編集 I N 点として自動的に設定する機能をいう。編集点設定を順次行う場合に効率よく作業できる。

オーバーフローエディット (Overflowed Edit)
記憶できる E D L メモリーの容量を越えたときの処理モードで、AG-A850 は2つモードを持つ。1つは、登録されているイベント中、最初に登録した順に消去し、新しいイベントを登録するようになっている。もう1つのモードでは、既に登録しているイベントを保護するため新しいイベントが登録できないようになっている。

オグジュアリー [オックス] (Auxiliary, AUX)
補助ソース。編集システムではコントローラが直接制御していない映像または音声ソースをいう。一般的には、カメラやマイク等を用いる。

オフライン編集 (Off Line Editing)
本編集の前に、オリジナルからコピーしたテープなどを用いて行う、仮編集のこと。その目的は、オリジナルテープのダメージを避けることと、時間がかかる編集データ (E D L) の作成作業をローコストのシステムで行い、本編集にかかるコストを抑えることにある。

オンライン編集 (On Line Editing)
オリジナル素材から実際に編集 (記録) してマスターテープを作製する本編集のこと。オフライン編集で作製した編集データ (E D L) を取り込んで行うこともある。

カ行

カット編集 (Cut Editing)
プレーヤー V T R や補助ソースから、1つの信号をエフェクトなし (単につなぐ) でレコーダー V T R に記録する編集をいう。

カラーバー信号 (Color Bar Signal)
モニターの色相や彩度を調整するテスト信号。

カラーフレーム (Color frame)
N T S C 信号ではカラーサブキャリアの位相が1フレームごとに180°反転しているため、水平同期との位相関係は2フレーム (4フィールド) で一巡する。P A L 信号では1フレームごとに90°回転しているため、4フレーム (8フィールド) で一巡する。この連続性を保つためには、2フレーム (P A L では4フレーム) を一組としてまとめて取り扱う必要があり、これをカラーフレームという。また、編集などでカラーフレームを崩さないようにすることをカラーフレームミングという。カラーフレームミングを無視して編集すると編集点で映像がビクついたり (Hシフト)、P A L 信号では、映像がフラッシュしたりする。

G O T O
編集点や任意点の頭出しをワンタッチで行う機能をいう。

コントロール信号 (Control Signal, CTL)
テープの長手方向にヘッドドラムの回転位相を基に記録されるパルス信号で、サーボ系の基準信号になる。T C / C T L ボタンで C T L にしたとき、この信号をカウントした時間が表示される。

サ行

サーボロック (ServoLock)
V T R の再生時、サーボ系が安定し、良好な映像・音声得られた状態をいう。編集システムでは、外部基準信号にフレーム同期した状態になる。

編集用語集

C F ロック (Color Frame Lock)
VTRの再生時、外部基準信号に再生信号がカラーフレーム同期した状態をいう。

G P I (Genel Purpose Interface)
外部機器を制御するための汎用性のあるインターフェイスの1つ。あらかじめ決めた再生スタートや信号の切り換えなどといった単機能を、オン・オフトリガー（起動）信号を出力して制御する。

シンクロロール編集 (Sync Roll Editing)
複数のカメラで同時収録されたテープを素材に、複数のプレーヤーでタイムコードを基準に同期再生して行う編集をいう。また特に、再生しながらソースの切り換えのみでシーンを決める編集をオンザフライ編集という。スポーツやイベントなどの編集で多く用いられる。

スプリット編集 (Split Editing)
ビデオとオーディオの切替タイミングをずらした編集を一度に行う機能をいう。また特に、ビデオを基準にオーディオをずらす場合、オーディオスプリット編集という。

スタンバイオフ (Stand By Off)
テープ保護のため、テープテンションをゆるめたり、ヘッドドラムを停止したモードになることをいう。一般的に、良好な静止画像は得られない。

スレーブ (Slave)
編集システムでは、マスターに従うVTRやテープをいう。AG-A850では、つねにレコーダーVTRをマスターとしており、スレーブ設定されたプレーヤーVTRは、編集時レコーダーVTRと同じ動作をするため、複数のVTRに同時に記録することができる。

スロー編集 (Slow Editing)
プレーヤーVTRをスロー再生させて行う編集をいう。VTRにAT機構や、デジタルスロー再生機能がないと、良好な映像は得られない。

SECAM
カラーテレビジョン方式の1つで、1秒間は25フレームで構成される。フランスや旧ソビエト、東欧諸国などで採用されている。

ソース (Source)
編集のために用いる、映像や音声素材の総称。また、素材を再生するプレーヤーVTR等の機器を示す場合もある。

ダンプ (Dump)
AG-A850では、RS-232C端子を介して、編集データ(EDL)を外部機器に転送することをいう。

調相 (Synchronization)
編集時、プレーヤーVTRとレコーダーVTRの編集IN点が一致するように、プリロール位置から、編集IN点まで走行する間に再生速度を調整する動作をいう。

テイク (Take)
ビデオスイッチャーなどで、映像の切り換えを行うこと。

ディゾルブ (Dissolve)
映像をオーバーラップさせて切り換える効果をいう。前の映像が薄れていく中に後の映像が徐々に浮かび上がってくる。

デュレーション (Duration, DUR)
デュレーションタイムの略称。プレーヤーそれぞれ再生時間の長さや、1イベントの長さ、編集区間全体の長さなどを示す。

同ボジ編集 (Match Frame Editing)
同一のシーンを複数のイベントに分けて編集を行うとき、イベントを分けた箇所、シーンの連続性が保たれ、違和感のない映像を得る編集をいう。カラーフレームを合わせることが必要である。

トランジション (Transition, TRANS)
トランジションタイムの略称。ワイプ、ディゾルブ等の効果において、効果の開始から終了までの長さをいう。

トリミング (Trimming, TRIM)
編集点を設定した後に修正すること。プレビューした結果を見て、元の編集点を前後に少しずつ動かすときなどに行う。

ドロップフレームモード (Drop Frame Mode, DF)
NTSC信号は、1秒は正確には29.97フレームで構成されるため、30フレームを1秒として計算するタイムコードと実際の時間とのずれが生じる。これを補正するモードをドロップフレームモードという。ドロップフレームモードでは、0、10、20、30、40、50分を除く毎正分の開始から、0.1フレームをカットしない(1時間当たり108フレーム)ことにより修正を行う。なお、PAL/SECAM信号には、実際の時間とのずれがないため、ドロップフレームは必要ない。

ナ行

ノンドロップフレームモード (Non-Drop Frame Mode, NDF)
ドロップフレームの修正を行わないタイムコードの動作モード。フルフレームモードともいう。

ハ行

パターン (Pattern)
ワイプパターンの略称。

PAL
カラーテレビジョン方式の1つで、1秒間は25フレームで構成される。ヨーロッパ諸国や中国などで採用されている。

夕行

タイムコード (Time Code)
編集を正確に行うために、テープ上に記録する時・分・秒・フレーム単位の絶対アドレスで、“TC”と表記されることが多い。NTSC信号では、SMPTEが推奨する信号形式：SMPTEタイムコードが、PAL/SACAM信号ではEBUタイムコードが一般的に用いられている。記録する場所（トラック）の違いによってLTCとVITCがある。

ターミネーション (Termination)
映像機器や音声機器の入力回路に、規定された抵抗値の負荷抵抗を接続すること。映像機器では、75Ωを用いることが多い。接続しないと信号レベルが約2倍となるだけでなくリンギングやゴーストが発生する。

編集用語集

ファーストエディット (1st. Editing)

アッセンブル編集に先立って、レコーダーの生テープの始端に、数十秒のリファレンス(ブラックバースト)信号を記録すること。手動でも行えるが、AG-A850はこれを自動化したモードが備わっている。

V I T C (Vertical Interval Time Code)

映像信号の垂直ブランキング期間に記録するタイムコード。超低速スローやスチルでも正確に読みとることができる。一方、高速走行のサーチなどでは、読みとれないためLTCと併用して使用されることが多い。

フィールド (Field)

画像の走査を行う単位。通常ビデオ信号は、第1フィールドと第2フィールドの2回画像走査を行ない1つの画像(フレーム)を作る。

フォーマット (Formatting)

テープにタイムコードとコントロール信号を記録して編集用のテープをつくること。生テープにインサート編集するときは、編集の前には必ず行う必要がある。

ブラックバースト信号 (Black Burst Signal, BB)

バースト信号と同期信号が合成された信号で、編集システム内でのリファレンス信号(Ref Video)として使用する。

フリーラン (Free Run)

タイムコードの動作モードの一つ。VTRの記録・停止に関係なくカウントが進んでいく方式。

プリロール (Preroll)

編集時の調相動作と、テープ走行を安定させるため、編集IN点から一定時間分巻き戻して置くこと。VTRの機種や編集手法によって調相などに要する時間は異なるので、プリロール時間は3秒から30秒程度までいろいろある。

プレビュー (Preview)

編集のリハーサル再生。編集点や効果などを設定したあと、実際には編集(記録)を行わずに、編集時と同じように信号切り換えを行うことで、編集のシミュレーションができる。これを行うことによって、編集点や効果をチェックする。

フレーム (Frame)

1つの画面を構成する単位。1フィールドはさらに、第1フィールドと第2フィールドに分けられる。通常、編集コントローラーで行う編集の最少単位となる。

編集モード (Edit Mode)

アッセンブル編集やインサート編集といった、レコーダーVTRの記録モード。

ポストロール (Postroll)

編集のとき、編集OUT点以降の映像・音声を再生して確認できるように、編集OUT点から一定時間分そのままテープを走行させること。

マ・ヤ行

マークイン/マークアウト (Mark in/Mark out)

編集点を設定するための操作(ボタン)の一つ。VTRを再生中、または頭出しをした状態で[MARK IN]または[MARK OUT]ボタンを押すとその地点が編集IN点または編集OUT点として設定される。

ユーザーズビット (User's Bit ,UB)

SMPTE/EBUタイムコードのデータ長は80ビットあるが、このうちテープの位置情報以外に、ユーザーが自由に使用できるエリアが、32ビット設けられている。これをユーザーズビットといい、任意の番号(A~Fのアルファベットと数字)を8桁つけることができる。ロール番号、制御コマンド、そのほかの情報などに利用される。

ラ・ワ行

リジエネ (Regen)

編集時のタイムコードの連続性を保つために、編集済みの終端タイムコードを読みとり、編集開始時に自動的に連続させて記録する機能。ファーストエディットやTCインサート編集では、任意のタイムコードから記録させるために、この機能は働かないようになっている。

リップル (Ripple)

マルチイベント編集において、あるイベントのレコーダーの編集点を修正すると、その後のイベントの編集点を、同様に修正しなければならないことがある。この修正を行う処理またはその機能をリップルという。AG-A850ではリストマネージメント機能の1つとしてサポートしている。

リトライ (Retry)

自動編集またはプレビューを行った際、編集データどおりにVTRが動作しなかったとき、自動的に再度繰り返す機能。一般的には調相ミスが発生したとき行う。

リファレンス信号 (Ref Video)

複数の映像機器の同期をとるために用いる基準信号。一般に同期信号発生器(SG)からのブラックバースト(BB)信号を用いて、カメラのゲンロック端子、VTR、ビデオスイッチャー、編集コントローラー等のREF IN / OUT 端子に接続する。

レックラン (Rec Run)

タイムコードの動作モードの一つ。VTRが記録中のみタイムコードのカウントが進んでいく方式

レビュー (Review)

自動編集を行ったあとに、編集結果を自動再生して確かめる機能。

ロード (Load)

AG-A850では、RS-232C端子を介して、編集データ(EDL)を外部機器から読み込むことをいう。

ロム (Read Only Memory, ROM)

読みとり専用のメモリー用ICのこと。AG-A850では、ロムにプログラムを記録しており、これを交換しプログラムを更新することで、機能アップや接続する機器を拡張することができるようになっている。

ワイブ (Wipe)

映像をぬぐい去るように次の映像が現れる効果をいう。ホリゾンタル、バーチカル、コーナー、サークルなど様々な形のワイブがあり、これをワイブパターンという。

お問い合わせになる前に

セットアップの変更について

ここでは、ここでは、2つの例をあげ実際の操作方法を説明します。AG-A850のMONITOR OUTにモニターテレビを接続し、下記のように操作を行ってください。

設 定	操 作 手 順
簡易操作モードにする	<ol style="list-style-type: none">1) [SHIFT] ボタンを押しながら [7] ボタンを押します。 SET UP メニューがモニター画面に表示されます。2) [ENTER] ボタンを押します。 モニター画面の一番上に SYSTEM CONTROL と表示されます。3) [ENTER] ボタンを押します。 FUNCTION にあるカーソル (反転している文字) が右に移動します。4) カーソルのある位置の文字が LIMITED と表示されるまで、数回 [+] ボタンを押します。5) [ENTER] ボタンを押します。 カーソルが左に移動し、FUNCTION が反転して表示されます。6) [SHIFT] ボタンを押しながら [ENTER] ボタンを2回押します。 SET UP メニューを終了し、簡易操作モードになります。
マルチレコーダー編集システムに設定する	<p>編集時 PLAYER-3, PLAYER-4 も同時に記録するマルチレコーダー編集に設定するには、PLAYER-3 を RS-422 端子の PORT-D へ、PLAYER-4 を PORT-E に接続します。</p> <ol style="list-style-type: none">1) [SHIFT] ボタンを押しながら [7] ボタンを押します。 SET UP メニューがモニター画面に表示されます。2) [+] ボタンを押します。 FUNCTION にあるカーソル (反転している文字) が下に移動し、PORT/CROSSPOINT が反転して表示されます。3) [ENTER] ボタンを押します。 モニター画面の一番上に PORT/CROSSPOINT と表示されます。4) [ENTER] ボタンを押します。 モニター画面の一番上に PORT STATUS と表示されます。5) [+] ボタンを3回押します。 PORT-A にあるカーソルが PORT-D に移動します。6) [ENTER] ボタンを押します。 PORT-D にあるカーソルが右に移動します。7) カーソルのある位置の文字が P3 (SLAVE) と表示されるまで、数回 [+] ボタンを押します。8) [ENTER] ボタンを押します。 カーソルが左に移動し、PORT-D が反転して表示されます。9) [+] ボタンを押します。 PORT-D にあるカーソルが PORT-E に移動します。10) [ENTER] ボタンを押します。 PORT-E にあるカーソルが右に移動します。11) カーソルのある位置の文字が P4 (SLAVE) と表示されるまで、数回 [+] ボタンを押します。12) [ENTER] ボタンを押します。 カーソルが左に移動し、PORT-E が反転して表示されます。13) [SHIFT] ボタンを押しながら [ENTER] ボタンを3回押します。 SET UP メニューを終了し、マルチレコーダー編集システムになります。

お問い合わせになる前に

故障かな?…と思うときは (トラブルシューティング)

下記の項目を点検していただき、それでもなお異常のあるときは販売店にご相談ください。

症 状	処 方
<ul style="list-style-type: none"> ・VTR が動かない ・タイム表示が点灯しない 	<ul style="list-style-type: none"> ・ REF VIDEO IN 端子に不正規な信号が入力されていませんか？ TBC がない VTR の出力信号は、接続しないでください。また、正規な信号がないときは、REF VIDEO IN 端子には何も接続せずに、SYNC GRADE を OFF にして編集を行ってください。 ・ VTR の CONTROL スイッチを REMOTE (9P) にしてください。 ・ VTR にカセットが入っていますか？ ・ AG-A850 と VTR との接続 (9P リモートコントロールケーブル) を確認してください。 ・ SET UP の PORT STATUS で VTR を接続している PORT が NONE, SW'ER, MIXER のいずれかの設定になっているときは、R または、P1 ~ P4, P1 (SLAVE) ~ P4 (SLAVE) の設定にしてください。
<ul style="list-style-type: none"> ・タイム表示が変化しない 	<ul style="list-style-type: none"> ・ テープに CTL 信号が記録されていますか？ ・ タイムコードを扱えない VTR では CTL で編集してください。 ・ VITC を扱えない VTR (UVW-1800 など) では CONFIG メニューの TC SOURCE を LTC にしてください。 ・ S-VHS でオーディオ ch2 を LTC にしていないときは、CONFIG メニューの TC SOURCE を VITC にしてください。
<ul style="list-style-type: none"> ・記録ができない 	<ul style="list-style-type: none"> ・ カセットが記録禁止状態になっていないか確認してください。 ・ レコーダー VTR に再生専用機 (AJ-D640 など) を使用していませんか？ ・ VTR 側で REC INHIBIT が ON になっていませんか？ ・ レコーダー VTR の INPUT スイッチは正しく設定されていますか？ ・ レコーダー VTR の SERVO LOCK ランプは点灯していますか？
<ul style="list-style-type: none"> ・編集動作に入らない 	<ul style="list-style-type: none"> ・ アッセンブル編集をするときは、ファーストエディットなどを行い編集 IN 点の前後 に記録部分が必要です。 ・ タイムコードが不連続になっているときは、CTL で編集するかタイムコードを記録しなおしてください。 ・ SET UP MENU の “CF REF.” を TIME CODE に設定し、カラーフレーミング編集を行うときは、ビデオ信号とタイムコードのカラーフレーム位相差を CONFIG で設定してください。
<ul style="list-style-type: none"> ・編集リトライを繰り返して編集ができない 	<ul style="list-style-type: none"> ・ SYNC GRADE を OFF 以外に設定して編集を行うときは、必ず AG-A850 の REF VIDEO IN 端子に、外部基準信号 (ブラックバースト信号) を入力してください。 カット編集システムでは、同期信号発生機の代わりにプレーヤー VTR のビデオ出力信号で代用することもできます。(編集に入りにくいときは、プリロール時間を長くしてください。調相時に同期信号が乱れる VTR では、同期信号発生機の代用ができないことがあります。)
<ul style="list-style-type: none"> ・編集点がずれる 	<ul style="list-style-type: none"> ・ AG-A850 の REF VIDEO IN 端子に外部基準信号 (ブラックバースト信号) を入力し、SYNC GRADE を ACCURATE に設定して編集を行ってください。 ・ VTR 側の 9P DEVICE TYPE 設定をオリジナル ID (付録 D 「VTR・スイッチャーの設定」を参照) にしてください。 ・ CTL での編集では、VTR の性能により 2 フレーム程度編集点がずれることがあります。 ・ プレーヤー VTR とレコーダー VTR の間に、フレームシンクロナイザーを内蔵するビデオスイッチャーなどを接続しているときは、機器に応じた遅延フレームを、AG-A850 の SET UP MENU “DVE DELAY” で設定してください。 ・ スロー編集では調相動作を行いませんので、編集精度は悪くなります。 ・ VTR によっては、編集点がわずかにずれることがあります。編集点を前もって補正してから編集を行ってください。

お問い合わせになる前に

故障かな?…と思うときは (トラブルシューティング)

下記の項目を点検していただき、それでもなお異常のあるときは販売店にご相談ください。

症 状	処 方
・編集した画面に横縞がでる	・スロー再生機能 (AT) がないVTRでスロー編集をすると、正常な映像を記録できません。
・再生が不安定	<ul style="list-style-type: none"> ・VTRやスイッチャーに入力している外部基準信号に、適切な信号 (ブラックバースト信号など) を入力してください。 ・TBCを持たないプレーヤーVTRを使ったシステムで、レコーダーVTRの基準信号をビデオ入力にしているときは、プレーヤーVTRを標準再生以外 (SHTL/JOG 操作やGOTOなど) にすると、レコーダーVTRの再生画像が乱れることがあります。
・マルチレコーダー編集を行ったとき、レコーダーVTRとスレーブVTRとで、編集点が異なる。	<ul style="list-style-type: none"> ・カラーフレーミング編集を行うときに、“CF REF.”をALL VTRまたは、R ONLYに設定すると、編集点がずれることがあります。 ・カラーフレーミング編集を行うときに、“CF REF.”をTIME CODEに設定していても、レコーダーVTRとスレーブVTRの機種が異なるときや、映像とタイムコードの位相が合っていないと、編集点がずれることがあります。 ・カラーフレーミング編集ができないVTR [S-VHS (NTSC) など] を使用して、マルチレコーダー編集を行うときは、SET UP MENU “COLOR FRAMING” をOFFにしてください。
・ファーストエディット時、CF位相が合わない。	<ul style="list-style-type: none"> ・S-VHS (PAL) は、カラーフレーム位相を合わせることができません。SET UP MENUの“CF REF.”をTIME CODEに設定しないでください。 ・S-VHS (NTSC) やAU-650 (M II) は、CFロックができないため、カラーフレーム位相を合わせることができません。 ・他社のVTRを使用してファーストエディットを行うときは、カラーフレーム位相が合わないことがあります。VTRに位相を合わせる機能があるときは、VTR自身の操作でファーストエディット (フォーマット) を行ってください。
・ビデオスイッチャーが動かない	<ul style="list-style-type: none"> ・ビデオスイッチャーの内部設定はされていますか？ (スイッチャーのマニュアルまたは、「付録D VTR・スイッチャーの設定」を参照) ・AG-A850とビデオスイッチャーとの接続 (9Pリモートコントロールケーブル) を確認してください。 ・EDITOR ENABLEスイッチがあるときは、ENABLEに設定してください。 ・SET UPのPORT STATUSで、ビデオスイッチャーを接続しているPORTがSW'ERになっていますか？ ・SET UPのSW'ER MODELは、使用している機種と一致していますか？ ・ビデオスイッチャーの電源を先に入れた後、AG-A850の電源を入れてみてください。
・ワイプ番号が設定できない	・ビデオスイッチャーにGVG100/110やVPS-300を接続しているとき、ワイプ番号“0”のパターンを選択するには、“0”のかわりに“256”と設定してください。
・オーディオミキサーが動かない	<ul style="list-style-type: none"> ・オーディオミキサーの内部設定はされていますか？ (ミキサーのマニュアルを参照) ・AG-A850とオーディオミキサーとの接続 (9Pリモートコントロールケーブル) を確認してください。 ・EDITOR ENABLEスイッチがあるときは、ENABLEに設定してください。 ・オーディオミキサーにも、外部基準信号を入力しないと動作しない機種があります。 ・SET UPのPORT STATUSで、オーディオミキサーを接続しているPORTがMIXERになっていますか？ ・SET UPのMIXER MODELは、使用している機種と一致していますか？

お問い合わせになる前に

故障かな?…と思うときは (トラブルシューティング)

下記の項目を点検していただき、それでもなお異常のあるときは販売店にご相談ください。

症 状	処 方
・違う画像が出る ・画像が出ない	<ul style="list-style-type: none"> ・映像ケーブルを確認してください。 ・SET UPのSW'ER CROSSPOINTは、正しく設定されていますか？ ・ビデオスイッチャー及び、レコーダーVTRのINPUTスイッチは、正しく設定されていますか？
・違う音声が出る ・音が出ない	<ul style="list-style-type: none"> ・音声ケーブルを確認してください。 ・SET UPのMIXER CROSSPOINTは、正しく設定されていますか？ ・オーディオミキサーまたは、スピーカーの音量を絞っていませんか？ ・オーディオミキサー及び、レコーダーVTRのINPUTスイッチは、正しく設定されていますか？
・正常に起動しない	<ul style="list-style-type: none"> ・LOAD機能を使って、異常なSETUPデータを読み込んだりすると、AG-A850が正常に起動しなくなることがあります。当社サービス窓口へご相談ください。

補足説明

項 目	内 容
・SET UP MENU "FUNCTION" の SPECIAL について	<ul style="list-style-type: none"> ・ SINGLE DIAL モードに以下の機能を追加したモードです。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 編集終了時、OUT 点の頭出しをしません。 2. 編集終了後、すぐにレコーダーVTRの操作ができるようにします。 3. ニューイベント編集終了時、簡易クリーンアップを行います。 (レコーダーの編集IN点が前イベントの編集区間内にあるとき、自動的に前イベントの編集OUT点をIN点と同じ値に修正します。) [注意] 前イベントがA/Bロール編集やスロー編集など、単純なカット編集でないときは、クリーンアップを行いません。また、OUT側のスプリット点など、一部データを取り消すことがあります。
・SET UP MENU "COLOR FRAMING" について	<ul style="list-style-type: none"> ・ ご使用になるVTRにより、カラーフレーミング編集に制限があります。 カラーフレーミング編集ができないVTR <ul style="list-style-type: none"> ・ S-VHS (NTSC) ・ 一部のS-VHS (PAL) [AG-7700, AG-7600] ・ 一部のM II (NTSC) [AU-650] カラーフレーミング編集に制限があるVTR <ul style="list-style-type: none"> 8 FIELDのカラーフレーミング編集はできません。また、カラーフレーミング位相を合わせることはできませんので、“CF REF.”はALL VTRまたは、R ONLYに設定してください。 ・ S-VHS (PAL) [AG-7700, AG-7600を除く] カラーフレーミング編集ができるVTR <ul style="list-style-type: none"> ・ M II (AU-650を除く) ・ DVCPRO ・ D3、D5など。

索引

ーあー

頭出し 11, **39**, 73, 86
アッセンブル編集 10, 23, **24**, 26, 73, 86
イベント 6, 10, 30, **41**, 42, 75, 79, 86
インサート編集 10, 23, 26, **27**, 73, 86
エラー 12, **46**, 57, 70, 79
オーディオスプリット編集
..... 10, 16, 23, **34**, 72, 76, 87
オートタグ 43, 58, **86**
オープンエンド編集 13, **30**

ーかー

カット編集 18, **24**~**26**, 86
カラーフレーミング編集 15, **56**, 82, 86, 92
簡易操作モード 9~12, 18, 22, **24**, 56, 89
警告 70, **81**
コレクト機能 12, 41, **43**, 78

ーさー

自動編集 11, **26**, **28**, 74
手動記録 38, 43, **72**, 78
初期スピード **32**, 76
初期設定 セットアップ
シンクロール編集 23, **31**, 76, 87
スプリット編集 オーディオスプリット編集
スレーブ設定 マルチレコーダー編集
スロー編集 10, 23, **32**, **33**, 76, 87
セットアップ
CONFIG モード **45**, 71, 78
SET UP モード **44**, **45**, 55~70, 78

ーたー

タイムトラック 12, **43**, 78
ダンプ 編集データ/転送
調相精度 編集精度
ディゾルブ 14, **28**, 75, 87
デュレーション 25, **39**, **40**, 74, 87
特殊効果 26, **28**
トータルタイム 10, **42**, 57, 74
トランジション 10, 14, **28**, 75, 87
トリミング **40**, 79, 87
ドロップフレームモード 15, 56, **87**

ーなー

ニューイベント 30, 41, **42**, 49, 50
ノンドロップフレームモード 15, 56, **87**

ーはー

パークアンドエディット 13, **31**
パターン 10, 14, **28**, 75, 87, 91
標準操作モード 22, **56**
ファーストエディット 24, **38**, 73, 88, 91
フォーマッティング 24, **38**, 88
プリロール **26**, 28, 57, 88
プレビュー 11, **26**, 28, 73, 88
編集 11, **26**, **28**
編集精度 8, 32, 64, 79
表示切換 12, **46**

編集データ

移動 48, **50**
確認 **39**
コピー 48, **50**
削除 48, **49**
修正 **40**
消去 **47**, 48, **49**
設定 **25**, **27**, 72, 74
挿入 48, **49**
転送 12, **52**, 78
登録 **41**, 43, 78
取り消し **40**, 79
取り込み 12, **52**, 78
ラインアップ 48, **50**
リナンバー 48, **50**
呼び出し 30, **41**, 75

編集点 (IN点、OUT点)

..... 10, 13, 16, 17, **25**, 39, 40
編集モード 10, 14, 17, **24**, **27**, 73, 88
ポストロール **26**, 28, 57, 88

ーまー

マークイン/マークアウト 9, **25**, 72, 88
マークスピード **32**, 76
マークスプリット **34**, 76
マークGPI **36**, 77
マルチイベント編集 11, **30**, 74
マルチレコーダー編集 20, 23, **29**, 59, 89, 91

ーやー

ユーザズビット 57, **88**

ーらー

リストマネージメント **48**, 51, 78
リップル処理 41, 43, 47, 49, 50, **51**, 88
レビュー 11, **26**, 73, 88
連続自動編集 マルチイベント編集
ロード 編集データ/取り込み

ーわー

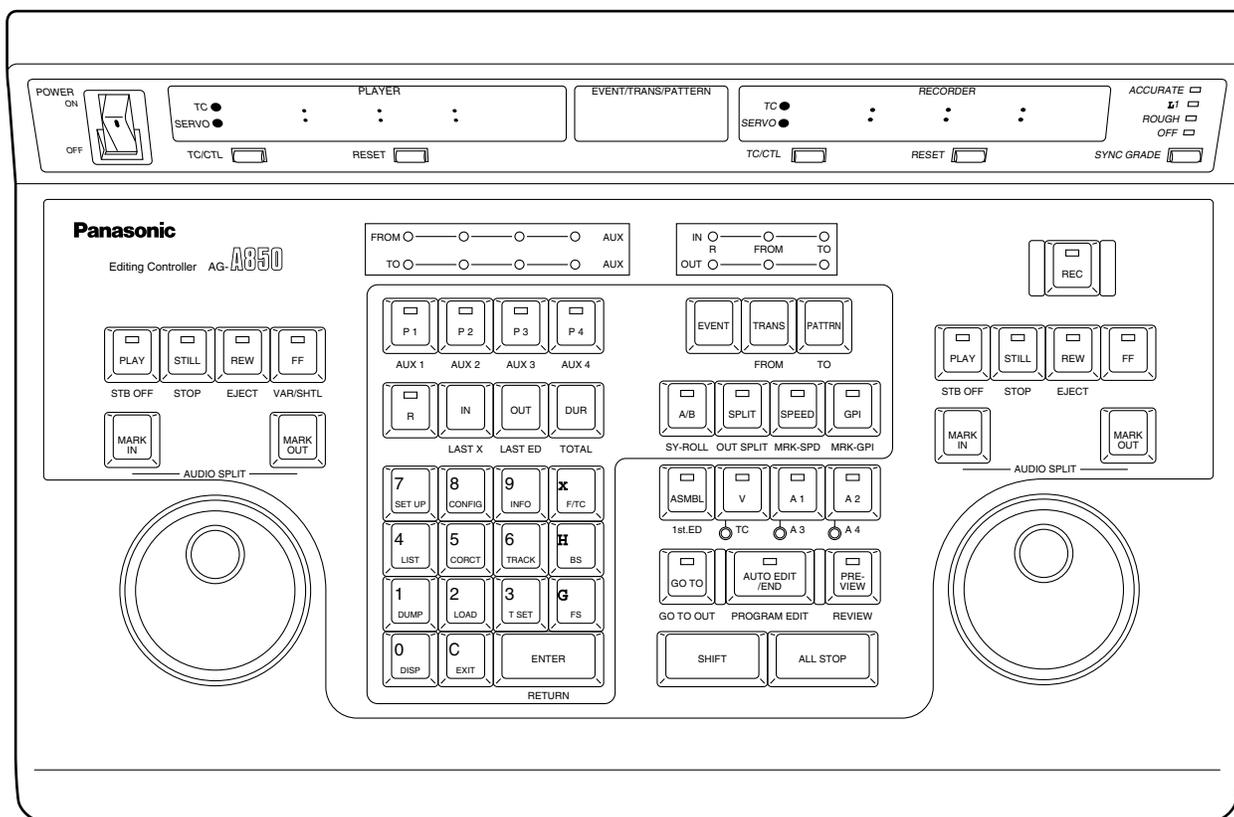
ワイブ 14, **28**, 75, 88

ーA~Zー

AUX 9, 13, 24, 27, **33**, 40, 59, 72, 86
A/Bロール編集 10, 19, 23, **27**, **28**, 76, 86
CF編集 カラーフレーミング編集
EDL 編集データ
EDLフォーマット 52, **53**, **54**, 58, 78
EDLメモリー 41, **42**, 43
GO TO 頭出し
GPI
イベントごとの設定 10, 16, **36**, 77
全イベントでの設定 **62**, 87
LAP **39**, 74
LAST ED 10, **42**, 74
LAST X 10, **42**, 74
Rマーク 48, **51**, 57
RS-232C 13, 52, 53, 58, 69, **95**
TCインサート編集 12, **38**, 43, 73, 78

■操作部

この操作部を開いたままで操作説明のページを読むと便利です。



アフターサービスについて

1. 保証書—内容のご確認と保存のお願い

保証書は、必ず「お買い上げ日・販売店名」等の記入を確かめてお買い上げの販売店から受け取っていただき、内容をよくお読みの後、大切に保管してください。

2. 保証期間—1 年

取扱説明書及び本体貼付ラベル等の注意事項に従った正常なご使用状態で、保証期間内に万一故障を生じた場合には、保証書記載事項に基づき販売店で「無償修理」させていただきます。

補償期間内でも次の場合には原則として有料とさせていただきます。

- (イ) 使用上の誤り及び不当な修理や改造による故障及び損傷
- (ロ) お買い上げの後の取付場所の移転、輸送、落下等による故障及び損傷
- (ハ) 火災、地震、水害、落雷、その他天災地変及び公害、塩害、ガス害、(硫化ガスなど)、異常電圧、指定外の使用電圧(電圧、周波数)などによる故障及び損傷
- (ニ) その他指定外の使用条件で使用された場合に生じた故障および損傷
- (ホ) 他の接続機器及び接続部材に起因して生じた故障及び損傷

3. 補修用性能部品の最低保有期間

本機の補修用性能部品(機能維持のために必要な部品)の最低保有期間は、製造打ち切り後約8年です。

4. 修理を依頼される前に

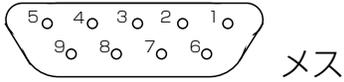
この取扱説明書をよくお読みの上、以上のあるときは、必ず電源プラグを抜いてから、販売店にお申し付けください。

5. ご転居・定期保守サービス等ご不明な点は、お買い上げの販売店にご相談ください。

コネクター信号について

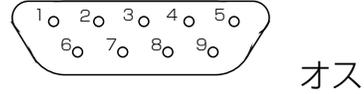
GPI 端子または RS-232C 端子を結線する場合、ケーブルの芯線と端子のピンがそれぞれ正しく対応するように結線してください。また、ケーブルはシールド線を使用し、シールドはプラグケースに接続してください。

RS-422 端子



ピン番号	信号内容
1	GND
2	RECEIVEA
3	TRANSMITB
4	TRANSMITCOMMO
5	NSPARE
6	RECEIVE COMMON
7	RECEIVE B
8	TRANSMITA
9	GND

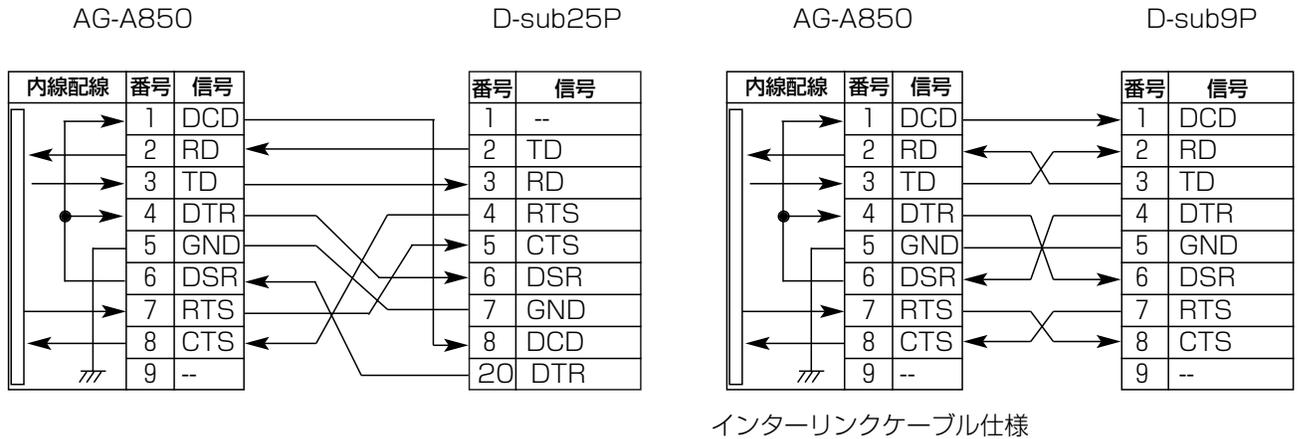
RS-232C 端子



ピン番号	信号内容
1	DCD
2	RD
3	TD
4	DTR
5	GND
6	DSR
7	RTS
8	CTS
9	--

外部機器との接続 (RS-232C 推奨結線)

AG-A850 では、次の図の結線をおすすめしますが、外部機器 (パーソナルコンピューターなど) の仕様により、これ以外にもいくつかの方法があります。



定格

一般

電源 : AC100V 50/60Hz
消費電力 : 9W

は安全項目。

	許容周囲温度	: 5℃～40℃
	許容周囲湿度	: 35%～80%
	外形寸法	: 424 (幅) × 107 (高さ) × 279 (奥行) mm
	重量	: 3.2kg (本体のみ、ケーブル等含まず)
編集機能	方式	: マイクロコンピュータ
	メモリー容量	: 512 イベント
	編集モード	: ビデオ、オーディオ1、オーディオ2、オーディオ3、オーディオ4のインサート/アッセンブル編集、カット編集、A/Bロール編集、オーディオスプリット編集、カラーフレーム編集、スローモーション編集
	編集リファレンス	: CTL、SMPTE タイムコード、VITC
	編集精度	: ±0 フレーム (スローモーション編集を除く、タイムコード編集時)
コネクタ部	RS-422 端子	: 9P × 6
	RS-232C 端子	: 9P × 2 (内予備 × 1)
	GPI 端子	: ピンジャック × 2 TTLレベル出力 [LOW: 0～0.5V (10mA) HIGH: 3.0～5V (-1mA)]
	MONITOR IN 端子	: BNC × 1 (コンポジットビデオ信号 1.0 Vp-p ±0.2 Vp-p 75 Ω)
	MONITOR OUT 端子	: BNC × 1 (コンポジットビデオ信号 1.0 Vp-p ±0.2 Vp-p 75 Ω)
	REF VIDEO IN 端子	: BNC × 1、75 Ω ON/OFF (コンポジットビデオ信号 1.0 Vp-p ±0.2 Vp-p 75 Ω) (MONITOR IN/OUT 端子、REF VIDEO IN 端子 のテレビジョン方式は、内部設定で NTSC/PAL 変更可能)
制御系	接続可能VTR台数	: 5台 (内 RECORDER: 1～3台)
	接続可能VTR	: 9Pリモートコネクタを持つVTRなど
	M II	: AU-W35H/W33H/W32H/66H/65(H)/63(H)/62(H)/665/660/650/640/630/620 シリーズ
	S-VHS	: AG-DS850/DS840/DS555/DS545/DS550/DS540/7750(H)/7650(H)
	DVCPRO	: AJ-D750/D650/D640/LT75
	D-5	: AJ-D580
	D-3	: AJ-D350/D351/D360
	DISK	: LQ-D5500 (機種により、編集精度やスローモーション編集など編集機能に、制限を受けることがあります。) (その他の対応可能機種については、販売店にご相談ください。)
	接続可能スイッチャー	: 9Pリモートコネクタを持つビデオスイッチャーなど WJ-MX50, GVG-100/110 (その他の対応可能機種については、販売店にご相談ください。)
	接続可能ミキサー	: 9Pリモートコネクタを持つオーディオミキサーなど PAM300, D/ESAM200, 03D+03DVEK (その他の対応可能機種については、販売店にご相談ください。)
	付属品	: 電源コード …………… 1本
	別売品	: 9Pリモートコントロールケーブル …… AU-C5 (5m)

本マニュアルで記載した会社名や製品名は、各社の商標または登録商標です。

松下電器産業株式会社 システム事業グループ

☎ 571-8503 大阪府門真市松葉町2番15号 ☎ (06) 6901-1161